

K-741

河原田遺跡

梅野木前2遺跡

発掘調査報告書

2004

山形市嶋土地区画整理組合

山形市教育委員会

かわら だ い せき
河原田遺跡

うめ の き ま え い せき
梅野木前2遺跡

発掘調査報告書

平成16年3月

山形市嶋土地区画整理組合
山形市教育委員会



弥生土器



SK5 出土勾玉

序

本書は、山形市教育委員会が平成11年度と13年度に発掘調査を実施した、河原田遺跡及び梅野木前2遺跡の調査成果をまとめたものです。

山形市北部の嶋地区には、国指定史跡「嶋遺跡」がありますが、現在同地区において土地区画整理事業が行われております。河原田遺跡及び梅野木前2遺跡もこの事業地内に所在しており、工事に先立ち記録保存を目的とした発掘調査を実施いたしました。

河原田遺跡の調査では、3棟の住居跡や6基の墓跡などが検出され、県内でも希少な弥生時代中期の集落の姿が明らかになりました。特に6基の墓跡のうち5基が木棺墓で、そのなかでも樹皮を用いた木棺墓は、これまでに調査例がない貴重な遺構であります。また奈良から平安時代の土器も多数出土し、多くの墨書土器が確認されています。

梅野木前2遺跡の調査では、古墳時代中期の打込み柱の建物跡を検出し、同時期の土器群が出土しました。嶋遺跡が営まれる直前頃の集落で、出土した土器群の中には関東地方から流入したと思われるものが含まれており、当時の人々の動きがうかがわれます。

山形市内には、これまで約300ヶ所の遺跡が確認されており、これらは郷土の歴史や文化を正しく理解する上で欠くことのできない市民共有の財産となっております。本市教育委員会では、今後とも開発事業との調整をはかりながら、埋蔵文化財の保護に一層努めてまいります。

本書が、埋蔵文化財の保護啓蒙のために、また皆様の郷土史探求の一助としてご活用いただければ、誠に幸いです。

最後になりましたが、調査において多大なご理解とご協力をいただきました嶋土地区画整理組合及び調査をお手伝いいただいた作業員の皆様、並びに関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成16年3月

山形市教育委員会
教育長 大場 登

例 言

- 1 本書は、山形市嶋土地区画整理事業に係る「河原田遺跡」及び「梅野木前2遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 調査要項は下記の通りである。

遺跡名	河原田遺跡（かわらだいせき） 梅野木前2遺跡（うめのきまえ2いせき）		
所在地	山形市河原田（河原田遺跡） 山形市梅野木前（梅野木前2遺跡）		
調査期間	平成11年10月26日～平成11年12月17日及び 平成12年3月6日～平成12年4月7日（河原田遺跡） 平成13年10月3日～平成13年12月4日（梅野木前2遺跡）		
調査面積	1,400㎡（河原田遺跡） 1,000㎡（梅野木前2遺跡）		
調査主体	山形市嶋土地区画整理組合		
調査機関	山形市教育委員会		
調査担当者	平成11年度（河原田遺跡） 文 化 課 課 長 富田 博 課長補佐 工藤義夫 文化財係長 江川 隆 主 事 武田和宏 主 事 五十嵐貴久 主 事 渡辺 薫 主 事 斉藤 仁 主 事 須藤英之 主 事 園井 修 臨時職員 高橋 拓 臨時職員 石山公亮 臨時職員 岩井良太（平成12年度） 平成13年度（梅野木前2遺跡） 社会教育課 課 長 柳橋幸男 課長補佐 金子義則 文化財係長 江川 隆 主 事 武田和宏 主 事 須藤英之 臨時職員 岩井良太		

- 3 各種自然科学分析については、(株)古環境研究所に依頼した。
- 4 遺構の切り取り処理については、東北芸術工科大学保存科学研究室に依頼した。
- 5 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の諸氏及び諸機関からご指導・ご協力を賜った。記して感謝申し上げる。(敬称略)

阿子島 功、荒井 格、石川日出志、茨木光裕、岩見和泰、遠藤千映美、及川 規、奥山誠義、押野一貴、菊地芳郎、北野博司、木本元治、桐谷 優、工藤雅樹、佐藤庄一、佐藤正俊、菅原哲文、須藤 隆、豊野潤子、平塚幸人、中村真由美、藤沢 敏、古谷 毅、松井敏也、村木志伸、森岡秀人、山口博之、山澤 護、会津若松市教育委員会、山形県教育庁文化財課、東北芸術工科大学保存科学研究室、(株)古環境研究所、(株)国際航業、日東リース、

- 6 本書の作成・執筆・編集は武田和宏が担当した。
- 7 発掘調査及び出土遺物の整理にあたっては、以下の方々からご協力をいただいた。記して感謝申し上げます。(敬称略)
- 芳名久子、阿部巳代治、石垣勝幸、伊藤省三、伊藤真喜子、海野藤助、小形 満、黒田富雄、黒沼繁薫、後藤義一郎、小針大志、斉藤和彦、斉藤武男、笹原陽子、佐藤由美子、鈴木真之、鈴木麻里子、関口幸子、空 良寛、高橋愛華、丹野喜好(以上、河原田遺跡現地調査)
- 石垣勝幸、伊藤省三、伊藤真喜子、稲村勝美、岩田 巖、大津 弘、小笠原吉二、小川定雄、関沼孝子、粕谷和夫、岸野松雄、木村澄子、栗原武夫、白田 敬、鈴木清志、関口幸子、丹野ヒデ子、中村達久、三浦優子、三河真一、渡辺ふじえ(以上、梅野木前2遺跡現地調査)
- 五十嵐綾子、市川佐織、伊藤朋世、伊藤真喜子、木村澄子、権 照貞、斉藤絵美、関口幸子、松田大輝、矢作征行、山本 巧、渡辺和行、渡辺ふじえ、(以上、整理作業)
- 8 出土遺物及び調査記録類については、山形市教育委員会にて一括して保管している。

凡 例

- 1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は以下の通りである。
SK:土坑及び墓跡 SB:掘立柱建物跡 SD:溝跡 SG:川跡 SI:住居跡
EP:住居跡の各柱穴 P:土器 S:石 W:木
- 2 遺跡位置図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は真北を示す。
- 3 遺構実測図は、1/10・1/20・1/30・1/40・1/160他、一部任意の縮尺で採録し、各々スケールを付した。
- 4 グリッドの南北軸は、河原田遺跡が前N-33°-E、梅野木前2遺跡がN-27°-Eを測る。
- 5 遺物実測図・拓影図は、1/1・1/2・1/3・1/4・1/6の縮尺で採録し、各々スケールを付した。
- 6 遺物実測図中の土器については、断面黒ベタが須恵器、網点が赤焼土器、白抜きが土師器を表し、内面のスクリーントーンは、内面黒色処理を表す。
- 7 遺物観察表中における()内数値は、図上復元による推計値を示す。
- 8 遺構・遺物番号は、本文・表・挿図・写真図版とも一致する。
- 9 写真図版の遺物の縮尺は任意である。
- 10 基本土層及び遺構覆土の色調記載については、『新版標準土色帖』(小山・竹原:1997)に拠る。
- 11 次の遺構図に用いたスクリーントーンの内容は以下の通りである。

第18・20図中 :樹皮状木質

第19図中 :樹皮状木質(床材) :木質由来の腐食土

第21・24・25図中 :木質 :木質由来の腐食土 :木棺の痕跡

目次

I 調査の経緯	1
1 調査に至る経緯	1
II 遺跡の立地と環境	2
1 地理的環境	2
2 歴史的環境	3
III 河原田遺跡	5
1 調査の方法と経過	5
2 検出された遺構・遺物の概要	9
3 弥生時代の遺構	10
(1) 住居跡	10
(2) 土坑	20
(3) 川跡	23
(4) 墓跡	23
4 弥生時代の出土遺物	39
5 奈良・平安時代の遺構	53
(1) 溝跡	53
6 奈良・平安時代の出土遺物	56
7 まとめ	79
IV 梅野木前2遺跡	80
1 調査の経過	80
2 検出された遺構・遺物の概要	82
3 古墳時代の遺構	85
(1) 打込み柱建物跡	85
(2) 土坑	85
(3) 川跡・溝跡	85
4 奈良・平安時代の遺構	91
(1) 溝跡	91
(2) 土坑	91
5 出土遺物	91
6 まとめ	100

抄録

- 付編 1. 「山形市、河原田遺跡におけるリン・カルシウム分析」
2. 「河原田遺跡におけるテフラ分析」
3. 「山形市、梅野木前2遺跡の自然科学分析 I. 梅野木前2遺跡の土層とテフラ」
4. 「山形市河原田遺跡出土弥生木棺墓の遺構からの切り取り処理」

挿 図

第1図 嶋土地区画整理事業図	1
第2図 遺跡の位置と周辺遺跡	3
第3図 河原田遺跡調査区位置図	6
第4図 河原田遺跡遺構配置図	7
第5図 河原田遺跡基本層序	9
第6図 SI 1 1 平面図	11
第7図 SI 1 1 柱穴セクション①	13
第8図 SI 1 1 柱穴セクション②	14
第9図 SI 1 2 平面図	14
第10図 SI 1 2 柱穴セクション	15
第11図 SI 2 5 平面図	16
第12図 SI 2 5 柱穴セクション	17
第13図 SK 2 6 付近のグリッド図	20
第14図 SK 2 6 平面図及びセクション	21
第15図 SG 3 平面図及びセクション	22
第16図 SK 5 遺物出土状況	24
第17図 SK 5 葦材検出状況	25
第18図 SK 5 A セクション	25
第19図 SK 5 床材検出状況	25
第20図 SK 5 B・C・D・E セクション	25
第21図 SK 6 平面図及びセクション	29
第22図 SK 7 遺物出土状況	30
第23図 SK 7 平面図及びセクション	31
第24図 SK 8 平面図及びセクション	32
第25図 SK 9 平面図及びエレベーション図	33
第26図 SK 1 0 平面図及びセクション	34
第27図 弥生時代出土遺物①	41
第28図 弥生時代出土遺物②	42
第29図 弥生時代出土遺物③	43
第30図 弥生時代出土遺物④	44
第31図 弥生時代出土遺物⑤	45
第32図 SK 7 出土遺物	45
第33図 SK 5 出土勾玉	45
第34図 SK 5 出土遺物①	46
第35図 SK 5 出土遺物②	47
第36図 SK 1 0 出土遺物	49
第37図 SK 6・7 出土遺物	51
第38図 SI 2 5 EP 1 出土柱根	52
第39図 SI 1 1 EP 4 出土柱根	53
第40図 各溝跡平面図及びグリッド図	54
第41図 SD 4・1 3・1 5・1 6 セクション	55
第42図 奈良・平安時代出土遺物①	57
第43図 奈良・平安時代出土遺物②	58
第44図 奈良・平安時代出土遺物③	59
第45図 奈良・平安時代出土遺物④	60
第46図 奈良・平安時代出土遺物⑤	61
第47図 奈良・平安時代出土遺物⑥	62
第48図 奈良・平安時代出土遺物⑦	63
第49図 奈良・平安時代出土遺物⑧	64
第50図 奈良・平安時代出土遺物⑨	65
第51図 奈良・平安時代出土遺物⑩	66
第52図 奈良・平安時代出土遺物⑪	67
第53図 奈良・平安時代出土遺物⑫	68
第54図 奈良・平安時代出土遺物⑬	69
第55図 奈良・平安時代出土遺物⑭	70
第56図 奈良・平安時代出土遺物⑮	71
第57図 奈良・平安時代出土遺物⑯	72
第58図 梅野木前2 遺跡調査区位置図	81
第59図 梅野木前2 遺跡基本層序	82
第60図 梅野木前2 遺跡遺構配置図	83
第61図 SB 1 4	86
第62図 SK 1 3・1 5	87
第63図 D 区東・北壁セクション	89
第64図 SD 9 セクション	92
第65図 SK 1 2	92
第66図 出土遺物①	94
第67図 出土遺物②	95
第68図 出土遺物③	96
第69図 出土遺物④	97
第70図 SB 1 4 出土柱根	98

表

表 1	周辺遺跡一覧	4	表 8	河原田遺跡出土遺物観察表①	73
表 2	SI 1 1 各柱穴土層注記	18	表 9	河原田遺跡出土遺物観察表②	74
表 3	SI 1 2・2 5 各柱穴土層注記	19	表 10	河原田遺跡出土遺物観察表③	75
表 4	SK 5 土層注記①	35	表 11	河原田遺跡出土遺物観察表④	76
表 5	SK 5 土層注記②	36	表 12	河原田遺跡出土遺物観察表⑤	77
表 6	SK 5 土層注記③	37	表 13	河原田遺跡出土遺物観察表⑥	78
表 7	SK 6・7・8・9・10 土層注記	38	表 14	D 区東・北壁土層注記	88
			表 15	梅野木前 2 遺跡出土遺物観察表	99

写真図版

巻頭図版 1 上：弥生土器

下：SK 5 出土勾玉

図版 1 1. 河原田遺跡全景①（北から）

2. 河原田遺跡全景②

図版 2 1. SI11 全景

2. SI11 EP 1 断面

3. EP 4 断面

4. EP 8 断面

5. EP 1 0 断面

6. EP 1 3・1 4・1 5 断面

7. EP 1 9 断面

8. EP 2 1 断面

図版 3 1. SI 1 2 全景

2. SI 1 2 EP 1

3. EP 2 断面

4. EP 3 断面

5. EP 4 断面

6. EP 5 断面

7. EP 7

8. EP 8 断面

図版 4 1. SI25 全景

2. SI25 EP 1 断面①

3. EP 1 断面②

4. EP 2 断面①

5. EP 2 断面②

6. EP 3・4 断面

7. EP 1 1 断面

8. EP 1 2 断面

図版 5 1. 墓坑群全景

2. SK 5 検出状況

3. SK 5 室内作業風景

4. SK 5 遺構切り取り作業前

図版 6 1. SK 5 掘り下げ状況

2. SK 5 勾玉出土状況

3. SK 5 完掘①（西から）

4. SK 5 完掘②（東から）

図版 7 1. SK 5 A 断面①

2. SK 5 A 断面②

3. SK 5 A 断面③

4. SK 6 土器出土状況

5. SK 6 木棺痕跡検出状況（写真上が東）

6. SK 7 検出状況①

7. SK 7 遺物出土状況①

図版 8 1. SK 7 遺物出土状況②

2. SK 7 遺物出土状況③

3. SK 7 検出状況②

4. SK 7 一部掘り下げ①

5. SK 7 一部掘り下げ②（西から）

6. SK 7 崩落直後

7. SK 7 横断面セクション

- 図版 9 1. SK 7 縦断面及び石検出状況
2. SK 8A 断面
3. SK 8B 断面
4. SK 8 木棺痕跡検出状況①(写真上が西)
5. SK 8 木棺痕跡検出状況②(写真上が東)
- 図版 10 1. SK 9 半裁状況
2. SK 9B 断面
3. SK 9A 断面
4. SK 9 棺材検出状況①
5. SK 9 棺材検出状況②(写真上が西)
6. SK 9 棺材検出状況③
7. SK 9 棺材検出状況④
- 図版 11 1. SK 10 半裁①(西から)
2. SK 10 半裁②
3. SK 10 半裁③
4. SK 10 半裁④
5. SK 26 検出状況①
6. SK 26 検出状況②
7. SK 26 半裁
8. SK 26 完掘
- 図版 12 1. SG 3 完掘
2. SG 3 断面
3. SD 4 遺物出土状況①
4. SD 4 遺物出土状況②
5. SD 13ほか検出状況
6. SD 13 断面
7. SD 15 断面
8. SD 16 断面
- 図版 13 弥生時代出土遺物①
- 図版 14 弥生時代出土遺物②
- 図版 15 SK 5 出土土器①
- 図版 16 1. SK 5 出土土器②
2. SK 6 出土土器
- 図版 17 SK 7 出土土器①
- 図版 18 SK 7 出土土器②
- 図版 19 SK 10 出土土器①
- 図版 20 SK 10 出土土器②
- 図版 21 SK 26 出土土器
- 図版 22 SG 3 出土土器
- 図版 23 住居跡柱穴出土柱根
- 図版 24 奈良・平安時代出土遺物①
- 図版 25 奈良・平安時代出土遺物②
- 図版 26 奈良・平安時代出土遺物③
- 図版 27 奈良・平安時代出土遺物④
- 図版 28 奈良・平安時代出土遺物⑤
- 図版 29 奈良・平安時代出土遺物⑥
- 図版 30 奈良・平安時代出土遺物⑦
- 図版 31 奈良・平安時代出土遺物⑧
- 図版 32 奈良・平安時代出土遺物⑨
- 図版 33 奈良・平安時代出土遺物⑩
- 図版 34 奈良・平安時代出土遺物⑪
- 図版 35 奈良・平安時代出土遺物⑫
- 図版 36 奈良・平安時代出土遺物⑬
- 図版 37 奈良・平安時代出土遺物⑭
- 図版 38 奈良・平安時代出土遺物⑮
- 図版 39 墨書集成①
- 図版 40 墨書集成②
- 図版 41 墨書集成③
- 図版 42 1. 梅野木前2遺跡A区全景(北から)
2. B区全景(南から)
3. C区全景(南から)
4. D区全景(西から)
5. E区全景(西から)
6. F区全景(西から)
7. SK 12 検出状況
8. SK 12 半裁
- 図版 43 1. SD 9 完掘
2. SD 9 セクション
3. SD 8 土器出土状況①
4. SD 8 土器出土状況②
5. SG 11 検出状況
6. SG 11 掘り下げ状況
7. SG 11 断面
8. SB 14 検出状況
- 図版 44 1. SB 14 EP 1 検出状況
2. SB 14 EP 1 半裁

3. SB 1 4 EP 2 検出状況

4. SB 1 4 EP 2 半載

5. SB 1 4 EP 3 検出状況

6. SB 1 4 EP 3 半載

7. SB 1 4 EP 4 検出状況

8. SB 1 4 EP 4 半載

図版 4 5 1. SK 1 3 土器出土状況①

2. SK 1 3 土器出土状況②

3. D 区 SD 3 検出状況

4. D 区北壁

5. D 区北壁セクション①

6. D 区北壁セクション②

7. D 区東壁セクション①

8. D 区東壁セクション②

図版 4 6 出土遺物①

図版 4 7 出土遺物②

図版 4 8 出土遺物③

I 調査の経緯

1 調査に至る経緯

山形市嶋及び今塚地区において、平成4年度にそれぞれ民間組合及び県住宅供給公社による土地区画整理事業が開始された。これに伴い山形県教育庁文化財課により、今塚地区において同年11月に表面踏査、12月に試掘調査が実施され、周知の遺跡である今塚遺跡及び新規に発見された河原田遺跡の範囲が確認された。また嶋地区においても同様に表面踏査が行われ、8ヶ所の遺物散布地及び遺跡可能性地が確認された。

嶋地区の事業地内には国史跡「嶋遺跡」が含まれることから、山形市教育委員会では平成5年度に同遺跡の範囲確認調査を実施し、事業との調整を図った。また合わせて、8ヶ所の遺物散布地及び遺跡可能性地の試掘調査を実施した。その結果、遺構・遺物が検出された2ヶ所を梅野木前1遺跡・梅野木前2遺跡として新規登録した。なお同年度には、山形県埋蔵文化財センターにより今塚遺跡の発掘調査が実施されている。

平成10年には嶋地区と今塚地区の土地区画整理事業が民間組合の事業として一本化された。そのため梅野木前1遺跡、梅野木前2遺跡、河原田遺跡の3遺跡の取り扱いについては、山形市教育委員会が協議していくこととなった。

その後、山形市教育委員会では山形市嶋土地区画整理組合との協議を重ね、事業の進捗状況に合わせて遺跡に影響の及ぶ街区道路部分を対象として発掘調査を実施することとなり、平成11年度に河原田遺跡、平成13年度に梅野木前2遺跡の発掘調査をそれぞれ実施した。



第1図 嶋土地区画整理事業図

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

山形市は、山形盆地の南部にあり、東には奥羽山脈が連なる。山形市街地は、この奥羽山脈を源とする馬見ヶ崎川によって形成された扇状地上に発達している。現在の馬見ヶ崎川は、近世初期の河川改修により、山間地を抜け出たあたりで大きく流路を北に変えるが、それまではまっすぐ旧県庁付近を流れて西へ流れていた。さらに時代を遡れば、馬見ヶ崎川扇状地上には幾筋もの旧河道が確認されており、嶋地区を流れる貴船川（嶋堰）もそのひとつであったと言われる。

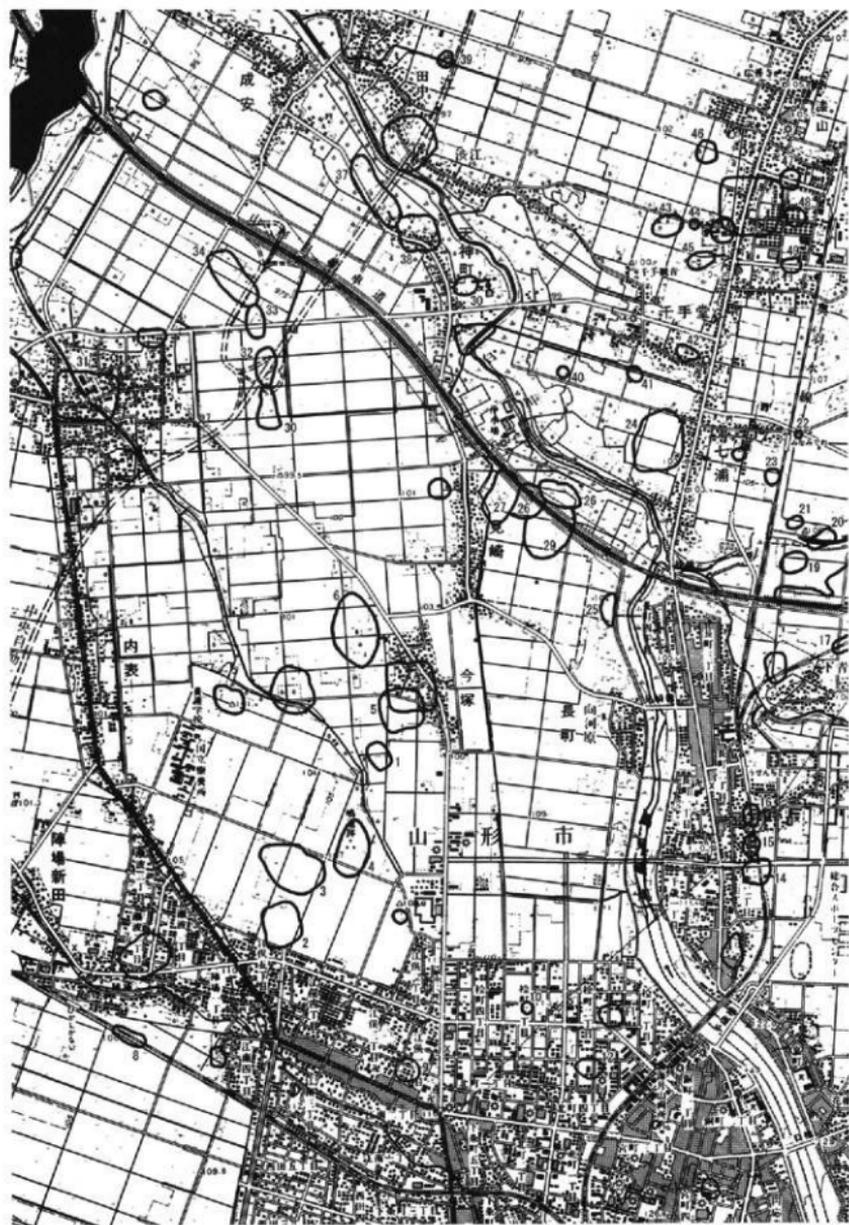
河原田遺跡、梅野木前2遺跡が所在する山形市嶋地区は、山形市街地の北西に位置する。この付近は馬見ヶ崎扇状地の前縁部にあたり、豊富な地下水に恵まれ、一帯には良好な水田地帯が広がる。標高は河原田遺跡付近で約103m、梅野木前2遺跡付近で106.5～107mを測る。土地区画整理事業地の中央付近には国史跡「嶋遺跡」が所在し、河原田遺跡はこの嶋遺跡から北へ約400m、梅野木前2遺跡は南へ約300mにそれぞれ位置する。

現在の嶋地区周辺で自然堤防に地形分類されるのは、事業地の北と南に位置する今塚地区と江俣地区に限られ、嶋地区一帯は扇状地前縁部に分類されている。しかし調査結果から、嶋地区内においても自然堤防状のわずかな高まりが所々にあったことがうかがえた。河原田遺跡では周辺よりもわずかに高い場所に住居跡や墓坑が営まれ、標高の低くなる調査区の南側や西側には溝跡以外の遺構は検出されなかった。また梅野木前2遺跡でも、南から北へ流れる河道の右岸のやや標高の高い場所に建物跡や土坑などが営まれ、やや低くなる調査区の西部や北部からは溝跡以外の遺構は検出されなかった。

現在の嶋地区に明瞭な自然堤防は認められないが、遺跡は扇状地の形成過程で河川の氾濫等により生じた自然堤防状のわずかな微高地に営まれたものと考えられる。嶋地区は、その地名のとおり、低湿地の広がりの中に自然堤防状の微高地が島のように点々と存在する景観が広がっていたものと想像される。

2 歴史的環境

嶋地区を含む山形市北西部の扇状地前縁部への集落の進出は、弥生時代の中期頃から顕著になる。これは当時の人々が稲作に適した環境を求めたためと考えられ、七浦遺跡(24)、江俣遺跡(9)、境田D遺跡(29)などでは、稲作の傍証となる石包丁が出土している。また南川原遺跡(41)や江俣遺跡からは土器棺墓、あるいは土坑墓が発見されている。いずれも馬見ヶ崎川やその支流によって形成された自然堤防上に営まれるが、これは古墳時代以降を通して同様の立地傾向を示す。山形盆地平野部における弥生時代後期の集落についてはこれまでほとんど知られていなかったが、平成15年度に山形県埋蔵文化財センターによる向河原遺跡(37)の発掘調査で弥生時代後期天王山式期の住居跡が検出されている。同時期の土器も一定量出土しており、山形市周辺では、弥生時代後期も引き続き平野部にも集落が営まれたことが明らかになった。



第2図 遺跡の位置と周辺遺跡 (1/25,000)

II 遺跡の立地と環境

古墳時代の遺跡には、河原田遺跡の北約200mに今塚遺跡(5)があり、30棟に上る前期の竪穴住居跡が検出され、出土土器はこの時期の基準的な資料となっている。河原田遺跡と梅野木前2遺跡のほぼ中央に位置する嶋遺跡(4)は、昭和36年の土地改良工事が契機となり、同37年から39年にかけて6次の発掘調査が行われた。その結果、数棟の打込み柱建物跡と夥しい柱根、鞍・鏝などの馬具、紡織や農耕に用いられた多様な木製品、多種類の種子や炭化米などが出土し、古墳時代後期の地方村落の一端が明らかにされた。

奈良・平安時代では、今塚遺跡で「仁寿参年」(853年)の年号が付された木簡や、人物が描かれた坏を含め多量の墨書土器などが出土しており、官衙に関わる遺跡と考えられている。また境田D遺跡でも溝跡から50点に上る墨書土器が出土している。さらに南方約1.5kmに位置する馬上台遺跡(8)では、土坑から赤焼土器や木製品が一括して出土している。特に漆塗りの杵や装飾加工の施された縦櫛などが注目される。10世紀前葉の集落跡と考えられる。

表1 周辺遺跡一覧

№	遺跡名	時代	№	遺跡名	時代
1	河原田	弥生/奈良・平安	28	境田B	奈良・平安
2	梅野木前2	古墳/奈良・平安	27	境田C	奈良・平安
3	梅野木前1	古墳/奈良・平安	28	境田O	奈良・平安
4	嶋	古墳	29	境田D	弥生/奈良・平安
5	今塚	古墳/奈良・平安	30	陽部	奈良・平安
6	長森	古墳/鎌倉・室町	31	中野城	鎌倉・室町
7	海境	古墳	32	馬台遺跡	奈良・平安
8	馬上台	平安	33	馬台塚A	平安
9	江原	弥生	34	馬台塚B	古墳/中世
10	宮町古墳	古墳/奈良・平安	35	天神	奈良・平安
11	栲葉の木	古墳	36	新井田	奈良・平安
12	川原田	古墳	37	尚河原	弥生/奈良・平安
13	宮町円座寺	古墳~平安	38	港江	古墳/中世
14	西ノ坪	弥生	39	三ヶノ目	古墳
15	長町	弥生	40	七瀬(孤山)2号墳	古墳
16	本町北河原	弥生	41	南河原	弥生
17	下郷B	鎌倉・室町	42	千早堂大門	弥生
18	下郷A	古墳	43	御守塚	弥生
19	下郷C	奈良・平安	44	御守塚2号	古墳
20	北郷1	鎌倉・弥生・古墳	45	御守塚古墳群	古墳
21	北郷2	古墳	46	淡山	弥生
22	大明神	奈良・平安	47	朱崎古墳群	古墳
23	七瀬一ノ坪	弥生	48	北上A	弥生
24	七瀬	弥生	49	北上B	奈良・平安
25	境田A	奈良・平安			

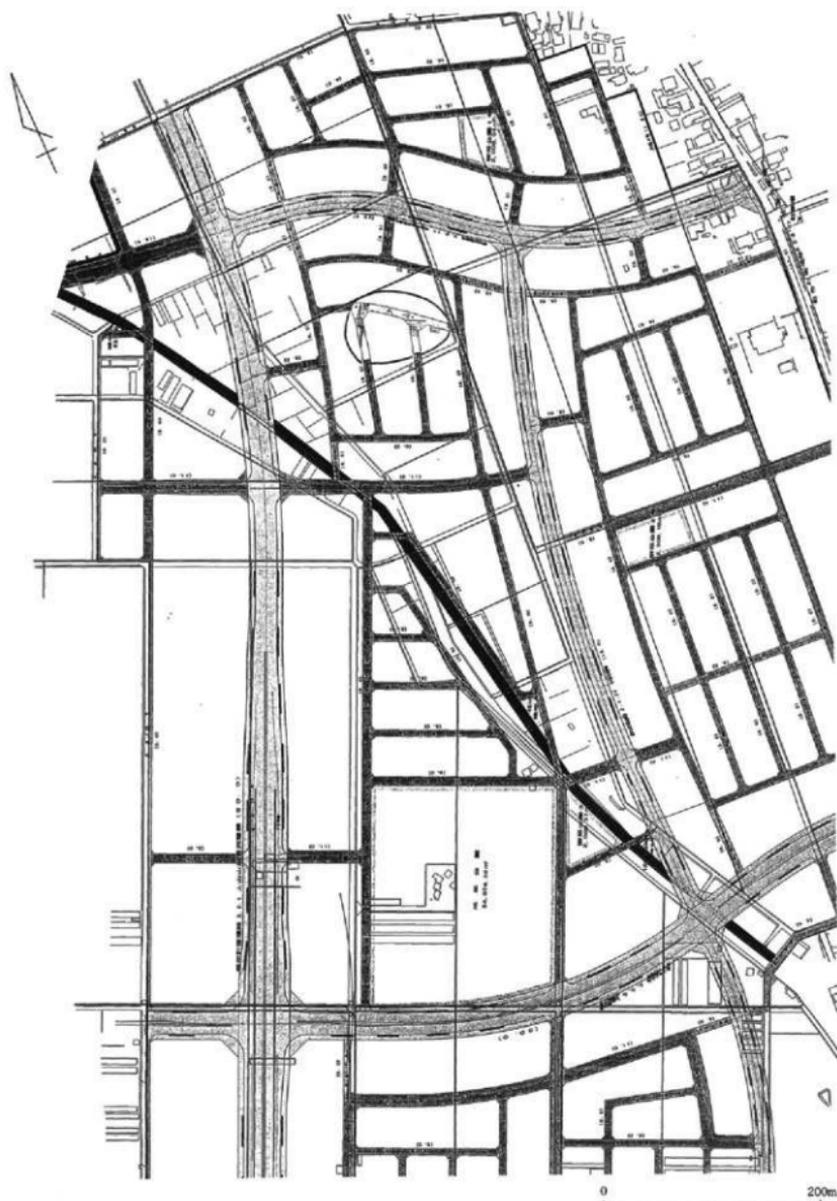
III 河原田遺跡

1 調査の方法と経過

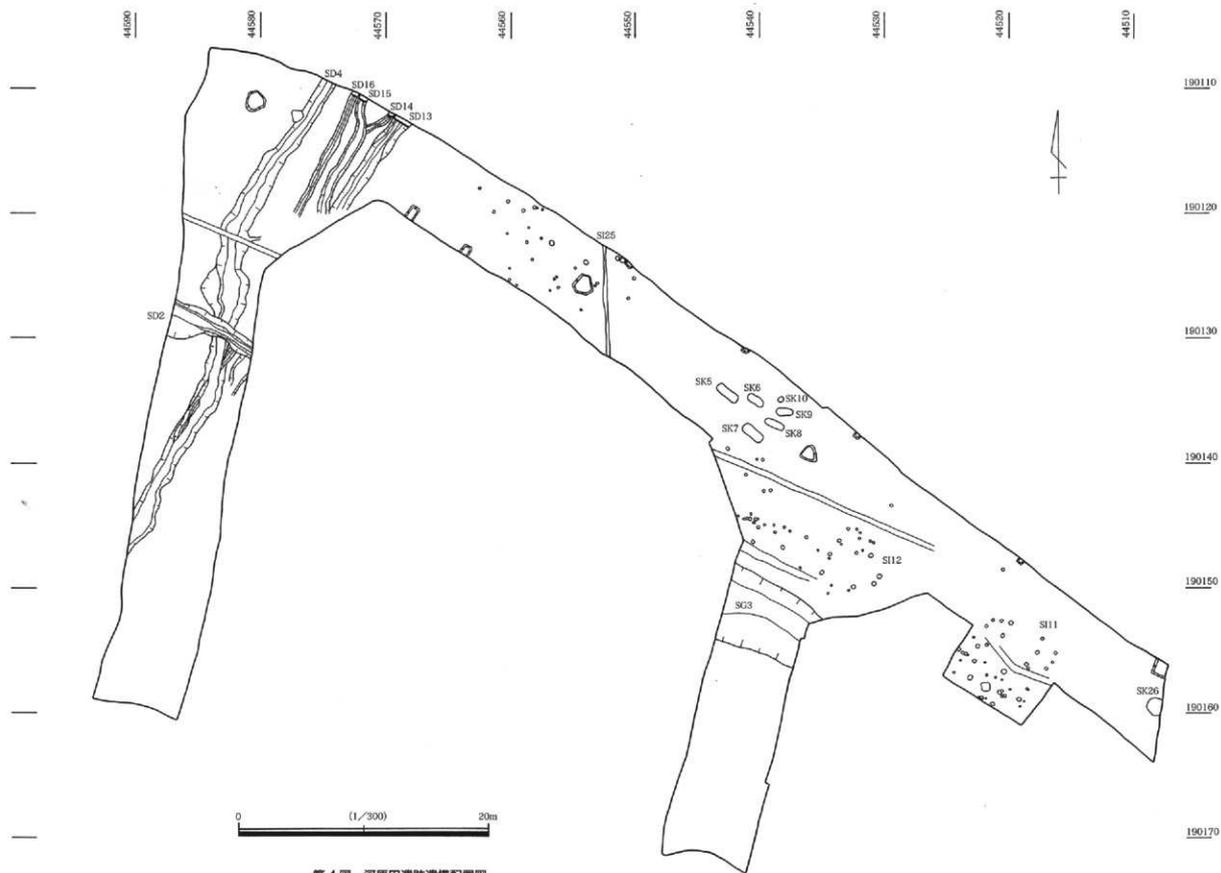
調査区には、道路のセンター杭を基準として2mのグリッドを設定し、南北方向に北から1・2・・・23、東西方向に西からA・B・・・u・v・wと付した。

平成11年10月26日に調査区を設定し、重機で表土除去を開始。途中弥生土器が4～5個体が出土した。翌27日には表土除去を7割がた終了。調査区西側で須恵器・赤焼土器が集中的に出土した。29日には表土除去を終了した。11月1日から表面精査を開始、合わせて遺構配置図の作成を行った。9日には墓坑の遺物出土状況平面図を1/10で作成し、合わせてSD4の精査を行った。その後度々降雪や降雨のため作業を中止せざるを得なかった。19日に墓坑を一部掘り下げ、覆土はすべて取り上げ洗浄を行った。墓坑のひとつを土器棺墓と確認した。25日にはSI11の南側で調査区を拡張し、住居跡全体の検出に努めた。12月1日以降はSD4の精査に集中したが、降雪のために度々作業を中止した。10日には調査区東端で弥生土器が集中的に出土したため、調査区を拡張し、SK26を検出した。なお17日で発掘調査を一時休止とし、3月に再開することで嶋土地区画整理組合から了承を得た。16日午前には降雪の中で空撮写真撮影を実施した。午後は各遺構を麻袋やシート等で養生し、撤収作業を行った。

翌平成12年3月6日に調査を再開したが、14日までは降雪のためにほとんど作業はできなかった。15日にはSK6・8・9・10を半裁、セクション図を作成した。17日はSI11の拡張部分の柱穴セクション図及び平面図を作成した。18日にはSK9・10で精査を行い、SK9から棺材が検出され、木棺墓であることを確認した。19日はSK5・8・7を半裁し、以降、SK6・8の精査を再度行った。25日には、SK5・7の遺構の切り取りを実施することとし、東北芸術工科大学の保存科学研究室に作業を依頼した。26日にはSK10を完掘し、土器を取り上げた。29日にはSI11全体の平面図およびSK6・8の平面図を作成、またSK9の精査を行い木棺の平面プランを検出した。30日から遺構の切り取り作業を開始し、SK7の周囲を掘り下げた。4月2日にはSK5の切り取り作業も平行して開始した。3日にSK7を重機による取り上げを試みたが、失敗して崩落させてしまった。残骸の中ではあったが、可能な限り情報収集に努めた。4日は引き続きSK5の取り上げ作業を行い、合わせてSK9の切り取り作業の準備に入った。5日、SK5・9を翌日に切り取ることにし、最終的な作業を行う。6日、午前中にSK5、午後にはSK9をそれぞれ取り上げて整理室に搬送した。7日に撤収作業を行い、現地での作業を終了した。取り上げたSK5については、その後室内で発掘調査を行った。



第3圖 河原田遺跡調査区位置圖



第4図 河原田遺跡遺構配置図

2 検出された遺構・遺物の概要

調査の結果、弥生時代と奈良・平安時代の2つの時代の遺構・遺物が検出された。

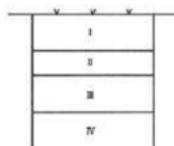
弥生時代の遺構は、墓坑6基、住居跡3棟、川跡1条、性格不明土坑1基である。墓坑6基のうち、5基は木棺墓で1基が土器棺墓である。木棺墓はいずれも長楕円形の平面プランを呈し、長軸方向は概ね北西～南東方向をとるが、SK 9はほぼ東西方向を向く。住居跡は、墓坑群の北西約15mでSI 25、墓坑群の南東約10mでSI 12、同じく20mの位置でSI 11がそれぞれ検出された。SI 25の半分は調査区外となるが、平面プランは3棟とも円形になると思われる。川跡はSI 12の南側で検出された。川床面は東から西へゆるく傾斜する。墓坑群や住居跡などの遺構が検出された川跡の北側に比べ、やや標高の低くなる南側では遺構は検出されなかった。調査区の東端からSK 26とした直径約1.5mのほぼ円形の遺構を検出したが、その性格は不明である。

出土遺物は主に土器で、特に墓坑からまとまって出土した。またSK 26付近でも土器破片が集中して出土した。出土した土器は2本の平行沈線で文様が描かれるものがほとんどで、東北地方南部の土器編年では弥生時代中期の桜井式に相当する。従来の山形県内の弥生土器編年に照らせば七浦式に該当する。また底部外面の痕跡が観察できる壺やその他破片がいくつかあったが、不明なものを除けばすべて織物圧痕が観察された。なお、生産に関わるような遺構・遺物は検出されなかった。

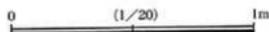
奈良・平安時代の遺構では、調査区の西側で南北方向に延びる溝跡5条が検出された。これらの溝跡は、所々で切り合うがほぼ同一方向に延び、いずれも北から南へゆるく傾斜している。中でもSD 4が最も明瞭に検出され、その北と南の延長は調査区外へと延びている。これらの溝跡を北へ延長した先には今塚遺跡が位置しており、今塚遺跡で検出されている溝跡との関連性が考えられる。SD 2は東西方向の溝跡で、これらの溝跡をすべて切る形で検出された。覆土中に含まれる遺物の内容から、奈良・平安時代以降のものと思われる。

出土遺物は、須恵器を中心に、赤焼土器・土師器・内黒土器などの土器が溝跡及びその周辺一帯から出土している。特にSD 4からの出土量が多く、中には多くの墨書土器が含まれる。墨書には複数の文字が認められるが、特に「水」に似た記号が最も多く確認されている。

基本層序は、I層がシルト質の水田耕作土で、II層が粘土で水田の盤土になる。III層は砂質シルトで遺物包含層となり、遺構はIV層上面で検出されている。



基本層序			
層位	土色	土質	備考
I	2.5Y3/3	シルト	しまり弱、耕作土
II	2.5Y2/1	粘土	粘性強、しまり強、水田の盤土
III	5Y5/1	砂質土	粘性弱、しまり弱
IV	7.5Y4/1	砂	粘性強



第5図 河原田遺跡基本層序

3 弥生時代の遺構

(1) 住居跡

SI 11 (第6～8図・図版2)

調査区の東側に位置し、一部調査区を拡張してほぼ全体を検出した。

南側に位置するEP 19・20・21・23を出入口と想定した場合、北側に位置するEP 1・3・4・5・6とEP 2・7・8・9は、中軸線を挟んで対称的な柱配置となり、対応するそれぞれの柱穴の深さもほぼ同様の数値を示す。中軸線の方位はN-28°-Eを測り、SI 12及びSI 25とはほぼ直交する。

平面形態は、4本柱を主柱とする直径約7m程度の円形プランが想定される。EP 1・2が北側の主柱と考えられるが、これに対応する南側の支柱穴は確認できなかった。また、床面や炉跡、周壁の立ち上がりなども検出されなかった。なお、EP 4から栗材の柱根(140)が出土している。

SI 12 (第9・10図・図版3)

SI 11の西方約10m、SG 3の北側に位置し、全体を検出した。

EP 7・8を出入口と想定した場合、EP 1・4・11・17とEP 3・5・14・15が中軸線を挟んで対称的な柱配置となり、対応する柱穴の深さもほぼ同様の数値を示す。中軸線の方位はN-64°-Wを測り、SI 11の中軸線とはほぼ直交し、SI 25の中軸線とはほぼ平行になる。

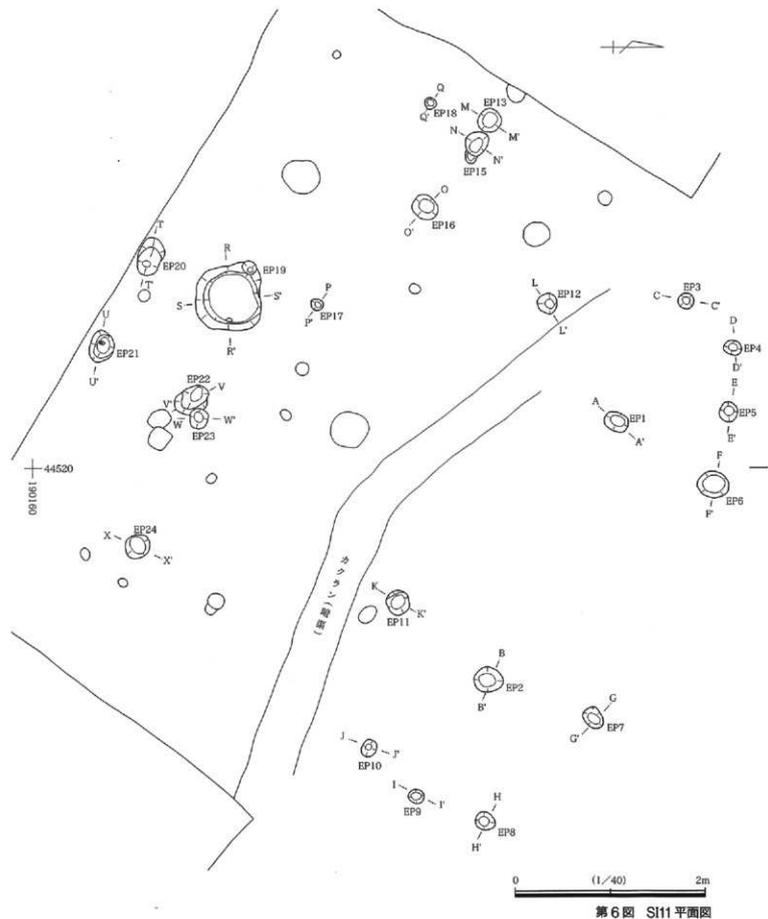
平面形態は、EP 1・3・4・5の4本を主柱とする直径約6m程度の円形プランが想定される。床面や炉跡、周壁の立ち上がりなどは検出されなかった。

SI 25 (第11・12図・図版4)

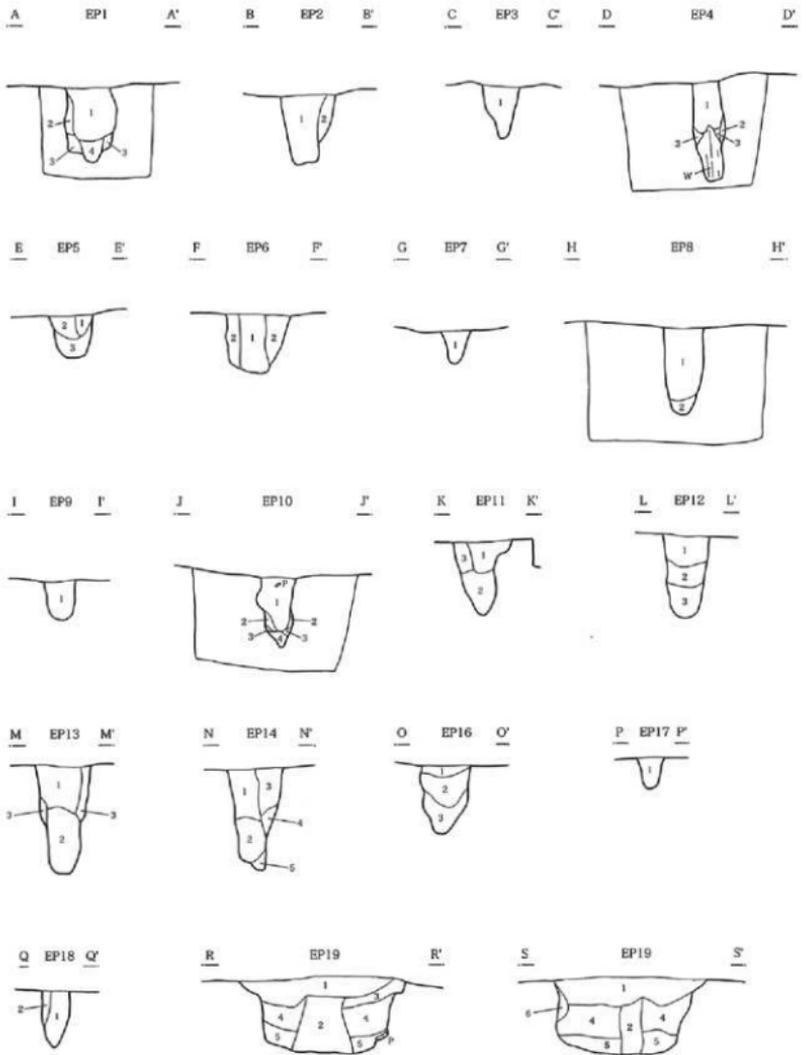
墓坑群の北西約15mに位置する。南側半分を検出したが、北側半分は調査区外になる。

柱穴の配置をSI 11・12と比較すると、EP 1・7・8・9の柱配置がSI 11のEP 1・3・4・5・6、もしくはEP 2・7・8・9と共通した柱配置になっている。またEP 3・4を出入口と想定し中軸線を対称軸にとると、SI 12の主柱及び出入口の柱配置に類似する。このことから、EP 3・4が出入口、EP 1・2が支柱穴となる住居跡と判断した。

平面形態は、直径約8m程度の円形プランが想定される。中軸線の方位はN-55°-Wを測り、SI 11に直交し、SI 12とはほぼ同じ向きになる。床面や炉跡、周壁の立ち上がりなどは検出されなかった。なお、EP 1から栗材の柱根(139)が出土している。



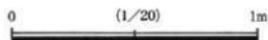
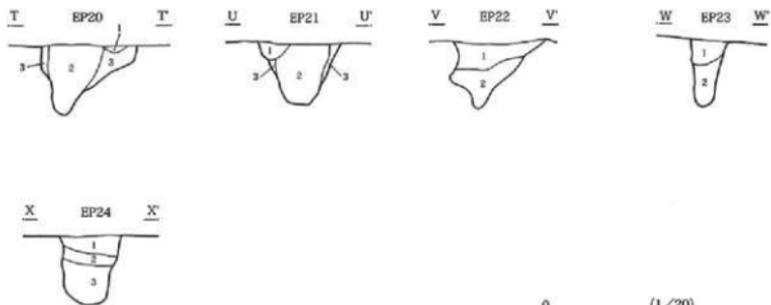
第6図 SI11平面図



0 (1/20) 1m

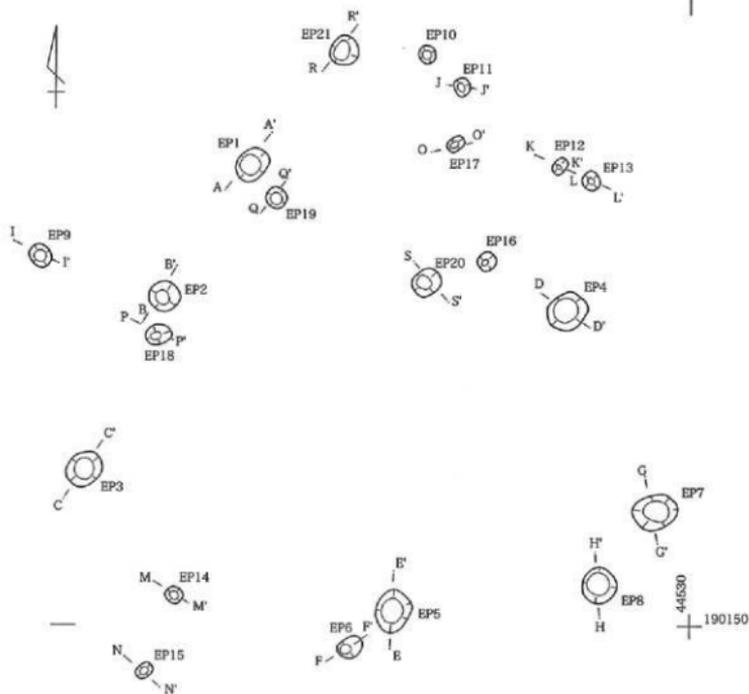
*水糸レベルは、全て 102.800m

第7図 SI11柱穴セクション①

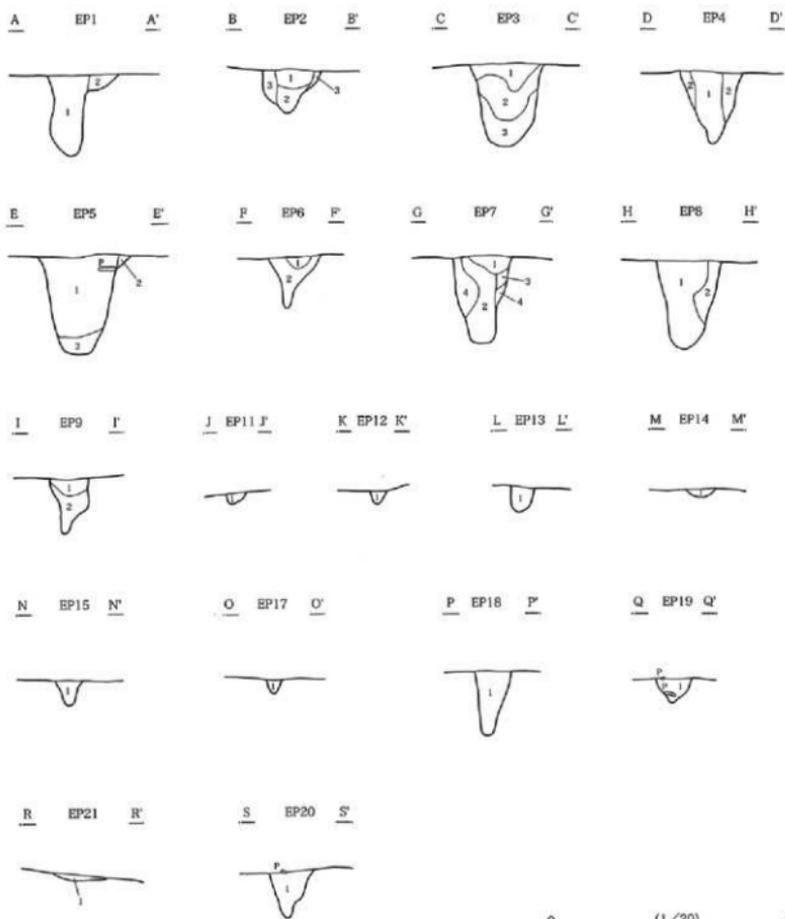


本水準レベルは、全て 102.800m

第8図 SI11柱穴セクション②



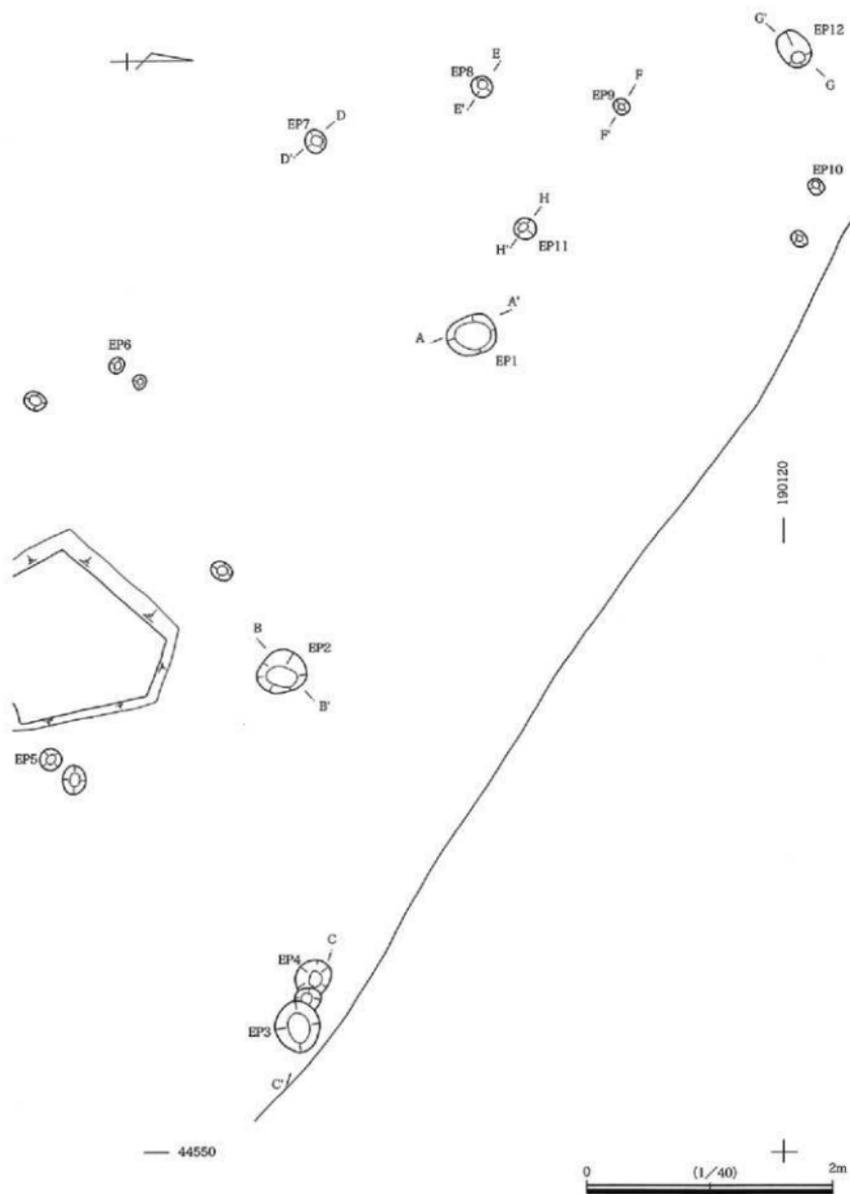
第9図 SI12平面図



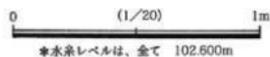
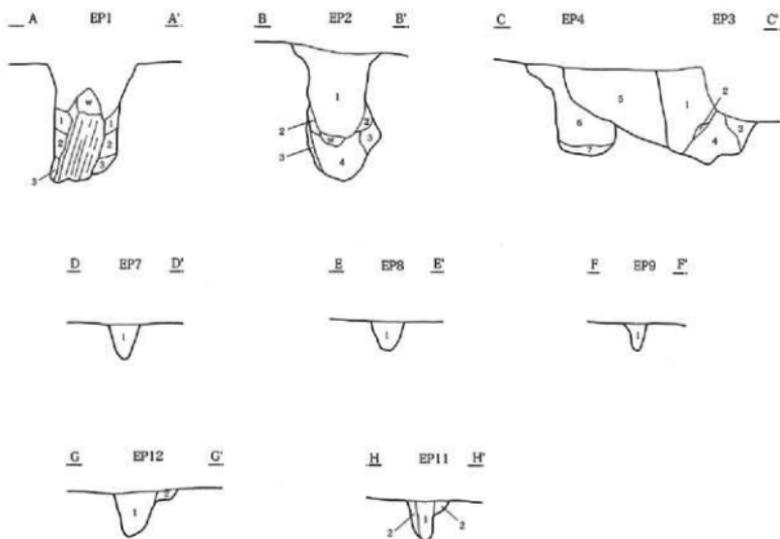
0 (1/20) 1m

*水糸レベルは、全て 102.800m

第10図 SI12柱穴セクション



第11圖 S125平面圖



第12図 SI25柱穴セクション

III 河原田遺跡

表2 S11各柱穴土層注記

S11

遺積番号	セクション	記号	層序	土色	土質	備考
EP1	A		1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまり弱 細砂が少々混じる 植物質を含む
			2	2.5Y2/1	粘質シルト	2.5Y5/2細砂が混じる
			3	2.5Y5/1	細砂	10YR1.7/1シルトが混じる
			4	10YR1.7/1	シルト	均質 *アタリ
EP2	B		1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまり弱 細砂が少々混じる 植物質を含む
			2	2.5Y2/1	粘質シルト	2.5Y5/2細砂が混じる
EP3	C		1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまり弱 植物質を含む 2.5Y5/2細砂が混じる
EP4	D		1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまり弱 植物質を含む 2.5Y5/2細砂が混じる
			2	10YR2/1	シルト	粘性強 均質
			3	10YR2/2	シルト	均質、木質を含む *アタリ
EP5	E		1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性弱 しまる 2.5Y6/2細砂が混じる
			2	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性弱 しまる 均質
			3	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 2.5Y5/2細砂が混じる
EP6	F		1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる 木質を含む *アタリ
			2	2.5Y5/2	細砂	粘性弱 しまる 2.5Y2/1粘質シルトが混じる
EP7	G		1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまり弱 植物質を含む 2.5Y5/2細砂が混じる
EP8	H		1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる 植物質を含む
			2	10YR1.7/1	砂質シルト	粘性強 木質を含む *アタリ
EP9	I		1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる 植物質を含む 均質
EP10	J		1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる 植物質を含む 2.5Y5/2細砂が混じる 土器片を含む
			2	10YR2/1	砂質シルト	2.5Y5/2細砂が少々混じる
			3	2.5Y3/1	砂質シルト	2.5Y5/2細砂が混じる
			4	10YR1.7/1	シルト	粘性強 均質 *アタリ
EP11	K		1	10YR2/1	砂質シルト	粘性強 5Y5/1砂質シルトが少々混じる
			2	10YR2/1	シルト	粘性強 均質
			3	2.5Y5/1	砂質シルト	10YR2/1砂質シルトが混じる
EP12	L		1	10YR2/1	砂質シルト	厚(φ3~5mm)を含む
			2	10YR2/1	シルト	2.5Y5/1砂質シルトが混じる
			3	10YR2/1	シルト	粘性強 均質
EP13	M		1	10YR3/1	砂質シルト	厚(φ10~12mm)を少々含む
			2	10YR2/1	シルト	粘性強 厚(φ10~12mm)を含む *アタリ
			3	2.5Y4/1	砂質シルト	10YR3/1砂質シルトが混じる
EP14	N		1	10YR2/1	砂質シルト	粘性強 2.5Y8/2砂質シルトが少々混じる
			2	10YR2/1	シルト	粘性強 均質 *アタリ
			3	2.5Y8/2	砂質シルト	粘性強
			4	2.5Y8/2	砂質シルト	10YR2/1砂質シルトが混じる
			5	2.5Y2/1	シルト	均質
EP16	O		1	10YR4/1	シルト	2.5Y5/2砂質シルトが少々混じる
			2	10YR2/1	砂質シルト	2.5Y5/2砂質シルト混じる
			3	10YR2/1	シルト	粘性強 均質
EP17	P		1	10YR2/1	シルト	粘性強 2.5Y5/2砂質シルトが混じる
EP18	Q		1	10YR3/1	砂質シルト	粘性弱 均質
			2	2.5Y5/2	砂質シルト	10YR3/1砂質シルトが混じる
EP19	R-S		1	10YR3/1	砂質シルト	均質
			2	10YR2/1	シルト	粘性強 均質
			3	10YR4/1	砂質シルト	均質
			4	10YR2/1	シルト	粘性弱 均質
			5	10YR2/1	シルト	粘性強 均質 土器片を含む
			6	2.5Y5/2	砂質シルト	10YR3/1砂質シルトが混じる
EP20	T		1	10YR5/3	粗砂	均質
			2	10YR2/1	シルト	粘性弱 均質
			3	10YR2/1	シルト	2.5Y5/2砂質シルトが混じる
EP21	U		1	2.5Y5/2	シルト	粘性弱
			2	10YR2/1	シルト	粘性強 均質
			3	2.5Y5/2	砂質シルト	10YR2/1シルトが混じる
EP22	V		1	10YR3/1	砂質シルト	2.5Y5/2砂質シルト(φ5~8mm)が混じる
			2	10YR2/1	シルト	粘性弱 均質
EP23	W		1	10YR3/1	シルト	粘性弱 均質
			2	10YR2/1	シルト	粘性強 均質
EP24	X		1	10YR3/1	砂質シルト	粘性弱 均質
			2	2.5Y4/1	砂質シルト	粘性強 10YR3/1砂質シルトが混じる
			3	10YR2/1	砂質シルト	粘性強 均質

表3 S12・25各柱穴土層注記

S12

遺構番号	セクション記号	層序	土色	土質	備考
EP1	A	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる 2.5Y5/2細砂が少々混じる
		2	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる 2.5Y5/2細砂が多く混じる 植物質を含む
		1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる
EP2	B	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる
		2	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる
		3	2.5Y5/2	シルト	粘性弱 しまる
EP3	C	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性弱 しまる 2.5Y5/2細砂が少々混じる
		2	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる 均質
		3	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる 植物質を含む
EP4	D	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる 2.5Y5/2細砂が混じる
		2	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる 2.5Y5/2細砂がやや多く混じる
EP5	E	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる 植物質を含む 2.5Y5/2細砂が少々混じる
		2	10YR4/4	礫砂	粘性弱 しまり強
		3	7.5Y2/1	シルト	均質 ＊アタリ
EP6	F	1	2.5Y3/1	粘質シルト	粘性弱 しまり強
		2	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性弱 しまり強
		1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまり強
EP7	G	2	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまり強
		3	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまり強 植物質を含む
		4	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる 2.5Y5/2細砂が少々混じる
		4	2.5Y2/3	粘質シルト	粘性強 しまり強 2.5Y5/2細砂が多く混じる
EP8	H	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性弱 しまる 2.5Y5/2細砂が混じる 植物質を含む
		2	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまり強 2.5Y5/2細砂が多く混じる
EP9	I	1	2.5Y3/1	粘質シルト	粘性弱 しまり強
		2	2.5Y3/2	粘質シルト	粘性弱 しまり強 2.5Y5/2細砂が少々混じる
EP11	J	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性弱 しまり強 2.5Y5/2細砂が少々混じる
EP12	K	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性弱 しまり強 2.5Y5/2細砂が少々混じる
EP13	L	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性弱 しまり強 2.5Y5/2細砂が少々混じる
EP14	M	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性弱 しまり強 2.5Y5/2細砂が混じる
EP15	N	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性弱 しまり強 2.5Y5/2細砂が混じる
EP17	O	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性弱 しまり強 2.5Y5/2細砂が混じる
EP18	P	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性弱 しまり強 2.5Y5/2細砂が少々混じる
EP19	Q	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性弱 しまり強 2.5Y5/2細砂が混じる 土層片を含む
EP20	S	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性弱 しまり強 2.5Y5/2細砂が少々混じる 土層片を含む
EP21	R	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性弱 しまり強 2.5Y5/2細砂が少々混じる

S25

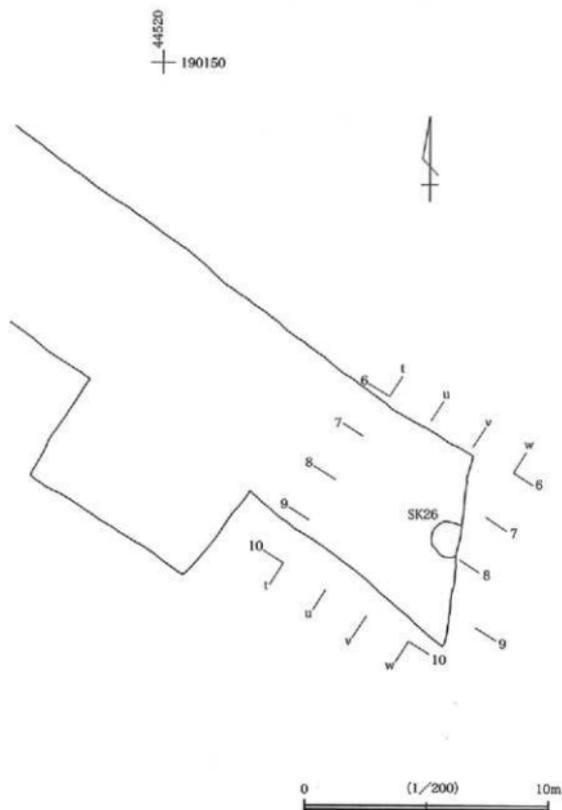
遺構番号	セクション記号	層序	土色	土質	備考
EP1	A	1	10YR2/1	砂質シルト	均質を少々含む
		2	5Y4/1	砂質シルト	10YR2/1砂質シルトが少々混じる
		3	10YR1.7/1	シルト	5Y4/1砂質シルトが少々混じる
EP2	B	1	2.5Y2/1	粘土	粘性強 しまる 2.5Y4/1砂質シルトが少々混じる 植物質を含む
		2	10YR2/1	シルト	2.5Y4/1砂質シルト(φ5~10mm)が少々混じる
		3	5Y4/1	砂質シルト	
EP3	C	4	10YR1.7/1	シルト	均質 5Y4/1砂質シルトが少々混じる
		1	10YR1.7/1	シルト	均質
		2	2.5Y3/1	粘土	均質
		3	5Y5/1	砂	10YR1.7/1シルト(φ1~2cm)が少々混じる
EP4	G	4	10YR1.7/1	シルト	均質 ＊アタリ
		5	10YR2/1	砂質シルト	2.5Y4/1砂質シルト、5Y5/1砂が現状に混じる
		6	10YR2/1	砂質シルト	2.5Y4/1砂質シルト(φ5~10mm)が少々混じる
EP7	D	1	10YR1.7/1	シルト	5Y4/1砂質土が少々混じる
		1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる
EP8	E	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる 砂が少々混じる
EP9	F	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる 5Y4/1砂質シルトが少々混じる
EP11	H	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる 5Y4/1砂質シルトが少々混じる
		2	2.5Y5/2	礫砂	粘性弱 しまる 2.5Y2/1粘質シルトが少々混じる
EP12	G	1	2.5Y2/1	粘質シルト	粘性強 しまる 砂が少々混じる
		2	2.5Y5/2	礫砂	粘性弱 ややしまる 2.5Y2/1粘質シルトが少々混じる

(2) 土坑

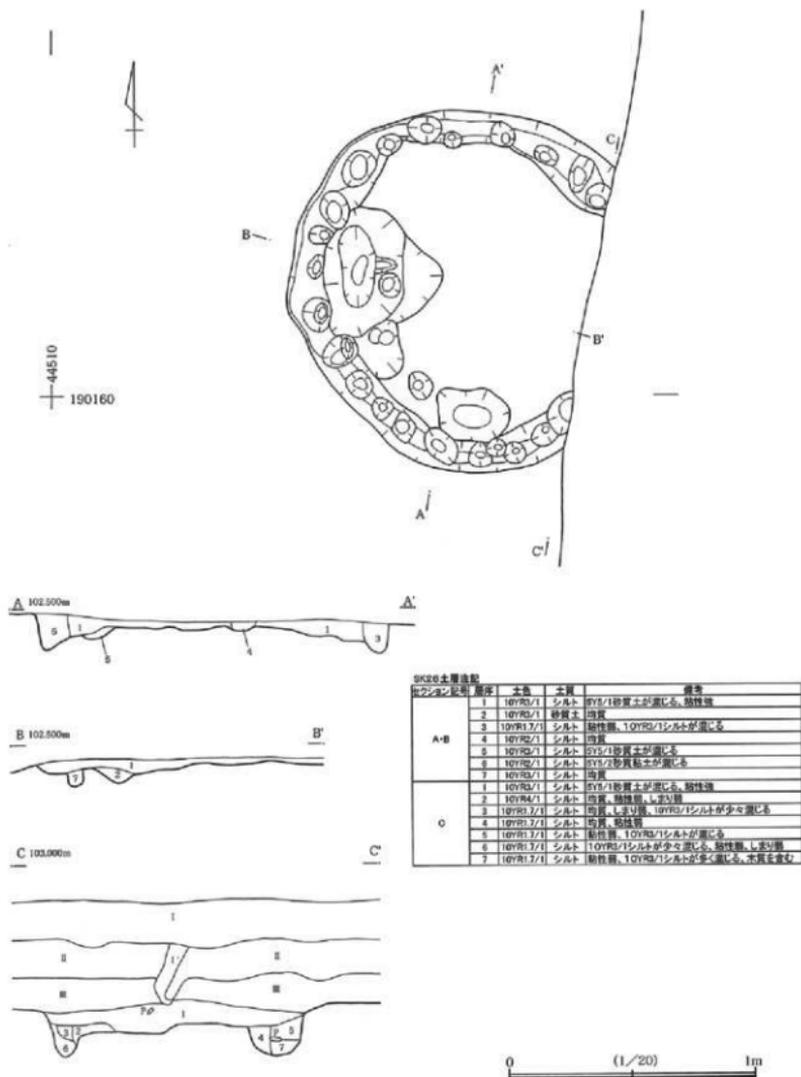
SK 26 (第 13・14 図・図版 11)

調査区の東端に位置する。一部調査区外となるが、平面プランはほぼ円形になるものと想定される。直径は約 1.45 m を測る。全体的に掘り込みは浅く、深いところでも 10 cm 程度にとどまる。外周にはやや深い溝状の掘り込みがめぐり、その内部には直径 1.0 ~ 1.5 m、深さ 10 cm 前後の窪みを伴う。

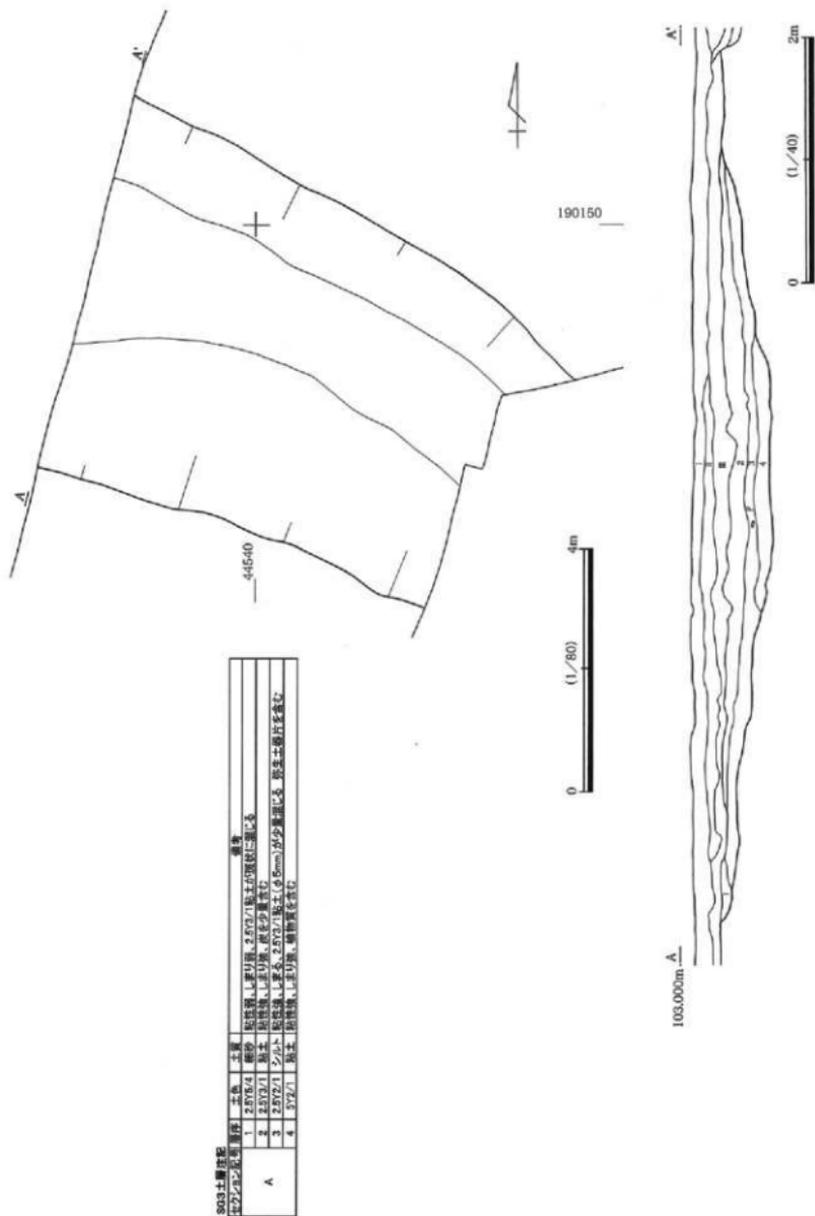
遺物は、覆土中及び土坑の周辺から多くの弥生土器の破片が出土しているが、完形になるものはない。



第 13 図 SK26 付近のグリッド図



第14図 SK26 平面図及びセクション



第15図 SG3 平面図及びセクション

(3) 川跡

SG 3 (第15図・図版12)

SI 12の南側で約7mを検出した。川の最大幅は6mを超え、検出面からの深さは中央付近で約40cmを測る。川床面は周辺地形と同様に東から西へ緩く傾斜している。西側の延長はSD 4の中央やや北よりを通過して、さらに調査区外へ延びている。

遺物は弥生土器の破片が覆土中及び川床面から出土するが、完形になるものはない。

(4) 墓跡

SK 5 (第16～20図・図版5～7)

墓坑群の中で最も西に位置する。平面プランは長楕円形で、長軸長200cm、最大幅は73cmを測り、長軸の方位はN-52°-Wを向く。なおこのSK 5は、遺構の切り取りを実施し、室内で精査を実施したもので、その結果、樹皮状木質を棺材に用いた木棺墓であることが明らかになった。ただし、樹種は特定できなかった。

蓋材と床材には同じ樹皮状木質が用いられるが、床材が墓坑の長軸方向と樹皮状木質の繊維方向と平行になるのに対し、蓋材では直交するように用いられる。蓋材は、床面から8～13cmの高さの位置で、ほぼ全面から検出された。ただし、墓坑の東側では、南北壁側から中央に向かって落ち込む形で検出され、その中央付近では床材の直上付近で検出されている。

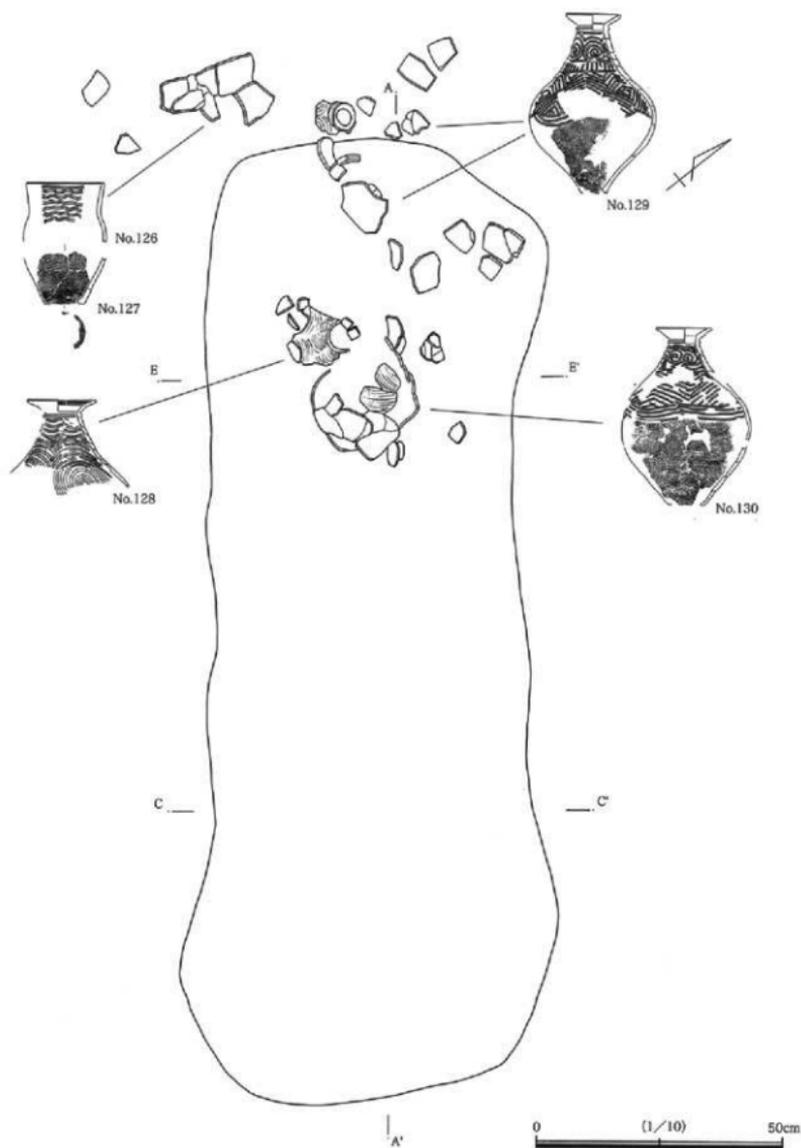
床材には一枚の樹皮が用いられており、外皮を下に向け、樹皮の内面が上面となっていたと思われる。断面は「U」字形になり、その上端は、北壁側では床面から10cm、南壁側では10～15cmの高さに達する。南壁側では床材と一つづきの樹皮が墓坑掘り方の壁面に張り付くが、北壁側ではその樹皮の裏側に土を込めて立ち上げている。床面は一部樹皮状木質が土化している部分があるが、ほぼ全面が樹皮状木質で覆われる。ただし、東西両端には地山が露出している部分がある。床材の東側では、樹皮状木質が左右から若干絞り込まれるように、やや湾曲して検出された。これに対し西側では、北壁際でほぼ中央付近まで樹皮状木質及びそれに由来する土などが検出されずに地山が露出している部分がある。これは東側とは逆に、床材に無理な力が加わり、その結果生じた大きな亀裂と考えられる。

床面はほぼ平坦で、西側がやや高く、東側へ若干傾斜する。床面の標高は102.30～33mを測る。また西側の床面上から2点の勾玉が出土しており、埋葬遺骸の頭位は西を向くと想定される。

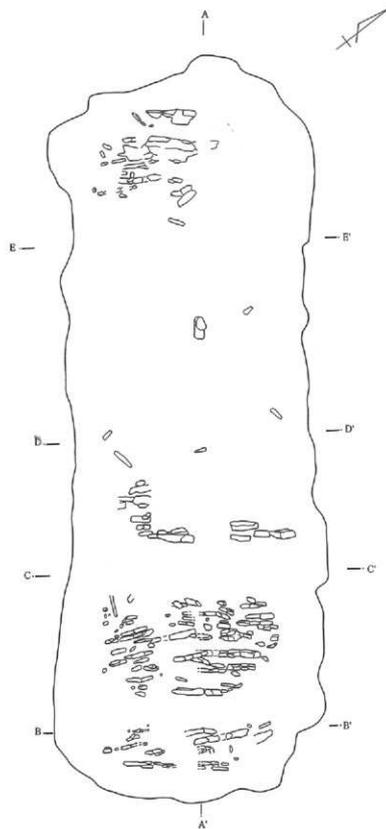
覆土は中央付近を境に西側と東側で土質が異なり、東側では地山由来の砂質土、西側では黒色のシルト質の土が堆積するが、2次的な掘り込みの痕跡は観察されなかった。

A断面の土層観察から、東西両端で垂直に立ち上がる層とそれと隣り合う水平堆積層が観察されたが、これは小口板などの仕切りとその裏込め土の痕跡と考えられる。横断面の土層観察でも南壁寄りに同様の状況が観察される。これらのことから棺の内寸は、長さ171～174cm、幅34～40cmと推定される。

出土した土器は、検出段階で遺構の上面及びその周辺から、壺(129)や甕(126・127)などがある。

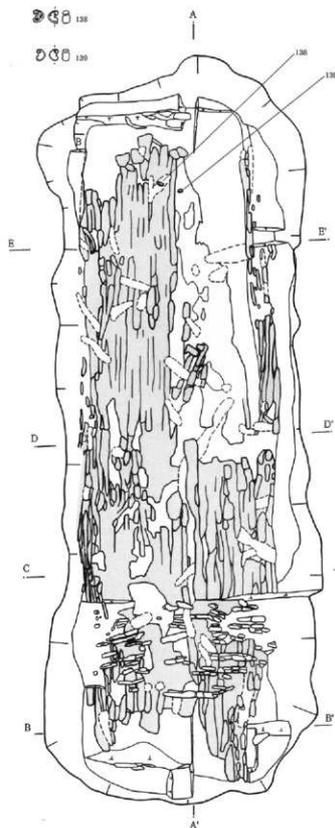
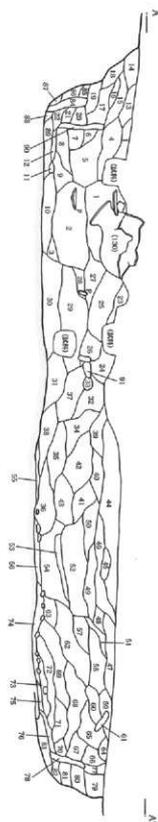


第 16 図 SK5 遺物出土状況

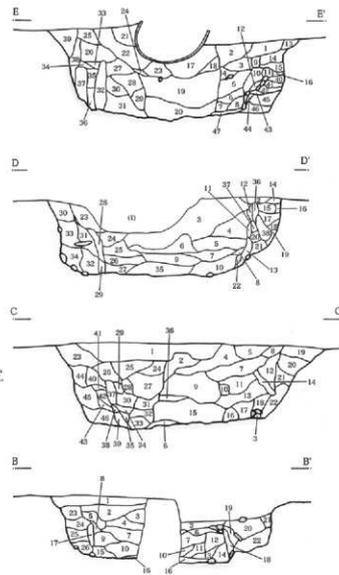


第17図 SK5 置材検出状況

第18図 SK5 Aセクション



第19図 SK5 床材検出状況



第20図 SK5 B・C・D・Eセクション

0 (1/10) 50cm
*本米余レベルは、全て 102.600m

また覆土中からは壺(128、130)が出土しており、墓坑の西半部に集中する傾向を示す。壺128は、体部以下を欠くが、正位で出土した。壺130は、壺128に隣り合う位置で、口縁部を下方に向けた逆位で出土した。

SK 6 (第21図・図版7)

墓坑群の中でSK 5の東側に位置する。平面プランは長楕円形で、長軸長142cm、最大幅は71cmを測る。長軸の方位はN-57°-Wを向く。

墓坑床面の外周には、木棺の痕跡と思われるシルト質の土が部分的に認められた。また床面の所々から木質に由来すると思われる腐食土が検出された。土層断面の観察からも、木棺の痕跡を示すと思われる垂直方向に立ち上がるシルト質の層が認められたことから木棺墓と判断した。ただし、木質及び樹皮状木質は検出されていない。

棺の内寸は、長さ是不明であるが、幅は38~46cmと推定される。墓坑は断面「U」字形で、床面はほぼ平坦である。床面の標高は、102.34~36mを測る。平面及び土層断面からは2次的な掘り込みは観察されなかった。

遺物は、床面上から小型の壺(133)が1個体出土している。

SK 7 (第22・23図・図版7~9)

墓坑群の中で最も南に位置する。平面プランは長楕円形で、長軸長192cm、最大幅は81cmを測る。長軸の方位はN-52°-Wで、SK 5と同じ方向を向く。

この遺構も取り上げを試みたが失敗し、崩壊させてしまったために十分な調査ができなかった。しかし、その中でも確認できたことについて以下に記述する。

- (1) 墓坑床面にはSK 5と同様に樹皮状木質を用いている。
- (2) 北壁側では、SK 5と同様に、掘り方の壁面と樹皮状木質との間に土が水平に堆積している状況が観察された。
- (3) 墓坑西端で、床面の樹皮状木質の直上から、人頭大よりやや小さい扁平な石が出土した。
- (4) 崩落した土をすべて持ち帰って洗浄を行ったが、玉類の出土は確認されなかった。
- (5) 平面での観察からは、2次的な掘り込みは確認されなかった。

以上のことから、この墓坑もSK 5と同じ樹皮状木質を用いた木棺墓であったと思われる。

1層を掘り上げた段階で、黄色粘土(2層)で囲まれるように長さ130~145cm、幅45~50cmの長方形に近いプランが検出されたが、これは棺の大きさを示すものと思われる。

出土する土器は、遺構検出面で蓋(125)や甕(124)が出土し、墓坑の中央付近から西半部に集中する。覆土中からは壺(131)が口縁部を下に向けて逆位で出土した。

SK 8 (第24図・図版9)

墓坑群の中で、SK 7の北側に位置する。平面プランは長方形に近いがやや丸みを帯びている。長軸長165cm、最大幅は60cmを測り、長軸の方位はN-67°-Wを向く。

墓坑底面の外周付近には、木棺の痕跡と思われる黒色のシルトが検出された。また土層断面の観察からも垂直方向に立ち上がるシルト質の層が観察された。これはいずれも木棺の痕跡を示すものと考えられることから木棺墓と判断した。これらの痕跡から推定される棺の内寸は、長さが

135～140cm、幅は30～33cmとなる。墓坑の断面は「U」字形で、床面は平坦である。床面の標高は102.35～40を測り、西側がやや高く東へ緩く傾斜する。

平面及び土層断面の観察からは2次的な掘り込みの痕跡は確認されなかった。また遺物の出土もなかった。

SK 9 (第25図・図版10)

墓坑群の中で最も東寄り、SK 8とSK 10の間に位置する。平面プランは長楕円形で、西側の幅が広がる。長軸長135cm、幅は50～66cmを測り、長軸の方位はN-88°-Wでほぼ東西方向を向く。

底面の所々で繊維方向が墓坑の長軸方向と同じになる木質が検出されたことから、木棺墓と判断した。SK 5から検出された樹皮状の木質とは明らかに質的に異なるもので、原形は板状であったと思われる。樹種同定の結果は「栗」と判定された。木質の周囲からは黒色シルト質の土が検出されており、木質に由来する腐食土と考えられる。

床面はほぼ平坦で、標高は102.35mを測る。床面の東端部から墓坑の短軸方向に延びる黒色のシルトが検出されたが、これを小口の痕跡と想定すると、棺の内寸は長さ100cm程度、幅は東側で30cm、西側で45cm程度と推定される。

平面及び土層断面の観察からは2次的な掘り込みの痕跡等は確認されなかった。また土器などの出土遺物はなかった。

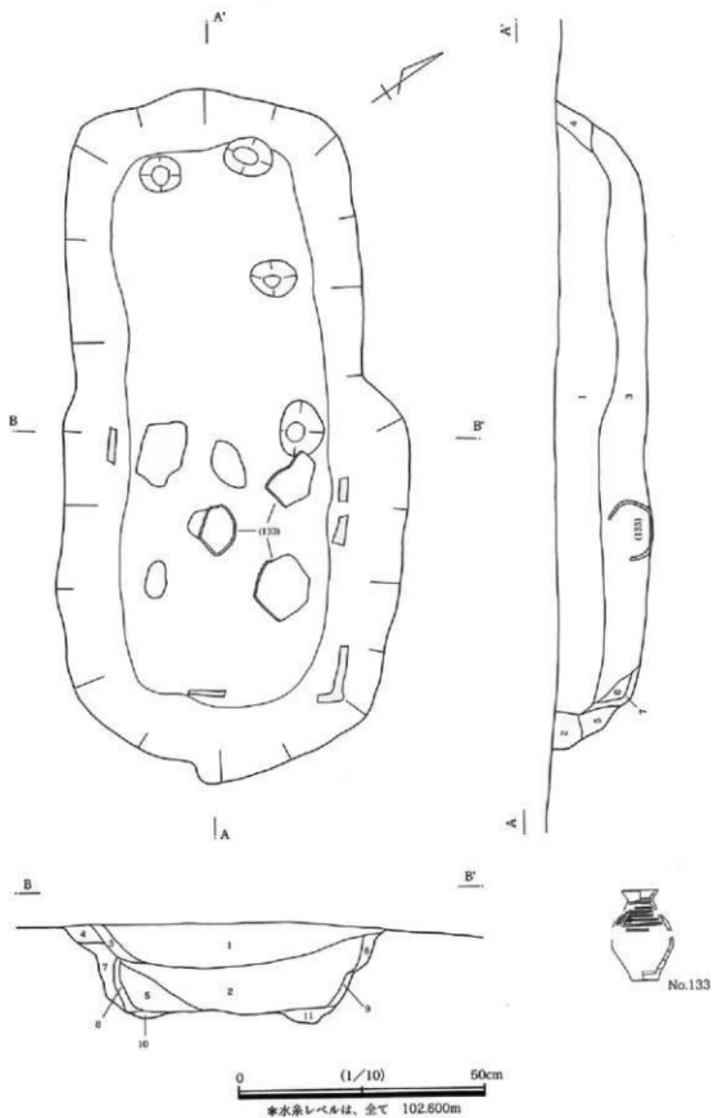
SK 10 (第26図・図版11)

墓坑群の中で最も北寄りに位置する。平面プランは楕円形で、長軸長54cm、短軸長は41cmを測る。大型の壺を2個体組み合わせて用いた土器棺墓である。

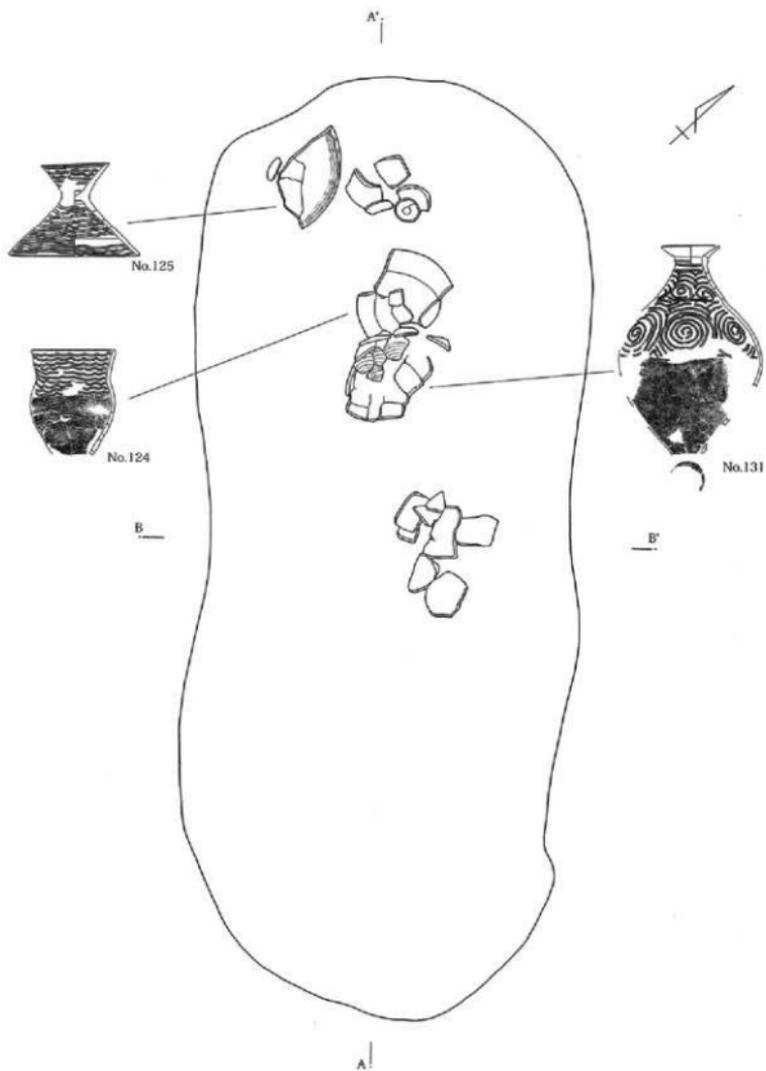
土器棺にあたる下位の壺(134)は、頸部以上及び体部上半の1/3程度を欠き、底部は穿孔される。体部上半の平行沈線文には赤彩の痕跡がわずかに残る。土器よりも若干大きめの掘り方に、底部を下に向けてやや斜めに納められる。土器棺の中軸線は、N-34°-Eを測る。

上位の壺(132)は蓋として用いられたもので、頸部以上及び体部の2/3程度を欠くが、底部は残存し、明瞭な織物圧痕が観察される。土器の割れ口は、水平を意識したような丁寧な割り加工がなされている。土器の内面は、欠損部分から約6cmの幅で器表面が荒れているが、それより内側は良好な状態を保っており、割れ口を水平にして用いたものと推定される。底部外面を上に向けて出土したが、破片の大半は土器棺内部に落ち込んだ状態で出土した。

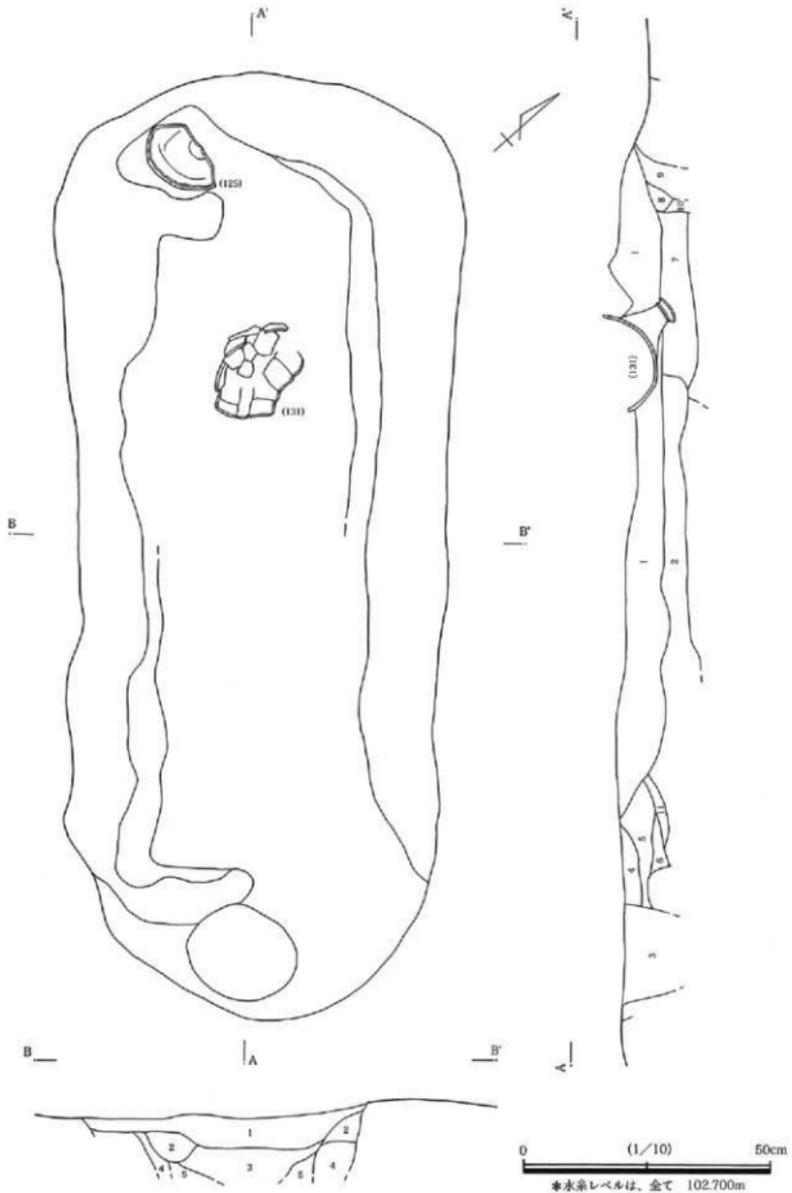
掘り方及び土器棺内部の覆土中からは、土器以外に遺物の出土はなかった。



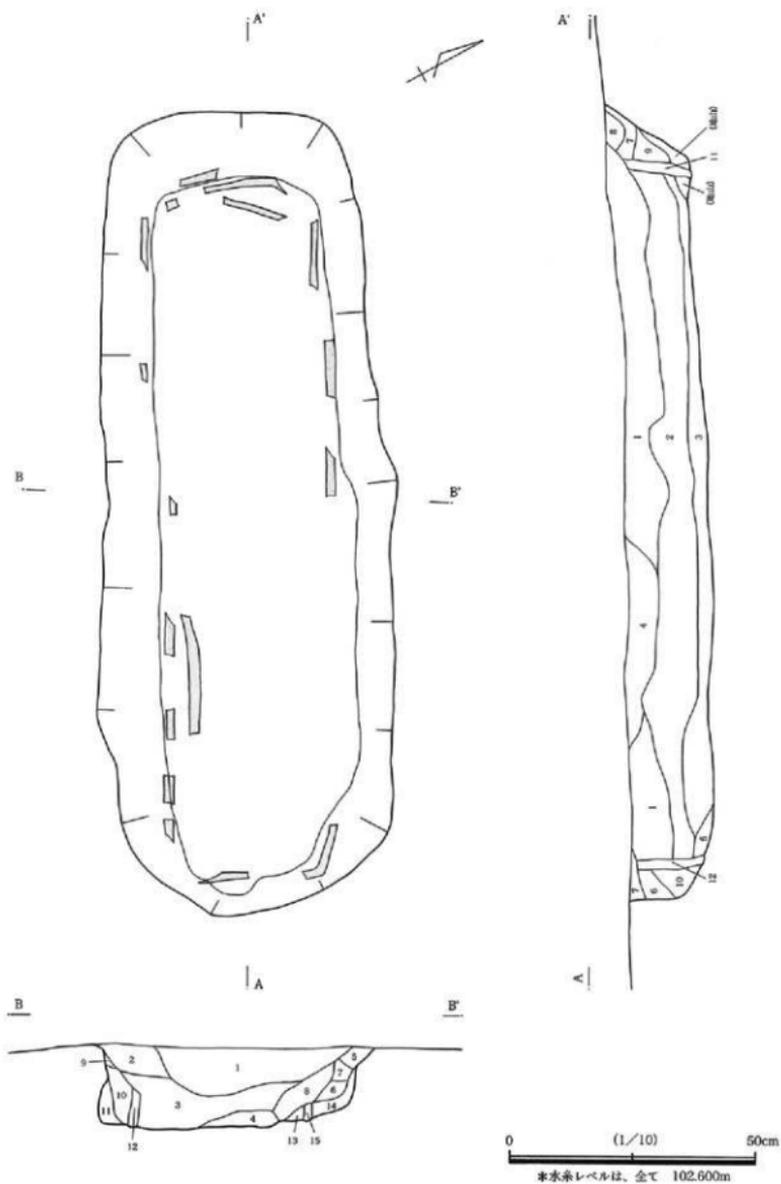
第21図 SK6平面図及びセクション



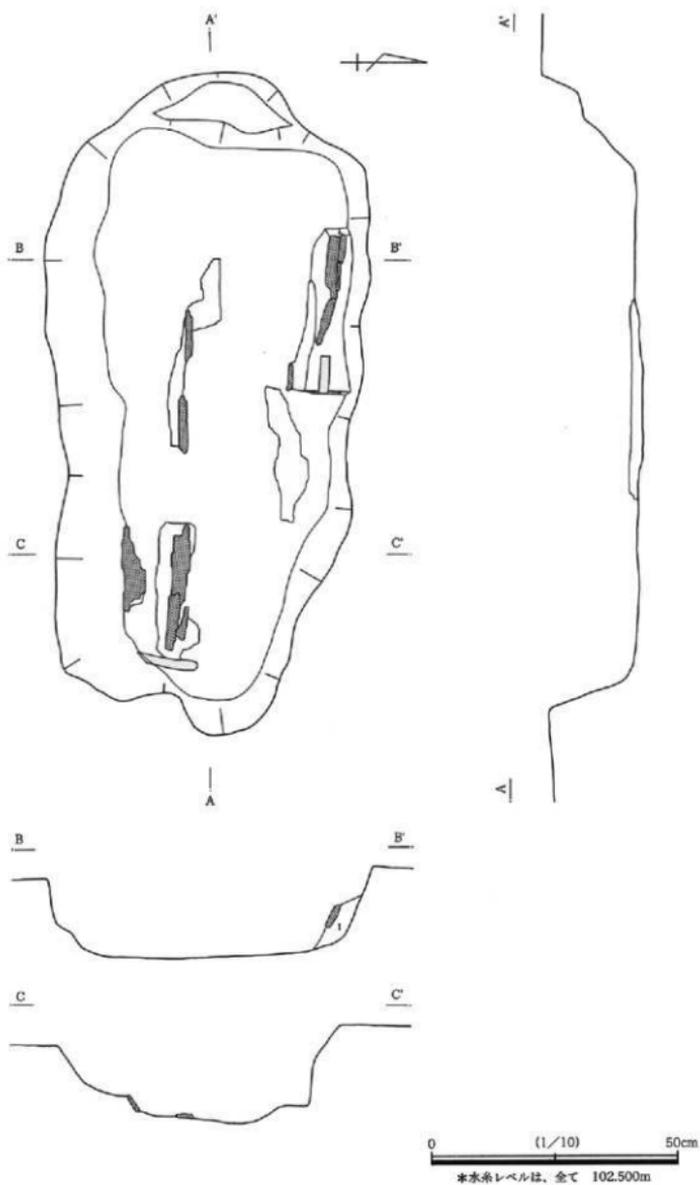
第 22 図 SK7 遺物出土状況



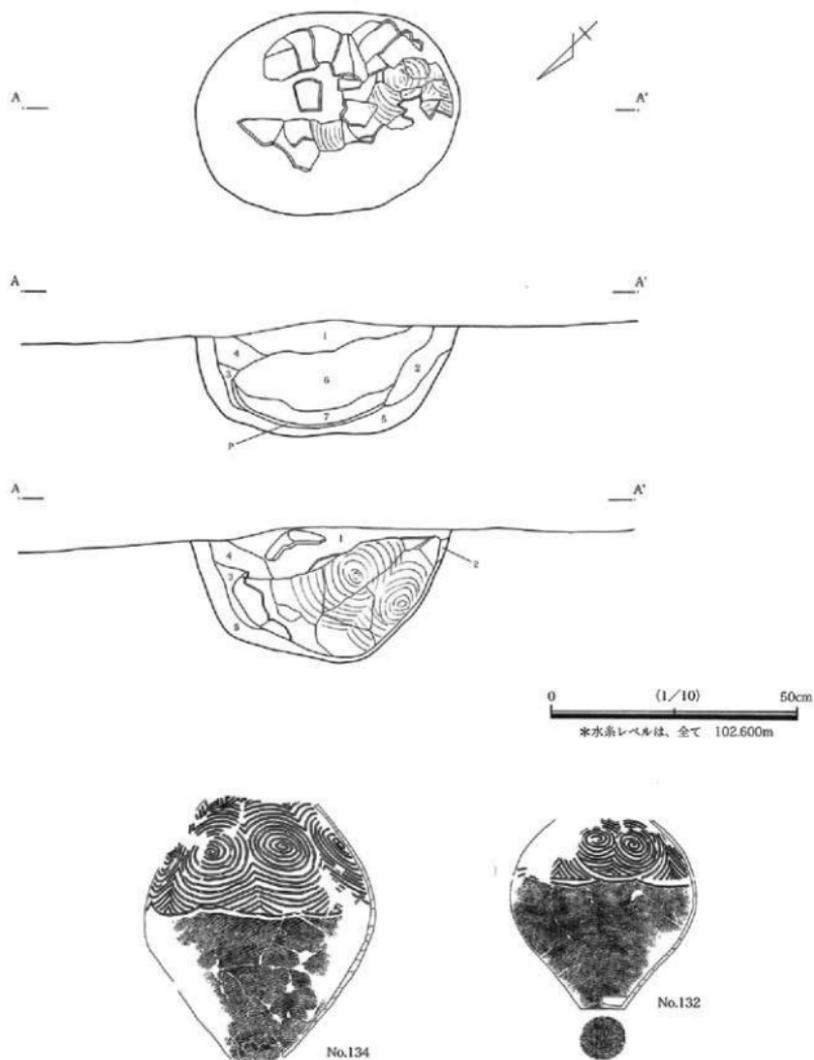
第 23 図 SK7 平面図及びセクション



第24図 SK8 平面図及びセクション



第25図 SK9平面図及びエlevation図



第26図 SK10平面図及びセクション

表4 SK5土層建造①

流積層号	セクション記号	層序	土色	土質	備考
		1	10YR 2/1	砂質土	均質
		2	10YR 3/1	砂質シルト	2. 5Y6/2砂質土(φ10~25mm)、N2/O砂質土(φ3~5mm)が混じる 木質を含む 植物質を多く含む
		3	10YR 3/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土が混じる
		4	10YR 1. 7/1	砂質土	
		5	10YR 1. 7/1	砂質土	やや粘性がある
		6	10YR 3/1	砂質土	5Y6/2砂質土が少々混じる しみが少ない
		7	10YR 2/1	砂質土	5Y6/2砂質土が混じる
		8	10YR 2/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ3~5mm)が混じる
		9	10YR 2/2	砂質シルト	均質 粘性がある
		10	10YR 2/1	砂質シルト	2. 5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が均一に混じる 粘性が強い
		11	10YR 3/1	砂質土	均質
		12	10YR 1. 7/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が混じる 木質を含む
		13	10YR 3/1	砂質土	均質
		14	10YR 2/1	砂質土	均質
		15	10YR 2/1	砂質土	5Y6/2砂質土が混じる
		16	10YR 2/1	シルト	均質 粘性がある
		17	10YR 2/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が少々混じる
		18	10YR 3/1	砂質土	5Y6/2砂質土が混じる
		19	10YR 1. 7/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土(φ10~12mm)が混じる
		20	10YR 3/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ5~8mm)が均等に混じる
		21	10YR 2/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ3~5mm)が混じる
		22	10YR 2/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ10~12mm)が混じる
		23	10YR 1. 7/1	砂質土	均質
		24	10YR 2/1	砂質土	5Y6/2砂質土が少々混じる
		25	10YR 3/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が少々混じる
		26	10YR 2/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が混じる 木質を含む
		27	10YR 3/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ3~5mm)が混じる
		28	10YR 2/2	砂質土	5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が混じる
		29	10YR 3/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ5~8mm)が均一に混じる N2/O砂質土(φ5mm)が混じる
		30	10YR 3/1	砂質シルト	5Y6/2砂質土(φ5~8mm)が少々混じる 植物質を多く含む 粘性がある
		31	10YR 3/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ10~12mm)が混じる
		32	10YR 2/1	砂質土	5Y6/2砂質土が混じる
		33	2. 5Y 5/2	砂質土	均質
		34	2. 5Y 3/1	砂質土	N2/O砂質土(φ10~20mm)が混じる
		35	2. 5Y 4/1	砂質シルト	5Y6/1砂が混じる
		36	2. 5Y 4/1	砂質シルト	5Y6/1砂が混じる N2/O砂質土が少々混じる
		37	10YR 2/2	砂質シルト	均質 しみがなし
		38	7. 5YR 2/1	砂質シルト	均質 粘性あり
		39	10YR 4/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土が均等に混じる しきる
		40	10YR 2/1	砂質土	5Y6/2砂質土が混じる N2/O砂質土(φ5~8mm)が混じる
		41	10YR 2/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ8~15mm)が均等に混じる N2/O砂質土(φ3~5mm)が混じる
		42	2. 5Y 6/2	砂質土	10YR3/1砂質土、N2/O砂質土(φ5~8mm)が混じる
		43	2. 5Y 4/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ5~8mm)、N2/O砂質土(φ2~3mm)が混じる
		44	10YR 3/1	砂質土	5Y6/2砂質土が均等に混じる しきる
		45	10YR 2/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ10~20mm)が混じる
		46	10YR 3/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ5~10mm)が混じる
		47	10YR 3/1	砂質土	5Y6/2砂質土が少々混じる
		48	10YR 2/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ3~15mm)、N2/O砂質土(φ3~5mm)が混じる
		49	10YR 3/1	砂質土	5Y6/2砂が混じる
		50	10YR 3/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ3~5mm)、N2/O砂質土(φ2~3mm)が混じる
		51	5Y 6/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ8~10mm)が混じる
		52	2. 5Y 4/1	砂質土	2. 5Y6/2砂(φ3~10mm)、N2/Oシルト(φ3~5mm)が少々混じる
		53	5Y 6/2	砂質土	10YR4/1砂質土が混じる
		54	2. 5Y 4/1	砂質土	N2/Oシルト(φ3~8mm)、2. 5Y6/1砂質土(φ5~8mm)が混じる
		55	10YR 3/1	砂質土	均質
		56	10YR 2/1	砂質シルト	均質
		57	10YR 3/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が混じる
		58	10YR 2/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が混じる
		59	2. 5Y 4/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ10~15mm)が混じる
		60	2. 5Y 5/2	砂質土	2. 5Y7/2砂質土(φ15~20mm)が少々混じる
		61	10YR 3/1	シルト	均質
		62	2. 5Y 4/2	砂質土	2. 5Y6/2砂質土(φ2~3mm)、N2/O砂質土(φ2~10mm)が混じる
		63	2. 5Y 6/2	砂	均質
		64	10YR 3/1	砂質土	均質
		65	10YR 3/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が均一に混じる N2/O砂質土(φ2~3mm)が混じる
		66	10YR 3/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ3~6mm)が混じる
		67	10YR 3/1	砂質土	5Y6/2砂質土が少々混じる
		68	2. 5Y 4/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ2~3mm)、N2/O砂質土(φ2~3mm)が均一に混じる
		69	5Y 6/1	砂	5Y6/2砂質土、N2/O砂質土(φ2~3mm)が均一に混じる
		70	10YR 2/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ2~3mm)、N2/O砂質土(φ8mm)が混じる
		71	10YR 2/1	シルト	5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が少々混じる N2/O砂質土(φ2~3mm)が均一に混じる
		72	2. 5Y 3/2	砂質土	5Y6/1砂、N2/O砂質土が混じる やや粘性がある
		73	2. 5Y 4/1	砂質土	土質砂
		74	10YR 2/2	砂質シルト	均質
		75	10YR 2/2	シルト	均質 粘性強
		76	10YR 2/1	砂質シルト	均質
		77	10YR 3/1	シルト	均質
		78	5Y 5/1	砂質シルト	均質
		79	10YR 3/1	砂質土	5Y6/1砂質土(φ10~12mm)、N2/O砂質土(φ8~10mm)が均一に混じる
		80	2. 5Y 6/2	砂質土	均質
		81	5Y 6/2	砂	N2/O砂質土(φ5~8mm)が均一に混じる
		82	5Y 6/2	砂	均質
		83	5Y 6/2	砂	10YR3/1砂質土(φ10~12mm)が混じる

III 河原田遺跡

表5 SK5土層表記の

遺構番号(セクション記号)	層序	土色	土質	備考
A	84	10YR 2/2	砂質土	5Y6/2砂質土(φ3~5mm)が少々混じる
	85	10YR 1.7/1	砂質シルト	5Y6/2砂質土(φ5~8mm)が混じる 粘性がある
	86	5Y 6/2	砂	10YR1.7/1砂質土が少々混じる
	87	2.5Y 4/1	砂質シルト	均質
	88	2.5Y 3/1	砂質シルト	植物質が多く混じる
	89	10YR 1.7/1	砂質シルト	植物質が混じる
	90		シルト	亀穴
	91		シルト	亀穴
	1	10YR 3/1	砂質土	2.5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が混じる
	2	5Y 6/2	砂質土	2.5Y7/2砂質土(φ15~20mm)が少々混じる
	3	10YR 3/1	砂質土	2.5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が均一に混じる N2/O砂質土(φ2~3mm)が混じる
4	2.5Y 4/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ2~3mm)、N2/O砂質土(φ2~3mm)が均一に混じる	
5	2.5Y 4/1	砂質土	N1.6/O砂質土のプロットが少々混じる	
6	2.5Y 3/1	砂質シルト	木質が多く含まれる	
7	10YR 2/1	シルト	5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が少々混じる N2/O砂質土(φ2~3mm)が均一に混じる	
8	2.5Y 3/2	砂質シルト	均質	
9	2.5Y 4/1	砂質土	均質 しまる 樹皮状の木質を多く含む	
10	2.5Y 3/2	砂質土	5Y5/1砂、N2/O砂質土が混じる やや粘性がある	
11	5Y 5/1	砂質土	均質 しまりがある	
12	2.5Y 3/2	シルト	均質	
13	5Y 5/1	砂質土	均質 しまりがある 樹皮状の木質を多く含む	
14	10YR 3/1	砂質土	均質 粘性が強い	
15	10YR 3/1	砂質土	均質 粘性がある	
16	10YR 2/2	シルト	均質 粘性が強い	
17	2.5Y 5/2	砂	均質 しまる *埋材の痕跡か	
18	2.5Y 5/2	砂	均質 しまる *埋材の痕跡か	
19	2.5Y 5/1	砂質土	均質	
20	2.5Y 3/1	砂質土	5Y6/2砂質土が少々混じる	
21	2.5Y 3/1	砂質土	5Y6/2砂質土が混じる	
22	2.5Y 3/2	砂質土	しまる	
23	2.5Y 4/2	砂質土	しまる	
24	2.5Y 4/1	砂質土	5Y6/2砂質土(φ3~5mm)が混じる	
25	2.5Y 4/1	砂質土	5Y6/2砂質土が混じる	
26	2.5Y 4/1	砂質土	均質 しまる	
1	10YR 3/1	砂質土	5Y6/2砂質土がわずかに混じる しまる	
2	10YR 3/1	砂質土	5Y6/2砂(φ5~10mm)が混じる	
3	2.5Y 5/1	砂質シルト	樹皮状の木質が混じる	
4	10YR 3/1	砂質土	5Y6/2砂が混じる	
5	10YR 2/1	砂質土	均質 しまる	
6	10YR 2/1	砂質シルト	均質	
7	10YR 4/1	砂質土	2.5Y6/2砂が少々混じる	
8	2.5Y 4/1	砂質土	均質	
9	2.5Y 4/1	砂質土	2.5Y6/2砂(φ3~10mm)、N2/Oシルト(φ3~5mm)が少々混じる	
10	5Y 6/1	砂	均質	
11	2.5Y 5/1	砂質土	2.5Y6/2砂、10YR4/1砂質土が混じる	
12	2.5Y 6/2	砂質土	2.5Y6/2砂が混じる	
13	2.5Y 6/2	砂質土	N2/Oシルト(φ8mm)が混じる	
14	10YR 4/1	砂質シルト	均質	
15	2.5Y 4/1	砂質土	N2/Oシルト(φ3~8mm)、2.5Y6/1砂質土(φ5~8mm)が混じる	
16	2.5Y 6/2	砂	均質	
17	2.5Y 4/1	砂質土	N2/Oシルト、2.5Y6/1砂質土が混じる	
18	2.5Y 6/1	砂質シルト	樹皮状の木質が混じる	
19	10YR 4/1	砂質土	均質	
20	2.5Y 6/2	土質砂	しまる	
21	2.5Y 5/2	砂質土	N2/Oシルト(φ5mm)が混じる	
22	2.5Y 4/1	砂質シルト	均質 粘性は強い	
23	10YR 4/1	砂質土	均質	
24	2.5Y 4/1	砂質土	2.5Y6/2砂が少々混じる	
25	2.5Y 4/1	砂質土	2.5Y6/2砂(φ3~5mm)が均一に混じる	
26	2.5Y 5/1	砂質土	均質	
27	2.5Y 5/2	砂質土	2.5Y7/2砂、N2/Oシルト(φ2~5mm)が均一に混じる	
28	2.5Y 7/2	砂	2.5Y4/1砂質土、2.5Y6/2砂が混じる	
29	2.5Y 7/2	砂	2.5Y4/1砂質土が少々混じる	
30	2.5Y 6/2	砂質土	2.5Y6/1砂質土(φ2~3mm)が均一に混じる	
31	2.5Y 6/2	砂質土	2.5Y7/2砂(φ8~10mm)が均一に混じる	
32	2.5Y 6/2	砂質土	10YR4/1砂質土、10YR2/1砂質シルトが混じる	
33	10YR 2/1	砂質土	2.5Y6/2砂(φ2~3mm)が均一に混じる	
34	10YR 2/1	砂質シルト	均質	
35	2.5Y 4/1	砂質土	2.5Y6/2砂が混じる	
36	5Y 6/2	砂質土	10YR4/1砂質土が混じる	
37	2.5Y 7/2	砂	均質	
38	2.5Y 7/2	砂	均質	
39	10YR 3/1	砂質シルト	均質	
40	2.5Y 4/1	砂質土	2.5Y7/2砂(φ3~5mm)が均一に混じる	
41	2.5Y 4/1	砂質シルト	均質 粘性は強い	
42	2.5Y 6/2	砂質土	N2/Oシルト(φ3~5mm)が均一に混じる	
43	N 2/O	シルト	均質	
44	2.5Y 4/1	砂質土	しまる	
45	2.5Y 4/1	砂質土	2.5Y6/2砂(φ3~5mm)が均一に混じる N2/Oシルト(φ10mm)が混じる	
46	10YR 3/1	砂質土	2.5Y6/2砂(φ5~8mm)が混じる	
(1)	10YR 3/1	砂質土	均質	
2	10YR 4/1	砂質土	均質	
3	10YR 4/1	砂質土	2.5Y6/2砂質土が均質に混じる しまる	
4	2.5Y 4/1	砂質土	2.5Y6/1砂質土(φ5~10mm)が混じる	

SK5

表6 SK5土層地層④

遺構番号	セクション記号	層序	土色	土質	備考		
SK5	D	5	N 2/0	砂質土	2. 5Y6/1砂質土(φ5~20mm)が混じる		
		6	2. 5Y 3/1	砂質土	N2/O砂質土(φ10~20mm)が混じる		
		7	5Y 6/1	砂			
		8	2. 5Y 3/1	砂質土	N2/O砂質土, 5Y6/1砂が混じる		
		9	2. 5Y 4/1	砂質シルト	5Y6/1砂が混じる		
		10	2. 5Y 3/1	砂質土	N2/O土, 5Y6/1砂が混じる		
		11	10YR 4/1	砂質シルト	やや粘性がある		
		12	5Y 5/2	砂質土			
		13	10YR 4/1	砂質シルト	均質		
		14	5Y 4/1	砂質土			
		15	5Y 4/1	砂質土	10YR4/1砂質土がブロック状に混じる		
		16	5Y 5/2	砂	5Y4/1砂質土, 10YR4/1砂質土が混じる		
		17	2. 5Y 4/1	砂質土	5Y5/2砂が少々混じる		
		18	5Y 2/1	砂質土	5Y6/1砂が混じる		
		19	5Y 6/2	砂質土	10YR4/1砂質シルトが少々混じる		
		20	5Y 5/2	砂質土			
		21	10YR 4/1	砂質シルト	均質		
		22	N 2/0	シルト	均質 しまる 木質の腐食土		
		23	5Y 6/2	砂質土			
		24	2. 5Y 5/2	砂質土	5Y6/2砂(φ30~40mm)が混じる		
		25	5Y 4/1	砂質土	N2/O土(φ5mm)が混じる		
		26	5Y 6/1	砂			
		27	2. 5Y 4/1	砂質土	5Y6/1砂が少々混じる		
		28	5Y 6/2	砂質土	N2/O土(φ5mm)が少々混じる		
		29	5Y 3/2	砂質シルト	均質		
		30	2. 5Y 5/2	砂質土	均質 しまる		
		31	2. 5Y 4/1	砂質土	5Y6/2砂質土が少々混じる		
		32	10YR 3/1	砂質シルト	均質		
		33	10YR 4/1	砂質土	均質 しまる		
		34	2. 5Y 4/1	砂質土	5Y6/2砂が少々混じる		
		35	7. 5YR 2/1	砂質シルト	均質 粘性あり		
		36		シルト	虫穴		
		37		シルト	虫穴		
		38		シルト	虫穴		
		E		1	10YR 1. 7/1	砂質土	均質
				2	10YR 2/1	砂質土	2. 5Y6/2砂(φ3~5mm)に少々混じる
				3	10YR 2/2	シルト	2. 5Y6/2砂が少々混じる
				4	10YR 2/2	砂質土	均質 やや粘性がある
				5	10YR 3/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が均一に混じる
				6	2. 5Y 3/1	砂質土	10YR2/1砂質土(φ3~5mm)が混じる
	7			10YR 3/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土(φ8mm)が混じる	
	8			10YR 1. 7/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土が混じる	
	9			10YR 1. 7/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土(φ3~5mm)が塊状に混じる	
	10			10YR 2/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土が少々混じる	
	11			10YR 2/1	砂質シルト	やや粘性がある 木質を含む	
	12			10YR 1. 7/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土が混じる 木質を含む	
	13			10YR 2/1	砂質土	しまりなし	
14	10YR 2/1			砂質土	2. 5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が少々混じる		
15	10YR 2/2			シルト	2. 5Y6/2砂質土(φ3~5mm)が混じる		
16	10YR 2/1			砂質土	2. 5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が少々混じる しまりなし		
17	10YR 2/1			砂質土	均質		
18	10YR 2/1	砂質シルト	やや粘性がある 均質				
19	10YR 3/1	砂質シルト	2. 5Y6/2砂質土(φ10~25mm), N2/O砂質土(φ3~5mm)が混じる 木質を含む 植物質を多く含む				
20	10YR 2/1	砂質シルト	2. 5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が均一に混じる 粘性が強い				
21	10YR 2/1	砂質土	均質				
22	10YR 3/1	砂質土	均質				
23	10YR 3/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土(φ3~6mm)が均一に混じる N2/O砂質土(φ10mm)が少々混じる				
24	2. 5Y 4/1	砂質土	均質				
25	10YR 4/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土がブロック状に混じる				
26	10YR 3/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が均一に混じる N2/O砂質土が少々混じる				
27	7. 5YR 3/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が均一に少々混じる しまりがない				
28	10YR 3/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土(φ3~6mm)が均一に少々混じる				
29	10YR 3/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土(φ3~6mm)が均一に混じる N2/O砂質土が少々混じる				
30	10YR 2/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が均一に混じる N2/O砂質土がブロック状に混じる				
31	10YR 3/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土(φ5mm)が均一に混じる				
32	10YR 2/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土(φ2~3mm)がわずかに混じる ほぼ均質				
33	10YR 4/1	砂質土	均質				
34	2. 5Y 4/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土が均一に混じる				
35	10YR 2/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土(φ2~3mm)が均一に混じる				
36	10YR 2/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土(φ5~10mm)が均一に混じる				
37	7. 5YR 2/1	砂質シルト	2. 5Y6/2砂質土の粒子がわずかに混じる N2/O砂質土(φ10mm)が少々混じる				
38	2. 5Y 4/1	砂質土	2. 5Y6/2砂質土が塊状に混じる				
39	10YR 3/1	砂質土	均質				
40	10YR 2/1	砂質土	5Y5/1砂が混じる				
41	5Y 4/1	砂質土	均質				
42	10YR 2/1	シルト	5Y5/1砂と2. 5Y5/2砂が混じる				
43	2. 5Y 3/1	シルト	均質				
44	5Y 5/1	土質砂	10YR2/1シルトが少々混じる				
45	5Y 5/2	土質砂	10YR2/1シルトが均質に混じる				
46	2. 5Y 4/1	砂質シルト	2. 5Y6/2砂のブロックが少々混じる				
47	10YR 2/1	シルト	均質 木質の腐食土				

III 河原田遺跡

表7 SK6-7・8・9・10土層表記

遺構番号(セクション記号)	層序	土色	土質	備考	
SK6	A	1	10YR3/1	シルト	均質、土層片を含む
		2	10YR3/1	砂質シルト	均質
		3	2.5Y3/2	砂質シルト	10YR3/1シルトが混じる
		4	2.5Y3/2	砂質シルト	10YR3/1シルトが混じる
		5	2.5Y3/2	粘質シルト	10YR3/1砂質シルトが混じる
		6	10YR2/1	シルト	均質
		7	10YR2/1	シルト	均質、粘性強
	B	1	10YR3/1	シルト	均質、土層片を含む
		2	10YR2/1	シルト	5Y3/1砂質シルト(φ3~6mm)が均一に混じる、土層片を含む
		3	2.5Y3/2	砂質シルト	10YR3/1シルトが混じる
		4	10YR3/1	シルト	均質
5		10YR2/1	砂質シルト	均質	
6		5Y3/1	砂質シルト	10YR3/1シルトが少々混じる	
7		2.5Y4/1	砂質シルト	5Y3/1砂質シルトが混じる	
8		2.5Y4/1	シルト	均質、粘性強	
9		2.5Y4/1	シルト	均質	
10		10YR2/1	シルト	均質	
11		10YR2/1	シルト	均質、木質の腐葉土	
SK7	A	1	10YR3/1	砂質シルト	均質
		2	5Y4/1	砂質シルト	10YR3/1砂質シルトが混じる
		3	10YR3/1	シルト	2.5Y3/2砂質シルト(φ2~6mm)が均一に混じる
		4	10YR3/1	砂質シルト	2.5Y3/2砂質シルトが少々混じる、しまる
		5	10YR2/1	砂質シルト	2.5Y3/2砂質シルトが少々混じる、粘性強
		6	10YR3/1	砂質シルト	均質
		7	10YR2/1	シルト	2.5Y3/2砂質シルト(φ2~6mm)が均一に混じる
	B	1	10YR3/1	砂質シルト	均質
		2	5Y4/1	砂質シルト	2.5Y3/2砂質シルト(φ2~6mm)が均一に混じる
		3	10YR2/1	砂質シルト	均質
		4	10YR1.3/1	砂質シルト	均質
		5	10YR2/1	砂質シルト	均質
		6	10YR2/1	砂質シルト	均質
		7	2.5Y2/2	砂質シルト	5Y4/1砂質シルトが少々混じる
SK8	A	1	10YR2/1	砂質シルト	2.5Y3/2砂質シルト(φ2~6mm)が均一に混じる
		2	10YR2/1	砂質シルト	均質
		3	10YR2/1	砂質シルト	均質
		4	10YR2/1	シルト	均質、腐葉土、粘性強
		5	2.5Y3/2	砂質シルト	均質、5Y3/1砂質シルトが混じる
		6	10YR2/1	砂質シルト	均質
		7	10YR2/1	シルト	10YR3/1砂質シルトが少々混じる
		8	10YR2/1	シルト	5Y3/1砂質シルトが混じる
		9	2.5Y4/1	砂質シルト	均質
		10	5Y3/2	砂質シルト	10YR2/1シルト(φ3mm)が少々混じる
		11	2.5Y3/2	砂質シルト	10YR2/1シルト(φ2~6mm)が混じる
		12	2.5Y3/1	シルト	均質、粘性強
		13	10YR2/1	砂質シルト	均質
		14	10YR2/1	砂質シルト	均質
B	1	10YR2/1	砂質シルト	2.5Y3/2砂質シルト(φ2~6mm)が均一に混じる	
	2	10YR2/1	砂質シルト	均質	
	3	10YR2/1	シルト	均質、腐葉土、粘性強	
	4	2.5Y3/2	砂質シルト	10YR2/1砂質シルトが少々混じる	
	5	10YR2/1	砂質シルト	2.5Y3/2砂質シルトが混じる、しまる	
	6	2.5Y3/2	砂質シルト	均質	
	7	2.5Y3/2	砂質シルト	10YR3/1砂質シルトが混じる	
	8	10YR3/1	砂質シルト	均質	
	9	10YR2/1	砂質シルト	2.5Y3/2砂質シルトが混じる	
	10	10YR2/1	砂質シルト	均質	
	11	10YR4/1	砂質シルト	粘性強、10YR3/1砂質シルトが混じる	
	12	2.5YR4/1	砂質シルト	粘性強、10YR3/1砂質シルトが混じる	
SK9	B	1	10YR2/1	シルト	2.5Y4/1砂質シルト(φ2~6mm)が均一に混じる
SK10	A	1	10YR2/1	シルト	均質
		2	2.5Y4/1	砂質シルト	10YR2/1シルトが混じる
		3	10YR2/1	シルト	均質
		4	10YR2/1	シルト	2.5Y4/1砂質シルトが混じる
		5	5Y4/1	砂質シルト	10YR2/1シルトが少々混じる
		6	2.5YR4/2	シルト	均質
		7	10YR2/2	シルト	均質、粘性強

4 弥生時代の出土遺物

弥生時代の遺物は、土器を主体に遺物整理箱にして10箱程度出土した。遺物が出土するのは、墓坑群、SG 3、及びSK 2 6とその周辺に集中する。特に墓坑からは、完形に近い土器がいくつかまとまって出土している。

以下に、各墓坑から出土した土器群について概述する。

SK 5 (第33~35図・図版14~16)

126と127は甕で、同一個体になると思われる。体部外面には撚り糸文が施文され、底部からの立ち上がり付近はナデである。頸部から口縁部にかけて外面には、2本の平行沈線(線間3.0mm)による波状文が6条描かれる。口縁端に最も近い1条は直線文となる。内面は丁寧なナデである。底部は穿孔されるが、外面には織物圧痕が確認できる。なお、内外面には炭化物が多量に付着する。

128は大型の壺で、体部以下を欠く。覆土中から130と隣り合って、正位で出土した。外面には2本の平行沈線(線間3.5mm)で渦文もしくは同心円文が描かれる。頸部には断面三角形の突帯が1条めぐり、口縁部はやや外反しながら外傾する。口縁部の内面にも2本の平行沈線(線間3.5mm)で文様が描かれ、縦方向の区画線が3ヵ所確認できる。内面は丁寧なナデであるが、輪積み痕が明瞭に観察できる。

129は中型の壺で、体部の1/2を欠く。大半は遺構検出面からの出土であるが、一部破片は覆土中から出土している。外面には、体部の中ほどから上半に2本の平行沈線(線間2.5mm)で文様が描かれる。文様帯は3段で構成され、上段の頸部付近には6単位の渦文、その下の中段には格子状文、さらに下段に重菱形文や山形文が描かれる。体部下半の縄文とは上向きの弧文により区画される。体部外面には、体部上半から口縁部まで赤彩が観察され、特に沈線間の広い部分には赤彩が明瞭に残る。また部分的に黒色の彩色が認められ、沈線間の狭い部分と一部体部下半の地文に及ぶ。頸部には断面三角形の突帯が1条めぐり、口縁部はやや内湾しながら外傾する。体部下半は縄文が施文され、底部からの立ち上がり部分はナデである。内面も丁寧なナデである。底部は穿孔される。

130は中型の壺で、体部の一部を欠く。覆土中から逆位で出土した。外面は、体部の中ほどから上半に、2本の平行沈線(線間2.5mm)で文様が描かれる。頸部付近には8単位の渦文、その下には山形文が描かれ、4条の上向きの弧文により体部下半の付加条縄文と区画される。沈線間の広い部分には赤彩が施され、口縁部の外面まで及ぶ。頸部には断面三角形の突帯が1条めぐり、口縁部は直線的に外傾するが、口唇部がやや外反する。体部下半には付加条縄文が施され、底部からの立ち上がり部分はナデである。底部は穿孔されているが、外面には布圧痕が観察される。

SK 6 (第37図・図版16)

133は小型の壺で、床面直上から破片で出土した。外面上半には、2本の平行沈線(線間4.0mm)で重四角文が対面に2単位描かれ、頸部付近には1条の波状文が描かれる。下半は縄文が施されるが、不明瞭である。底部外面も表面が荒れており痕跡等は不明である。内面は丁寧なナデで、輪積みの痕跡が若干残る。

SK 7 (第32・37図・図版17・18)

124は口縁部が直線的に立ち上がる甕で、底部を欠く。131と隣接して出土した。外面には体部上半から口縁部にかけて、2本の平行沈線（線間2.0mm）で波状文が9条描かれる。体部下半には撚り糸文が施文される。内面は全体が丁寧なナデである。内外面にはススや炭化物が付着しており、特に口縁部の内面と体部上半から口縁部外面に多量の炭化物が付着する。

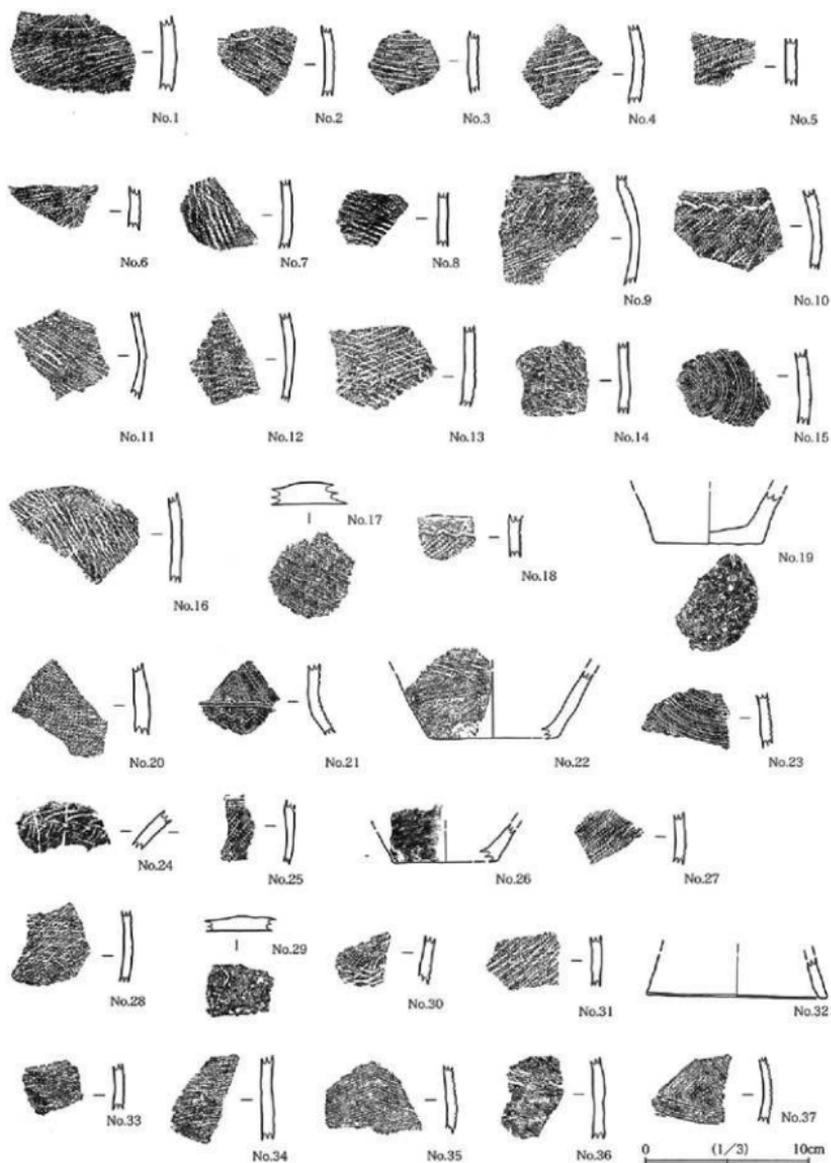
125は、SK 7の西端付近から破片が上下に重なって出土したほぼ完形の蓋である。頸部からツمام部と口縁部が、直線的に「ハ」の字状に開く。口縁部外面には、2本の平行沈線（線間4.0mm）で、10条の波状文と1条の直線文が描かれる。一部で沈線間の狭い部分が彩色されているのが確認されるが、被熱により変色していると思われ色彩は不明である。同様にツمام部外面にも、端部には1条の横位直線文、その下には4条の波状文が描かれる。ただし彩色の痕跡は認められない。また口縁部内面の端部に近い部分にも、2条の波状文と1条の直線文が描かれる。内面は、口縁部及びツمام部とも丁寧なナデである。口縁部外面の端部から1/3部分と、同じく内面の1/2部分には、ススや炭化物が多量に付着する。その炭化物の付着する範囲と124の口径がほぼ一致することから、124と125はセットで使用されたものと思われる。

131は中型の甕で、体部下半の1/3を欠く。覆土中から逆位で出土した。外面上半には、2本の平行沈線（線間2.5mm）により文様が描かれる。文様帯は上下2段で構成され、横位沈線により区画される。上段にはやや小さい渦文7単位と同心円文1単位、下段には大きめの渦文7単位がほぼ均等に描かれる。沈線間の広い部分は赤彩されており、その痕跡は口縁部外面まで確認される。また沈線間の狭い部分と体部下半にかけて、一部に黒色の彩色と思われる部分が観察される。体部下半には縄文が施され、底部からの立ち上がり部分はナデである。底部は穿孔されるが、外面には布圧痕が観察される。頸部には断面三角形の突帯が1条巡るが、張り出しはやや弱い。口縁部はほぼ直線的に外傾する。

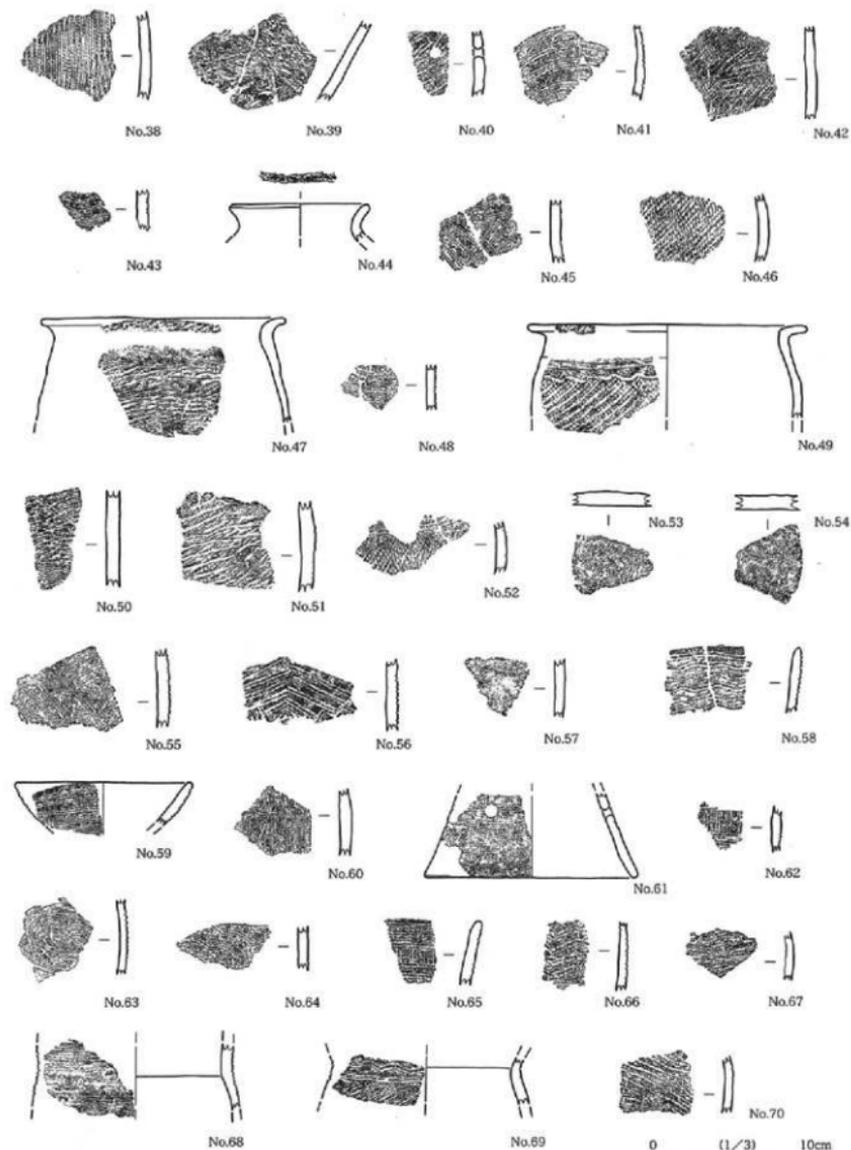
SK 10 (第36図・図版19・20)

132は大型の甕で、頸部以上と体部の2/3程度を欠く。体部外面上半には、2本の平行沈線（線間2.0mm）で、2つの渦文を1つの円文に組み込むような文様が描かれる。体部下半には付加条縄文が施される。底部からの立ち上がり部分はナデである。底部は残存しており、明瞭な布圧痕が観察される。内面は丁寧なナデである。

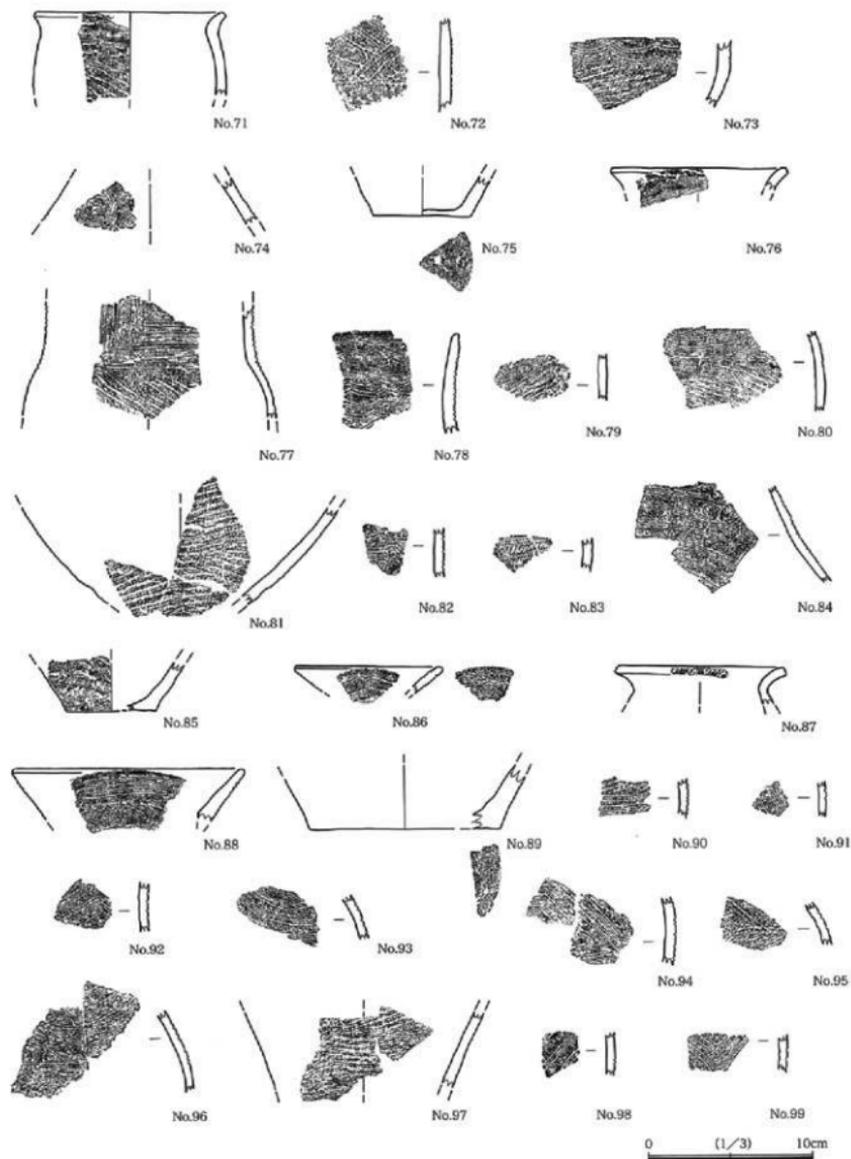
134は大型の甕で、頸部以上と体部上半の1/3程度を欠き、底部も穿孔される。体部外面上半には2本の平行沈線（線間3.0mm）で渦文が5単位以上描かれるが、左巻きと右巻きの渦文が交互に並ぶ。また沈線間の広い部分には、わずかに赤色顔料の付着が認められる。上向きの弧文で区画された体部下半には付加条縄文が施され、底部からの立ち上がり部分はナデである。内面は丁寧なナデである。全体的に輪積みの痕跡が明瞭に残る。



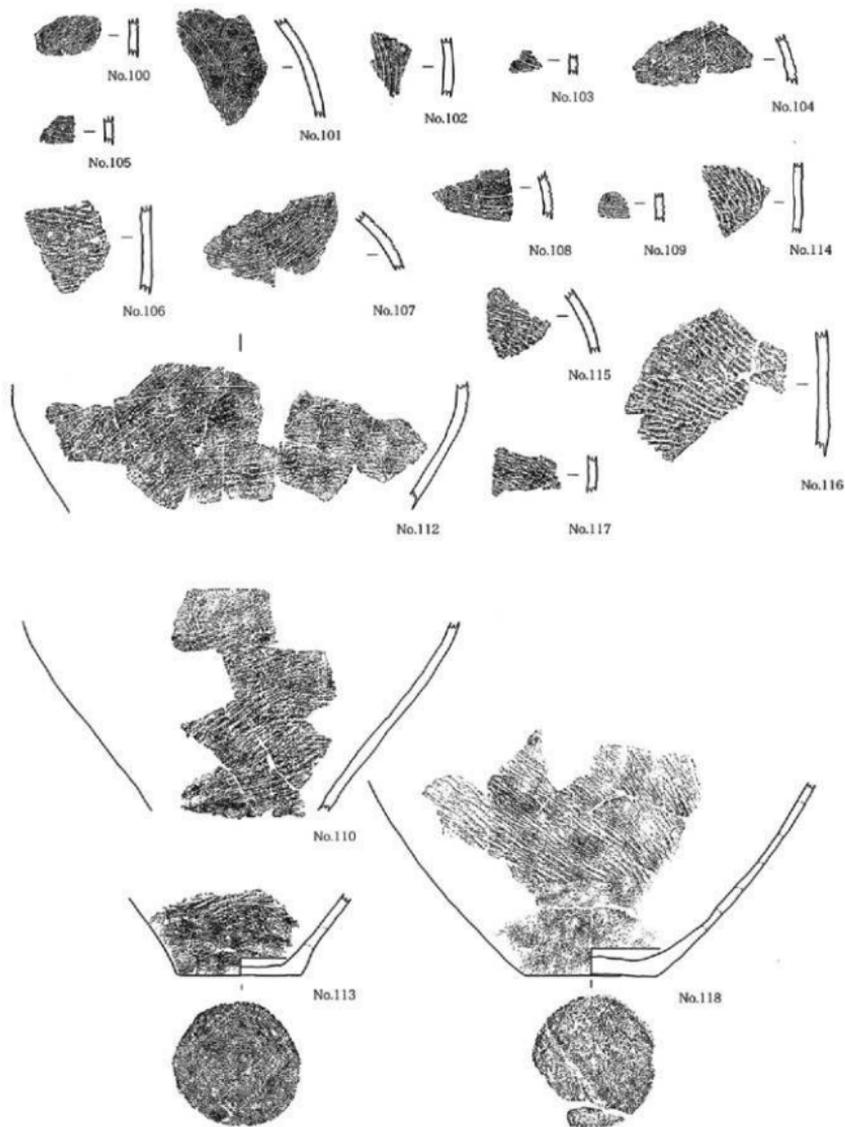
第 27 図 弥生時代出土遺物①



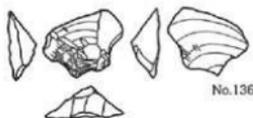
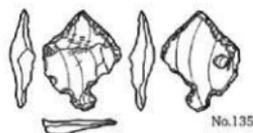
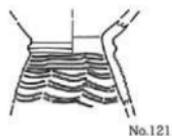
第 28 図 弥生時代出土遺物②



第 29 図 弥生時代出土遺物③

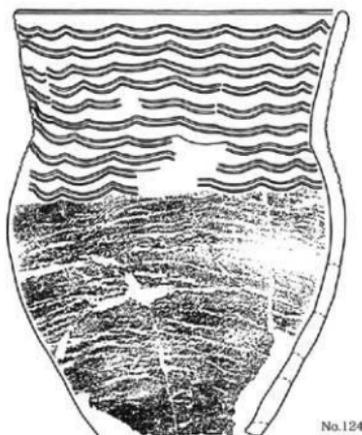
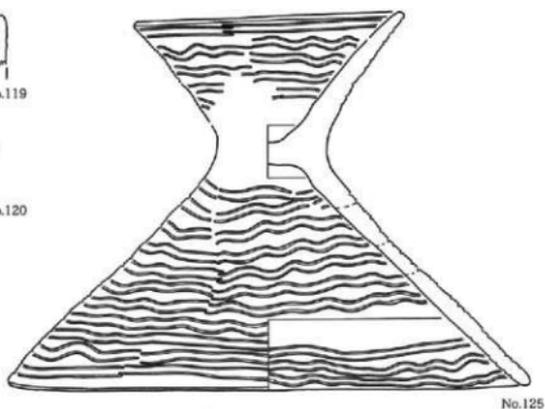


第 30 図 弥生時代出土遺物④



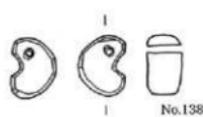
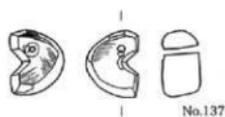
第31圖 弥生時代出土遺物⑤

0 (1/3) 10cm



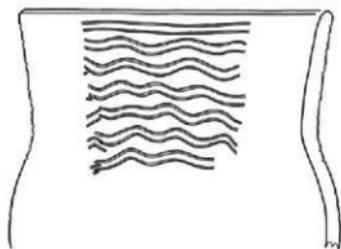
0 (1/2) 10cm

第32圖 SK7 出土遺物



0 (1/1) 5cm

第33圖 SK5 出土勾玉



No.126



No.127

破



No.128

0 (1/2) 10cm

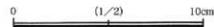
第34圖 SK5 出土遺物①



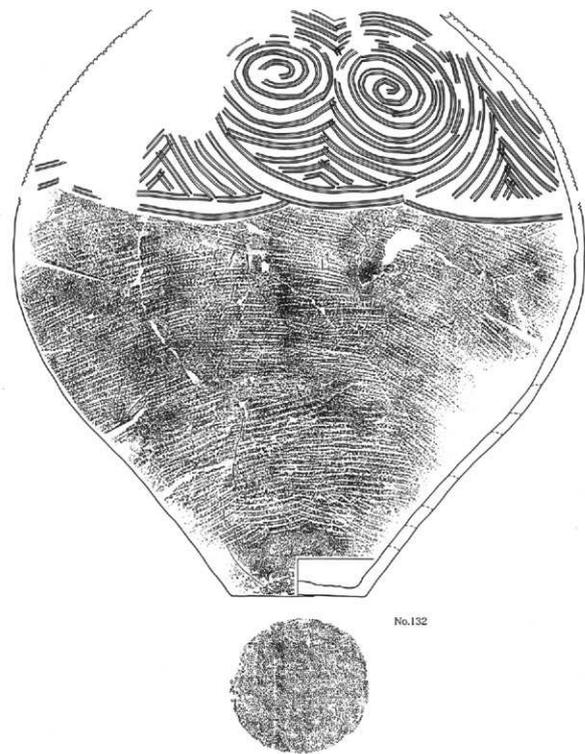
No.129



No.130

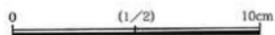
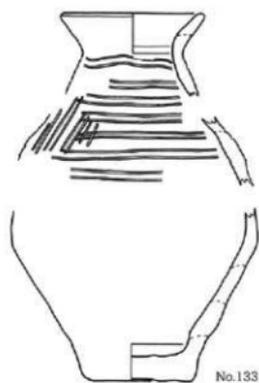
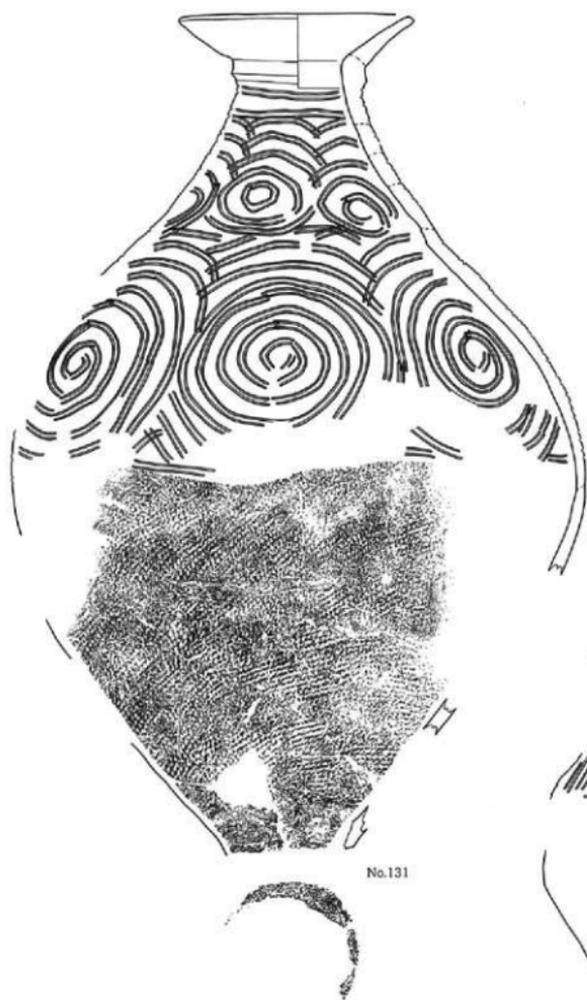


第35図 SK5出土遺物②

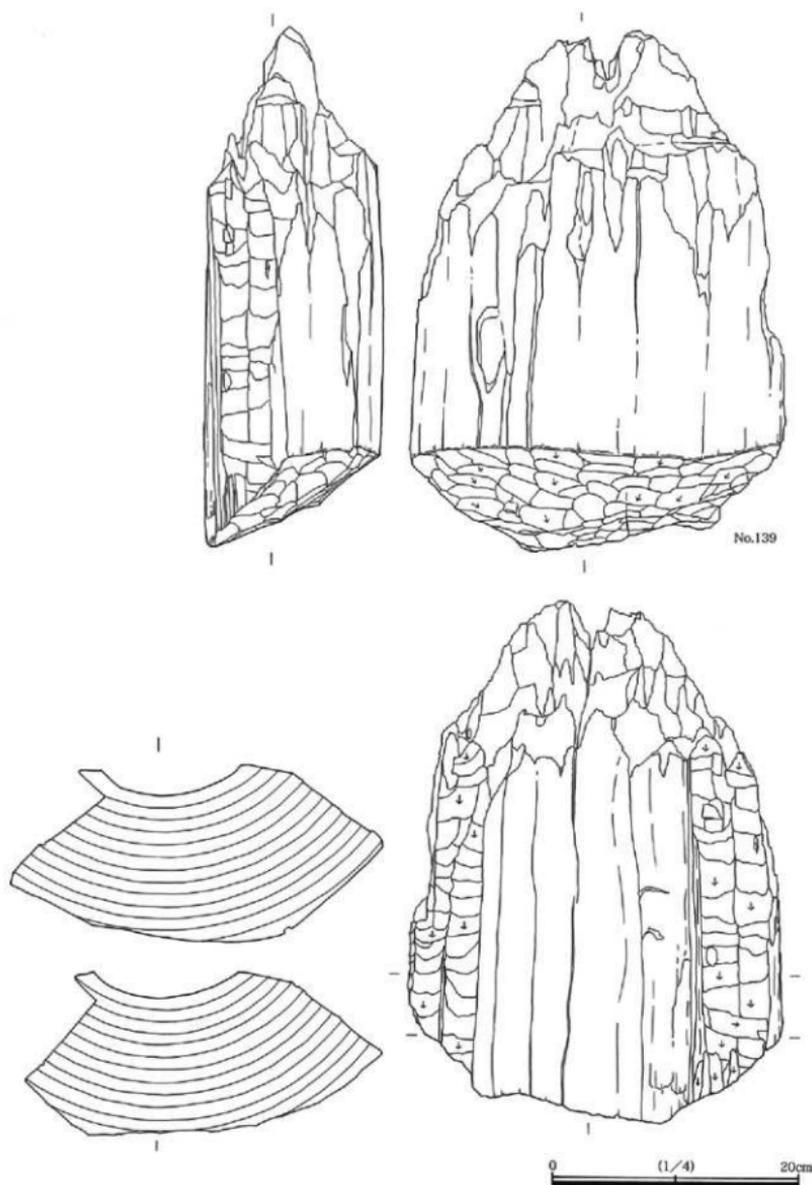


0 (1/2) 10cm

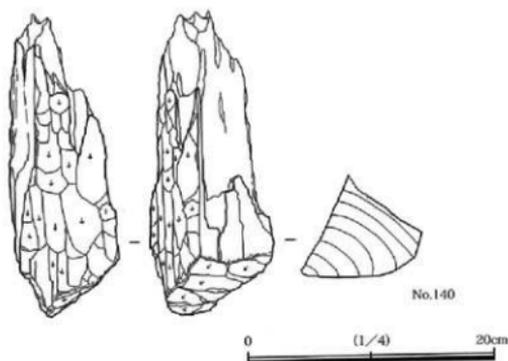
第36圖 SK10出土遺物



第 37 図 SK6・7 出土遺物



第 38 圖 SI25 EP1 出土柱根



第39図 SI11 EP4 出土片模

5 奈良・平安時代の遺構

(1) 溝跡

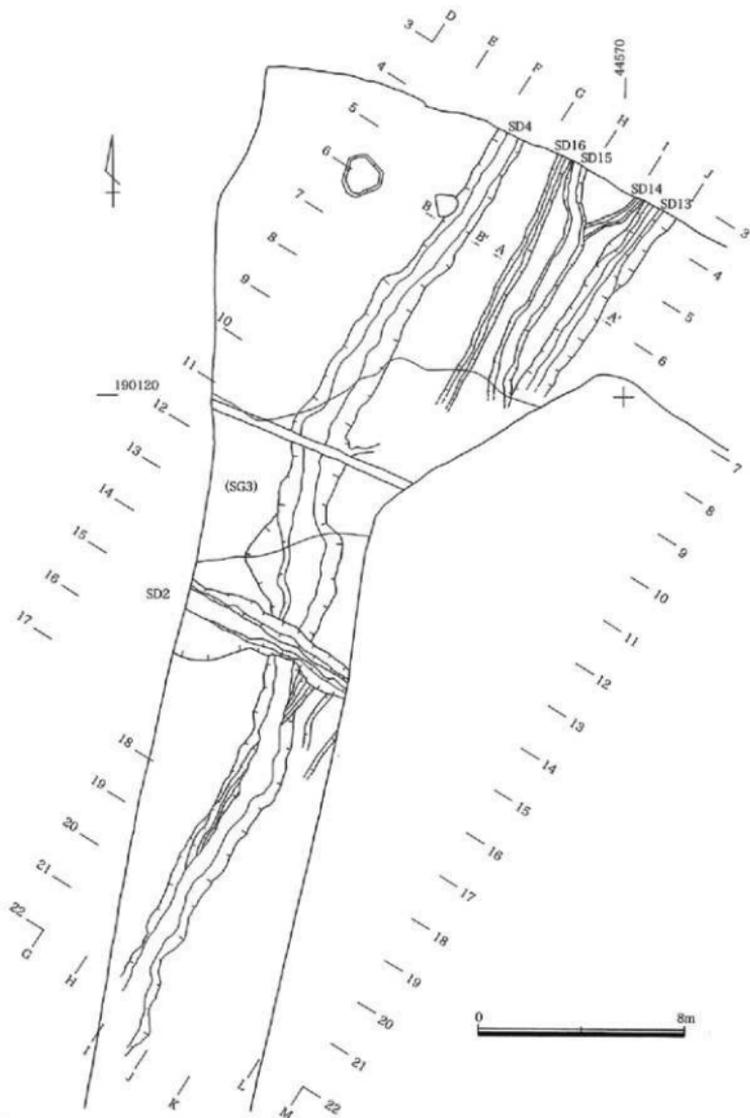
SD 4 (第40・41図・図版12)

最も西側に位置する南北方向の溝跡で、全長約40mを検出した。幅は1.1~3.6m、深さは12~25cmを測る。方位は、北部でN-34°-E、中央部でN-9°-E、南部でN-29°-Eとやや蛇行し、途中SG 3あるいはSD 15・16などを切りながら、調査区外へと延びている。中央付近ではSD 2によって切られる。伴う遺物は、須恵器を主体とし、土師器、赤焼き土器などの破片がほぼ全域から出土する。

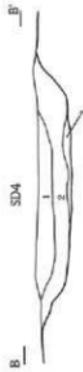
SD 13・14・15・16 (第40・41図・図版12)

SD 4の東側で、ほぼ並列して検出された溝跡群である。方位は、N-27°~34°-Eにほぼ取まるが、直線的なSD 13・16に対し、SD 15はやや蛇行する。いずれもSG 3と交差するあたりで不明瞭になる。遺物は須恵器破片が主体的に出土する。

SD 13は、これらの溝跡のなかで最も東に位置し、約8.8mを検出した。幅1.1~1.4m、深さ14~24cmを測り、北側では断面が階段状になる。SD 14は、幅約40cm、深さ10cm前後の溝で、約2.7mを検出した。SD 15に切られる。SD 15はSD 13とSD 16の間に位置し、やや蛇行して延びる溝で、約10mを検出した。幅64~96cm、深さ12~16cmを測る。その延長は、不明瞭ながらSD 2の南側で再び検出される。SD 16はSD 15とSD 4の間に位置し、約10mを検出した。幅45~72cm、深さ12~18cmを測り、ほぼ直線的に延びる。SG 3付近で一時不明瞭になるが、SD 2の南側で再び検出され、SD 4に切られる。

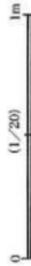


第 40 図 各溝跡平面図及びグリッド図



SD4・13・15・16の層位図

セクション	層位	土層	備考
B	SD4 2	2.517/1 粘質シルト	粘質シルト、原土、原土少量含む、1.017B4/6粘土が少量混入する
	SD4 3	1.017B4/1 粘質シルト	粘質シルト、原土、1.017B4/6粘土、2.514/2粘質シルト少量含む、原土少量含む
	SD13 1	2.517/1 原土	原土、原土少量含む、1.017B3/1粘質シルト少量混入する
A	SD13 2	2.517/2 粘質シルト	粘質シルト、原土、原土少量含む、2.517/3粘質シルト少量含む
	SD16 1	2.517/1 粘質シルト	粘質シルト、原土、原土少量含む、1.017B7/2粘質シルト(1.017B7)を含む
	SD16 2	2.517/1 粘質シルト	粘質シルト、原土、原土少量含む
A	SD14 1	2.517/1 粘質シルト	粘質シルト、原土、原土少量含む、2.514/2粘質シルトが面状に多少混入する
	SD14 2	2.517/1 粘質シルト	粘質シルト、原土、原土少量含む
	SD14 3	2.517/1 砂	1.017B7/2原土、2.517/1粘質シルトが少量混入する



*水糸レベルは、全て 102.500m

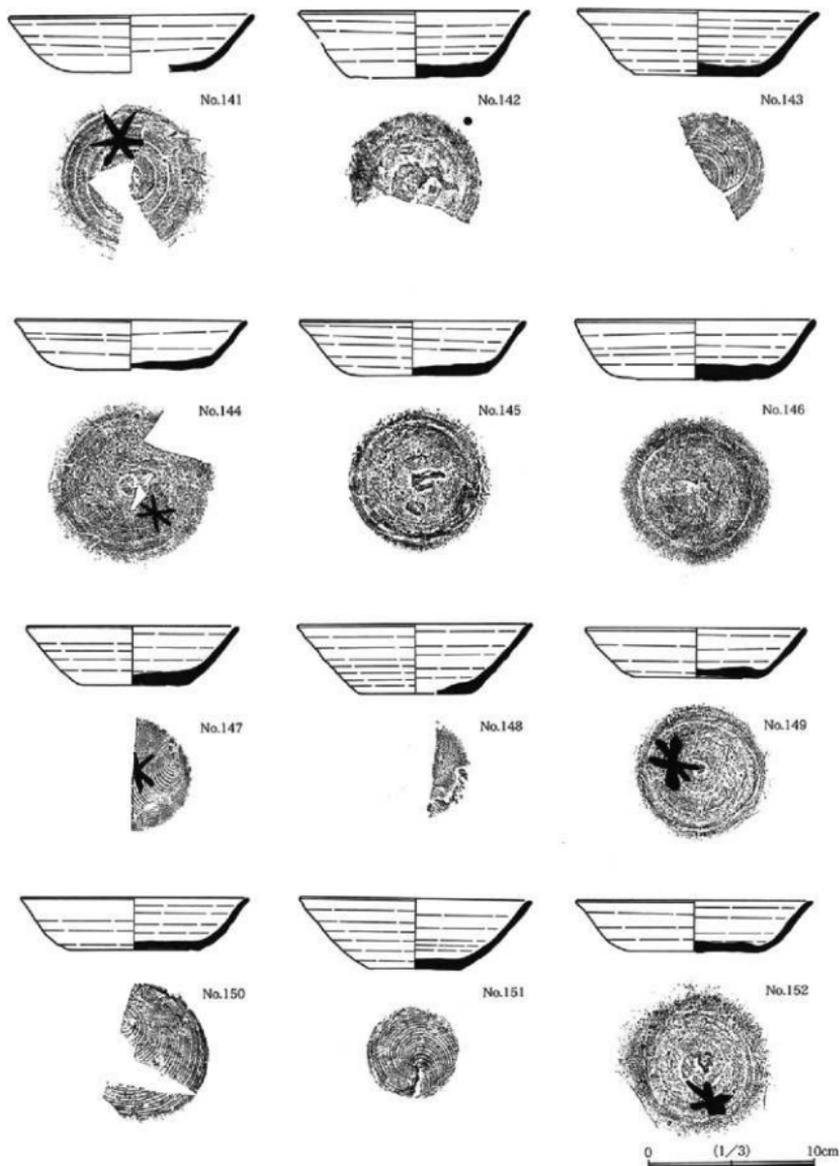
第41図 SD4・13・15・16セクション

6 奈良・平安時代の出土遺物（第42～57図・図版24～41）

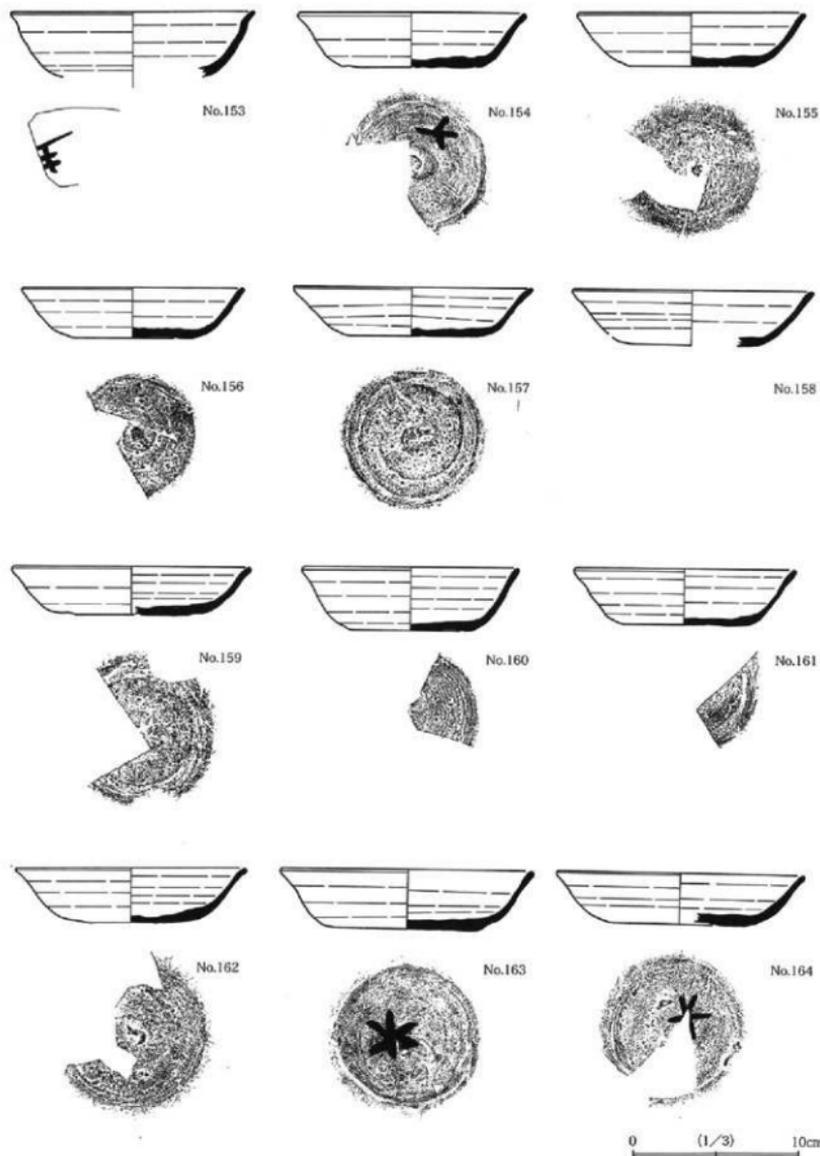
遺物は、須恵器を主体に土師器・赤焼土器などの破片が、溝跡群のほぼ全域から出土した。その数は遺物整理箱にして約20箱に上る。特にSD4の中央部から南部に集中し、SD2を境に南側のI-16・17、H-18、I-21グリッド付近と、北側のF-11、G-12グリッド付近からの出土が多い。また南側では比較的完形に近い個体が多く出土するのに対し、北側では破片での出土が多い傾向がある。

須恵器及び赤焼土器は115点を掲載しているが、そのうち94点が坏である。須恵器坏の底部切り離しは、回転ヘラ切りと回転糸切りが確認されたが、前者が70点で約7割以上を占める。形態的には概して「底径が大きく器高の低いもの（a類）」が多い。そしてこのa類のうち、「底部回転ヘラ切りのもの（a1類）」が半数以上を占める。「同じく底部回転糸切りのもの（a2類）」を合わせると、a類が全体の約7割近くを占める。「底部切り離しが回転糸切りで、底径がやや小さくて器高がやや高く、体部が丸みを帯びて立ち上がるもの」、「同じく体部が直線的に開くもの」は、それぞれおよそ1割程度である。また「底部回転糸切りで、底径が小さく器高が高い赤焼土器」が約1割程度を占める。

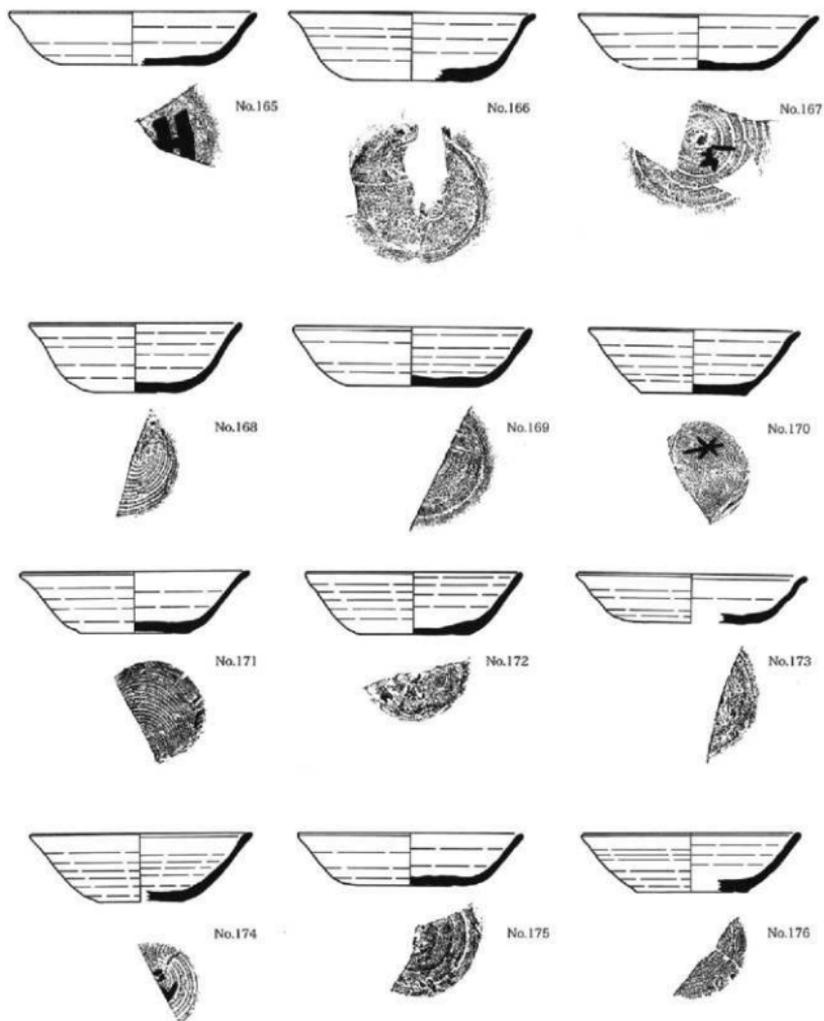
墨書土器は54点が確認された。墨書される部位は、体部外面への墨書は3点のみで、底部外面への墨書が圧倒的多数を占める。文字種の中で最も多いのは「水」に類似する記号で、54点中37点で確認された。そのうちヘラ切りの須恵器坏が32点を占める。ほかには「田宅」「生」「王?」「奉?」及び判読不明12種である。墨書土器の出土位置は、SD4の中央部から南部に集中し、須恵器片と同様の出土傾向を示す。



第42図 奈良・平安時代出土遺物①

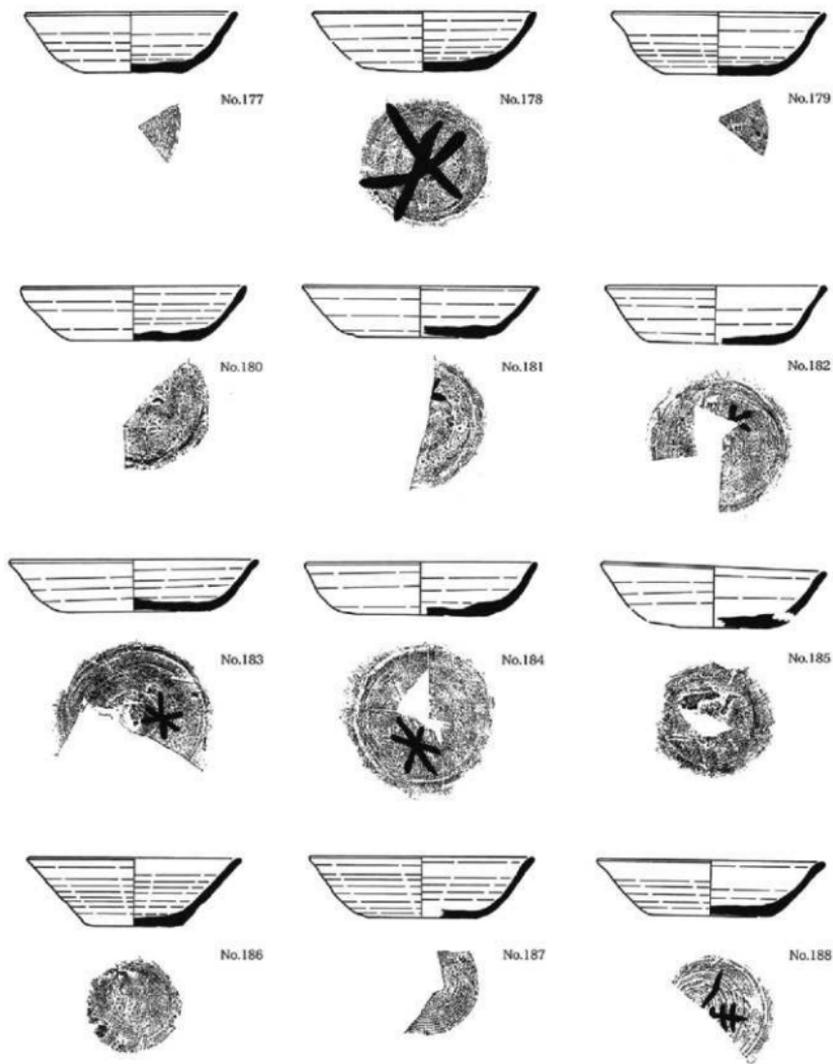


第43図 奈良・平安時代出土遺物②



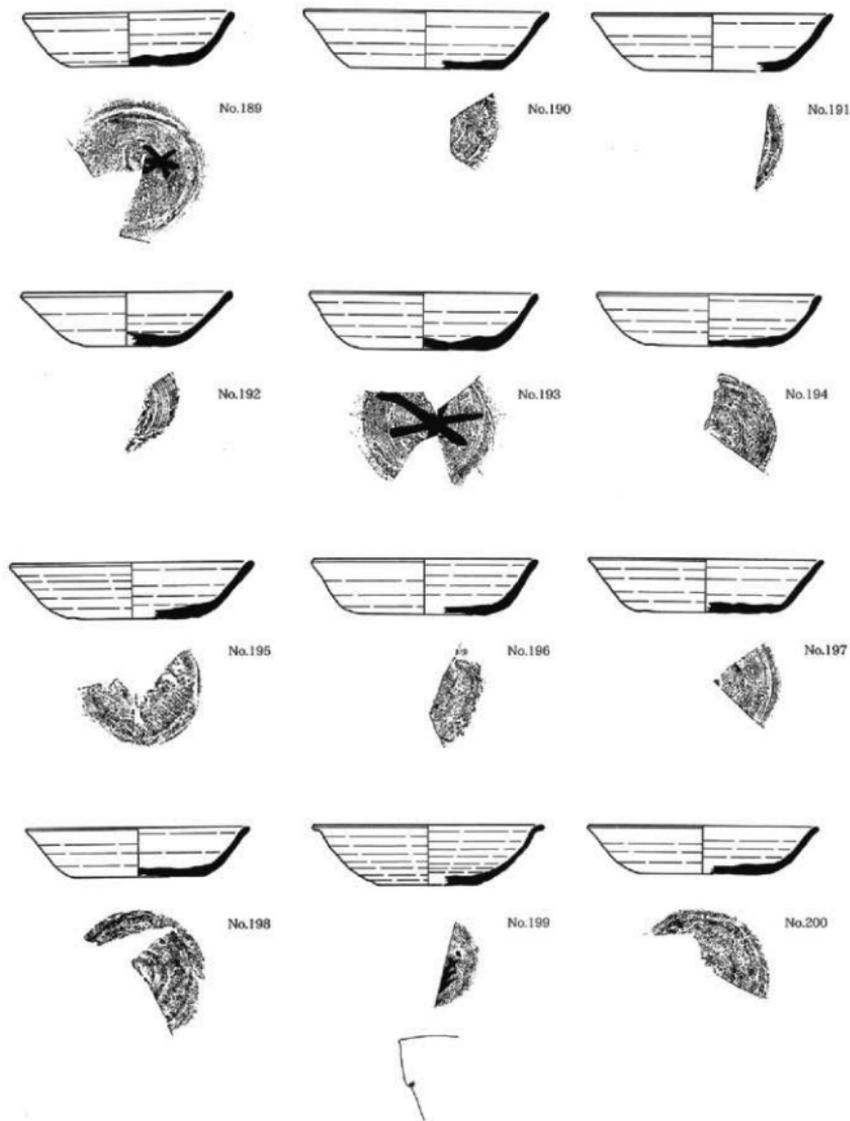
0 (1/3) 10cm

第 44 圖 奈良・平安時代出土遺物③

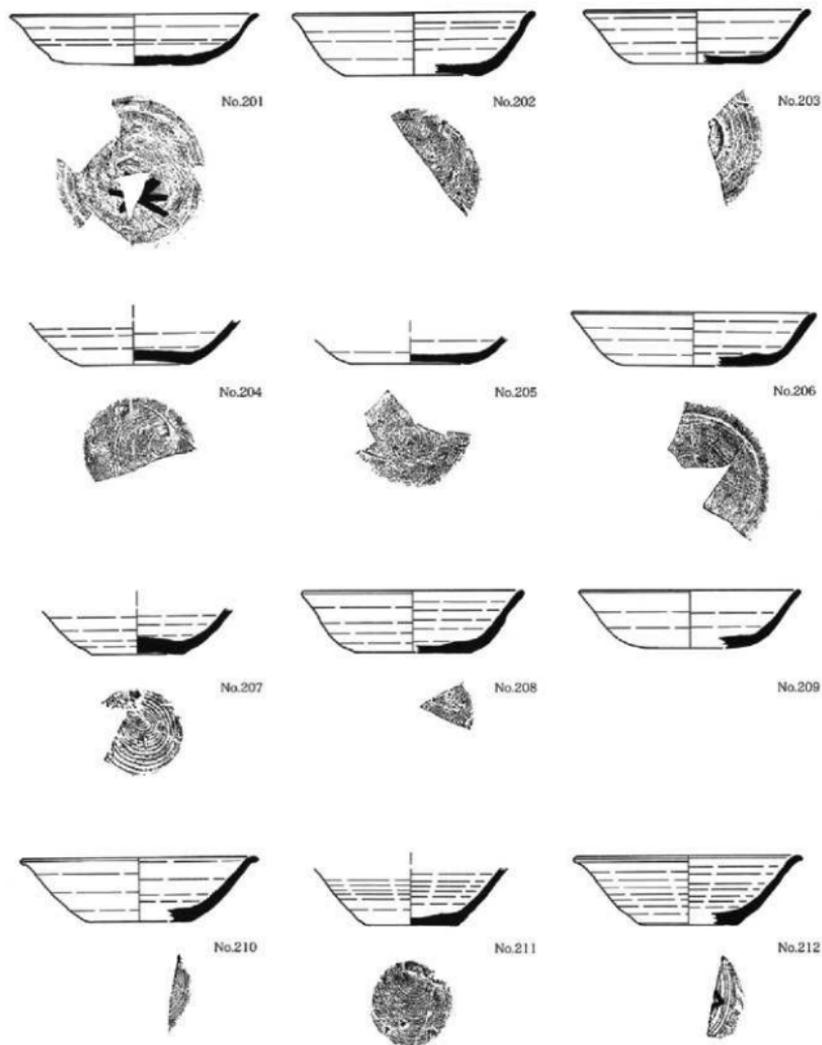


0 (1/3) 10cm

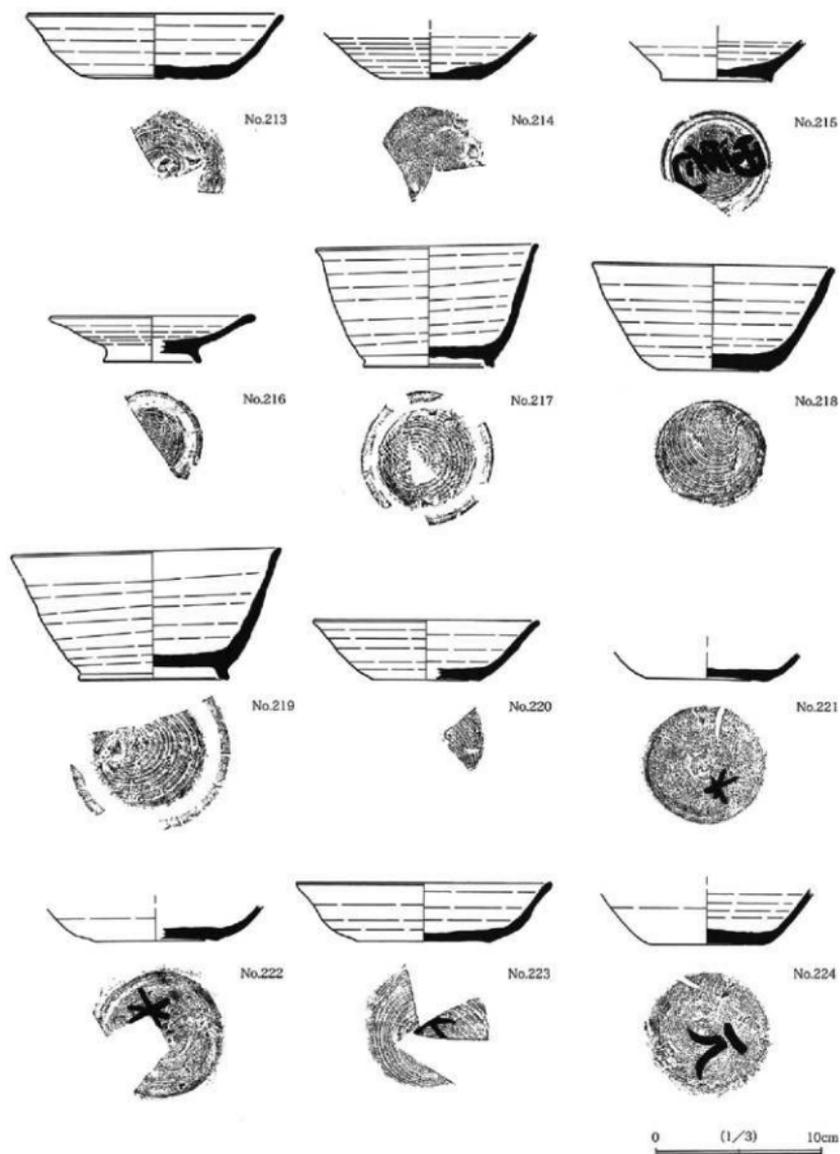
第45圖 奈良・平安時代出土遺物④



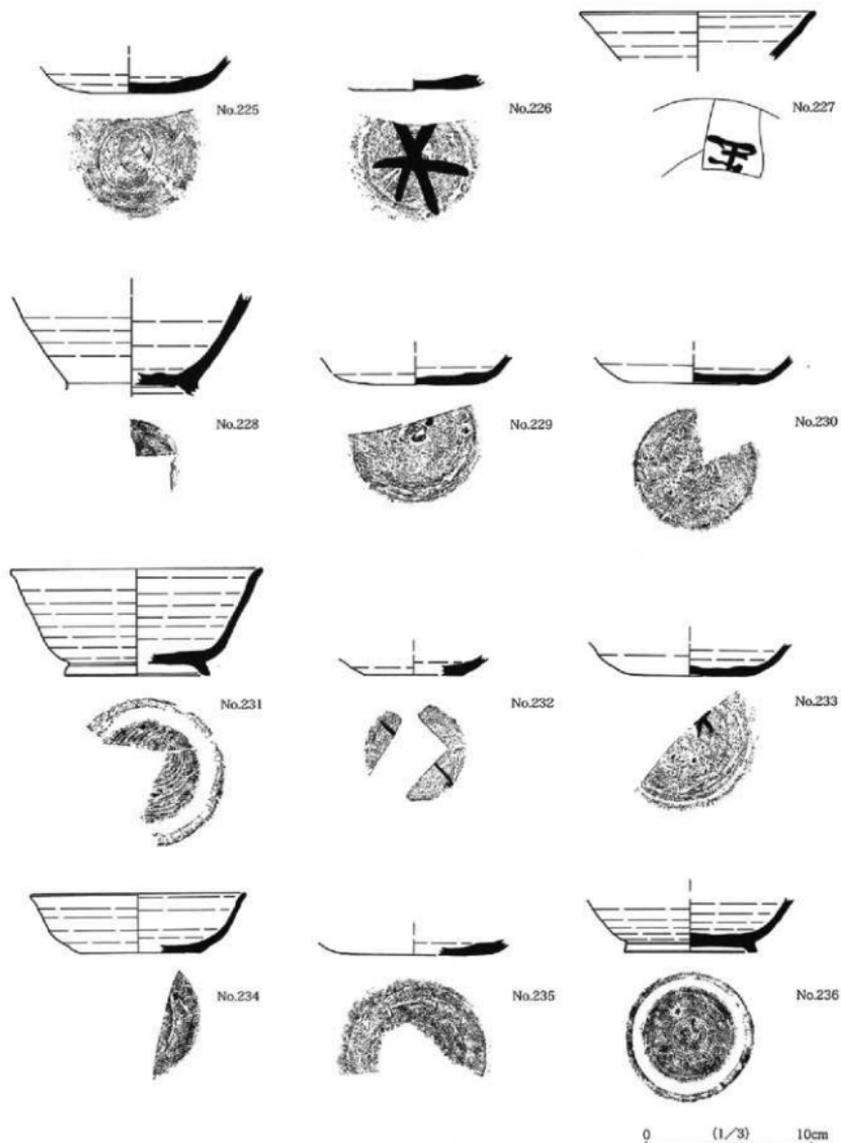
第 46 図 奈良・平安時代出土遺物⑤



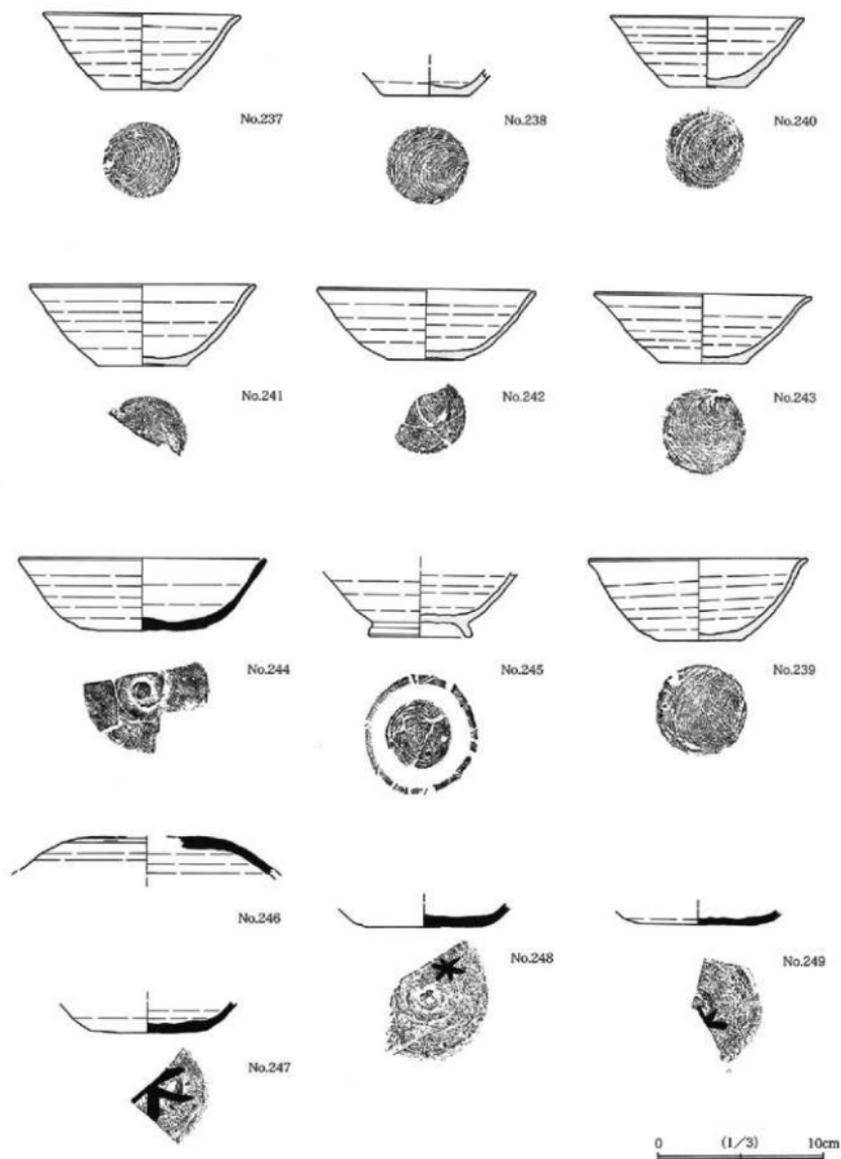
第 47 图 奈良・平安時代出土遺物⑥



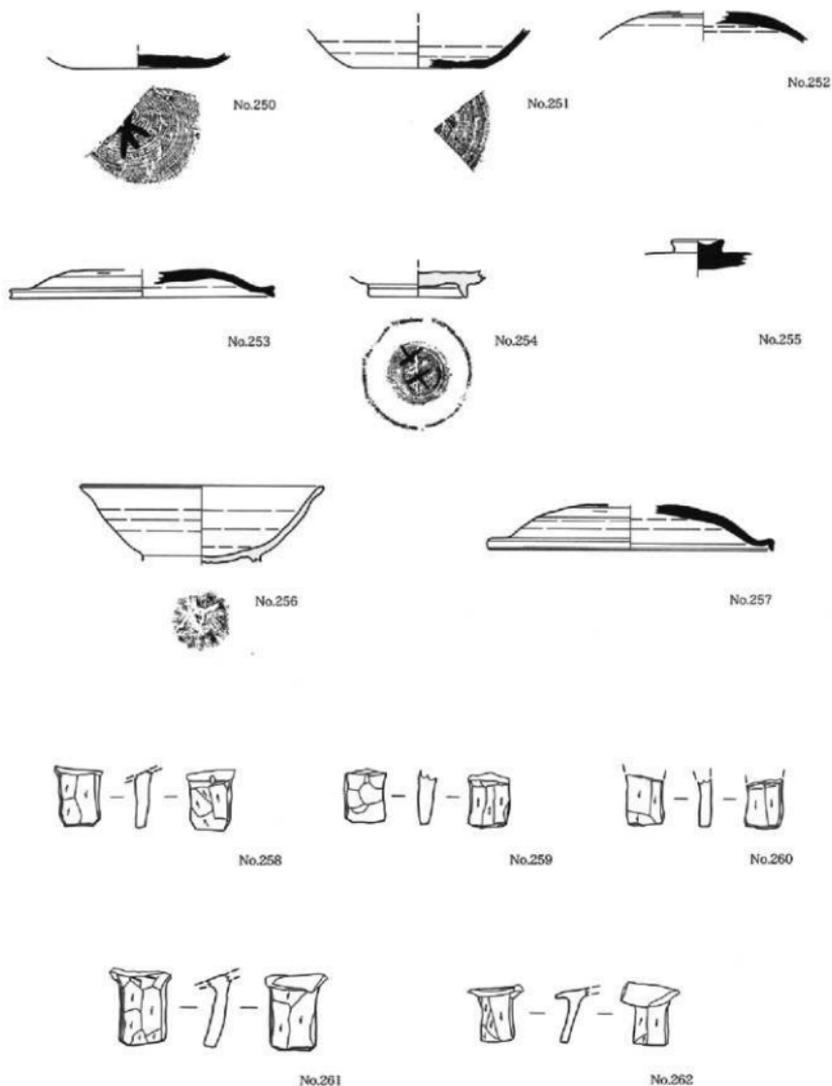
第 48 圖 奈良・平安時代出土遺物⑦



第49圖 奈良・平安時代出土遺物⑧



第 50 圖 奈良・平安時代出土遺物⑨



0 (1/3) 10cm

第 51 圖 奈良・平安時代出土遺物⑩



No.263



No.264



No.265



No.266



No.267



No.268



No.269



No.270



No.271



No.272



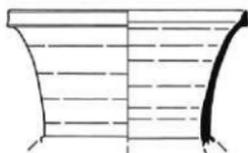
No.273



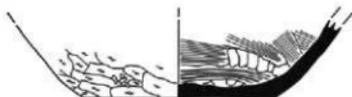
No.274



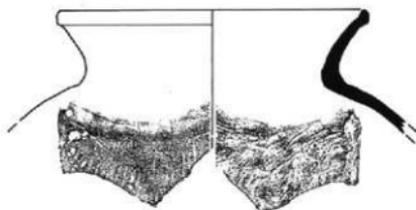
No.275



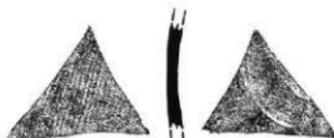
No.276



No.277



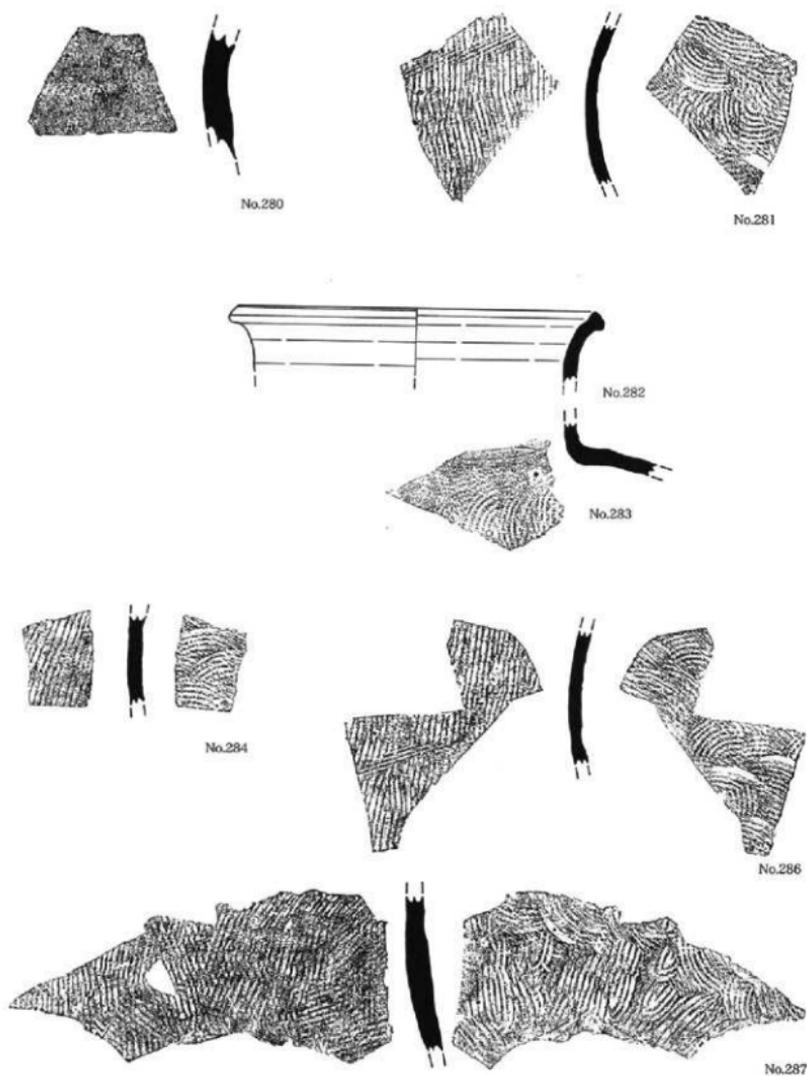
No.278



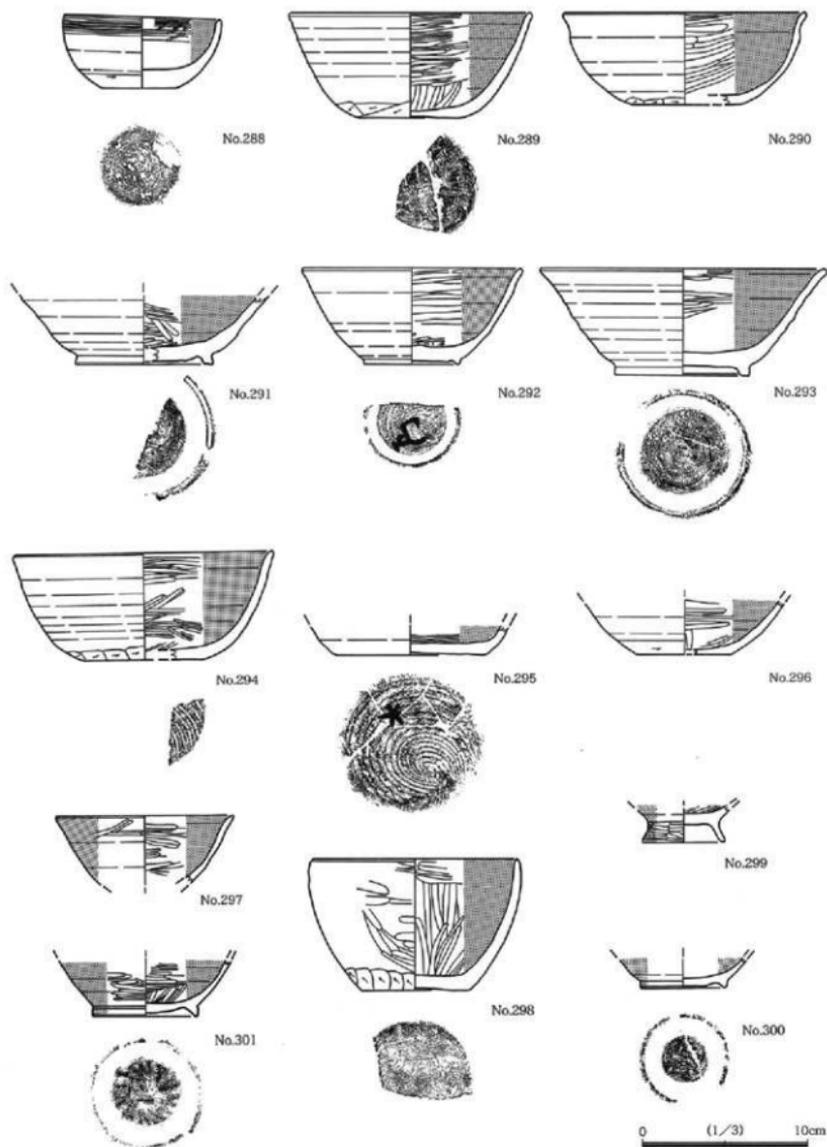
No.279

0 (1/3) 10cm

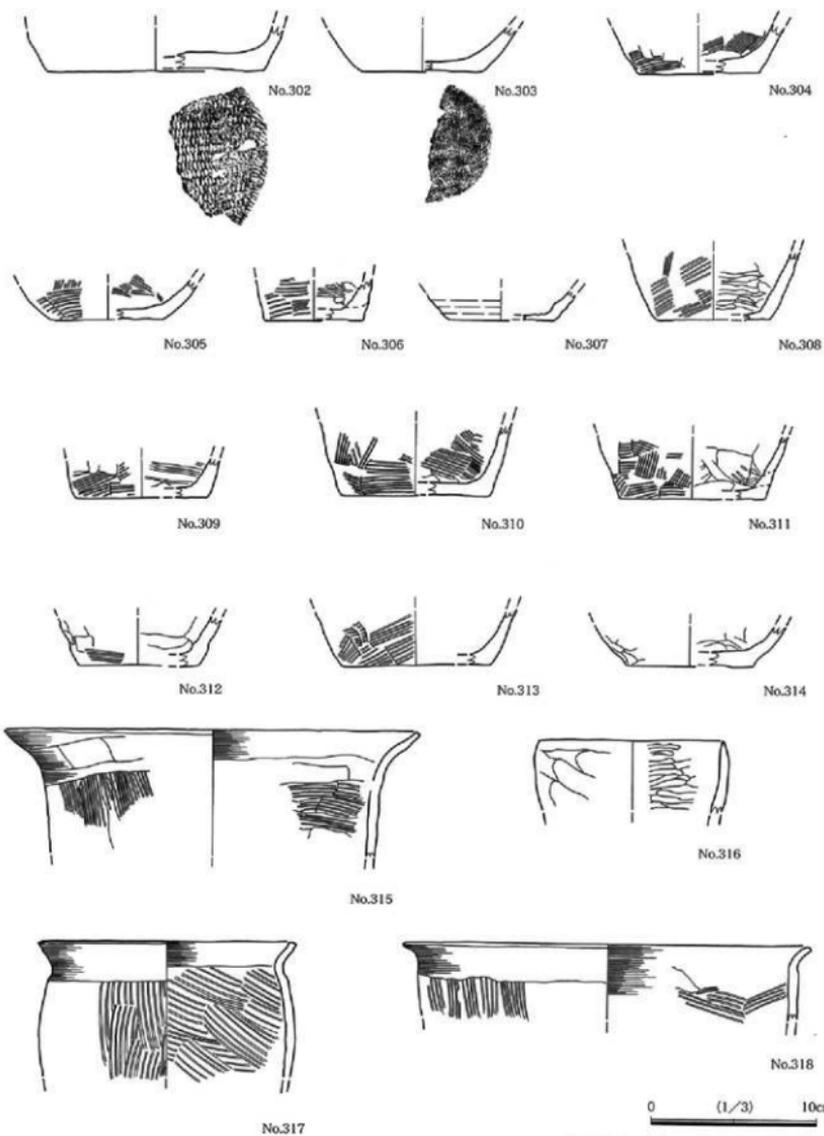
第 52 図 奈良・平安時代出土遺物①



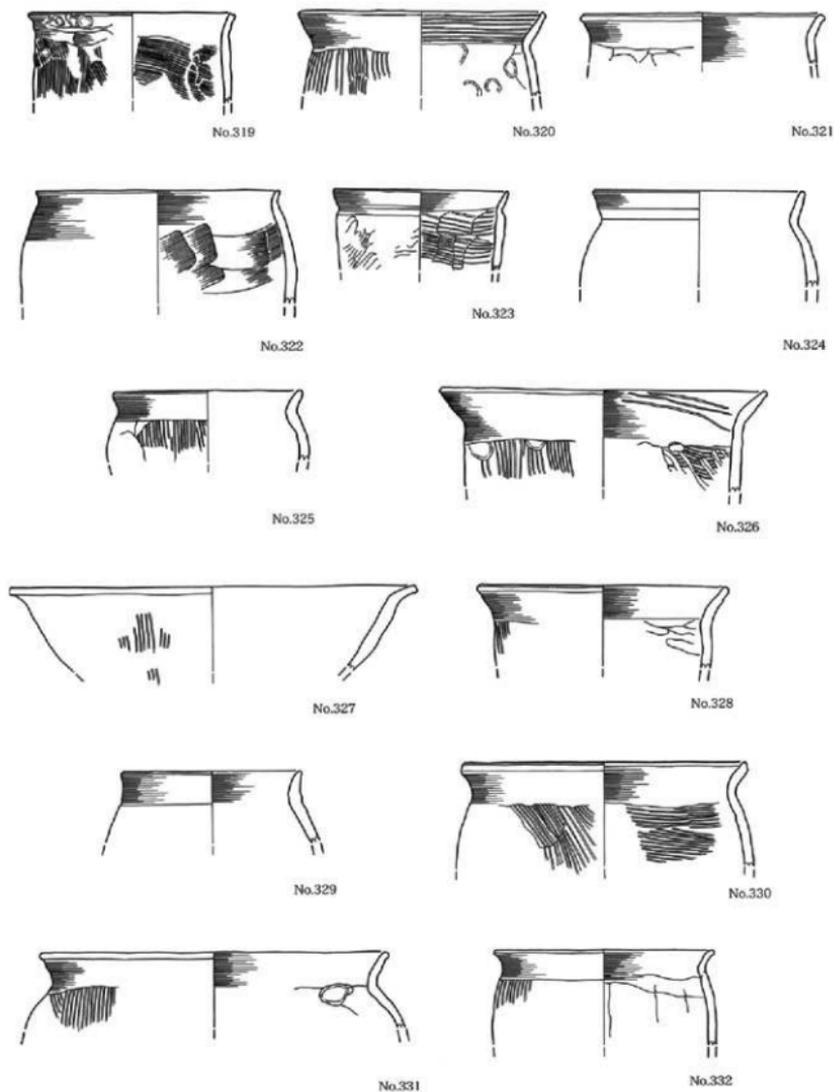
第53図 奈良・平安時代出土遺物②



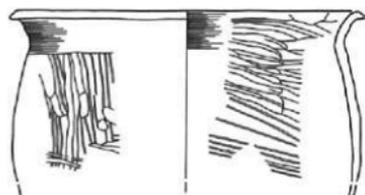
第54図 奈良・平安時代出土遺物③



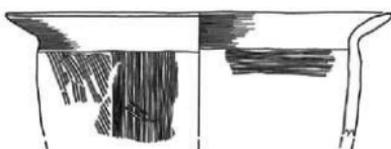
第 55 図 奈良・平安時代出土遺物抄



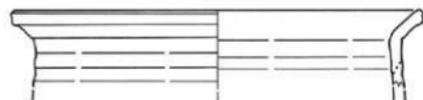
第56図 奈良・平安時代出土遺物⑤



No.333



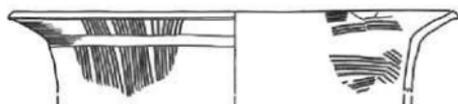
No.334



No.335



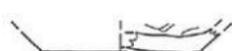
No.336



No.337



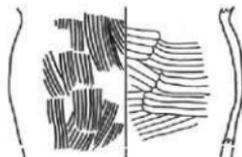
No.338



No.339



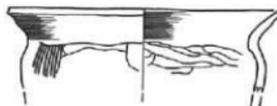
No.340



No.341



No.342



No.343



No.344

0 (1/3) 10cm

第 57 図 奈良・平安時代出土遺物⑥

表9-9 河原田遺跡出土器物種別表

番号	品名	単位	数量	規格(寸)	重量(g)	規格(寸)	重量(g)	備考
83	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
84	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
85	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
86	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
87	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
88	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
89	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
90	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
91	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
92	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
93	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
94	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
95	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
96	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
97	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
98	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
99	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
100	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
101	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
102	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
103	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
104	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
105	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
106	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
107	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
108	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
109	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
110	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
111	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
112	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
113	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
114	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
115	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
116	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
117	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
118	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
119	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
120	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
121	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子
122	土 埴輪(上)	個	1	11.0				内面 有付文(距離7mm)に付文文 内側 下子

III 河原田遺跡

表1-3 遺跡の埋没状況と埋没物目録表①

No.	遺跡	埋没物	埋没層	口部No.	層位No.	埋没No.	埋没品名	品名	埋没品目録表①備考	出土位置(穴/方丈)
227	524	埋没物	埋没層		016C				口部1(南)埋没物、埋没品目録表①(穴/方丈)参照	G-20
228	524	埋没物	埋没層		016C					G-13
229	524	埋没物	埋没層		016C					G-12 F-13
230	524	埋没物	埋没層		016C					G-12
231	524	埋没物	埋没層		016C					F-17
232	524	埋没物	埋没層		016C					H-11
233	524	埋没物	埋没層		016C					H-11、19
234	524	埋没物	埋没層		016C					H-19
235	524	埋没物	埋没層		016C					H-17
236	524	埋没物	埋没層		016C					G-16
237	524	埋没物	埋没層		016C					I-10
238	524	埋没物	埋没層		016C					F-11
239	524	埋没物	埋没層		016C					F-11
240	524	埋没物	埋没層		016C					G-14 H-22 I-22
241	524	埋没物	埋没層		016C					F-9
242	524	埋没物	埋没層		016C					H-17
243	524	埋没物	埋没層		016C					G-14
244	524	埋没物	埋没層		016C					I-14
245	524	埋没物	埋没層		016C					F-11
246	524	埋没物	埋没層		016C					J-19、20
247	524	埋没物	埋没層		016C					F-13

7 まとめ

今回の調査で検出された遺構は、弥生時代では住居跡3棟・墓坑6基・土坑1基・川跡1条、奈良・平安時代では溝跡5条である。以下、時代別にまとめる。

弥生時代

弥生時代の墓坑6基のうち、5基は木棺墓で1基が土器棺墓である。さらに5基の木棺墓は、板状の木質を用いたもの(i類)と、樹皮状の木質を用いたもの(ii類)の2種がある。

東北地方における弥生時代の木棺墓の検出例は、昭和32～34年に調査された仙台市西台畑遺跡について2例目である。西台畑遺跡の調査では、墓坑の底面に長軸方向に沿って黒色有機土が数本延びることが確認されており、報告では「木棺」との断定を避けながらも、「木質様物質の腐朽遺残の可能性もある」とし、「何らかの棺様のもの、乃至は遺骸埋葬装置が用いられたことは明らかであるが特定は困難であった」としている。なおこの墓坑の底面東部からは、成人上顎右の3歯(小臼歯1・大臼歯2)が原位置で発見されている。報告内容から、河原田遺跡のii類に類似するものであったと思われる。また河原田遺跡の南方約1.5kmに位置する江俣遺跡でも木棺墓と思われる遺構が、昭和37年の耕地整理時に不時発見されている。発見者からの聞き取りをまとめた報告によれば、河原田遺跡のii類に類似すると思われる。西台畑遺跡及び江俣遺跡はいずれも弥生時代中期の遺跡であり、少なくとも仙台市周辺及び山形市周辺の平野部においては、木棺墓が弥生時代中期の埋葬形態のひとつとして存在していた可能性が考えられる。

住居跡は3棟検出されたが、山形盆地における弥生時代中期の住居跡の発見例は、山形西高敷地内遺跡について2例目となる。これらの住居跡は、墓坑群を取り囲むようにその周囲に位置する。柱配置には、①主柱を取り巻く円状の柱配置、②中心軸の一端に位置する2本もしくは4本の出入口と想定される柱の存在など、いくつか共通する特徴が認められた。しかし、炉跡や壁面などは検出されなかったため、堅穴住居かどうかは不明である。

出土遺物では、墓坑から土器がまとまって一定量出土し、山形盆地における当該期の土器の様相がより明らかになった。平行沈線文を中心とする文様は、すべて2本線で描かれる。線の幅は多少の広い狭いはあるが、ほぼ2～4mmに収まる。また3～4本といった多線化した平行沈線は見られない。

奈良・平安時代

検出された遺構は、南北に延びる溝跡が5条である。

SD4を中心に多量の土器が出土したが、特に須恵器に多くの墨書が認められた。墨書には複数の文字や記号が確認されたが、特に「水」に似た記号が最も多い。「水」に似た記号の墨書のある土器は、SD4の南半部に集中する傾向を示すが、これは全体的な土器の出土傾向に類似している。

これらの溝跡を北方に延長すると今塚遺跡に至る。今塚遺跡のSD377は南方の調査区外に延びる溝跡で、多量の墨書土器や木簡が出土しているが、あるいはこの溝跡に繋がる可能性も考えられる。いずれにしても二つの遺跡の関連性を考慮する必要がある。

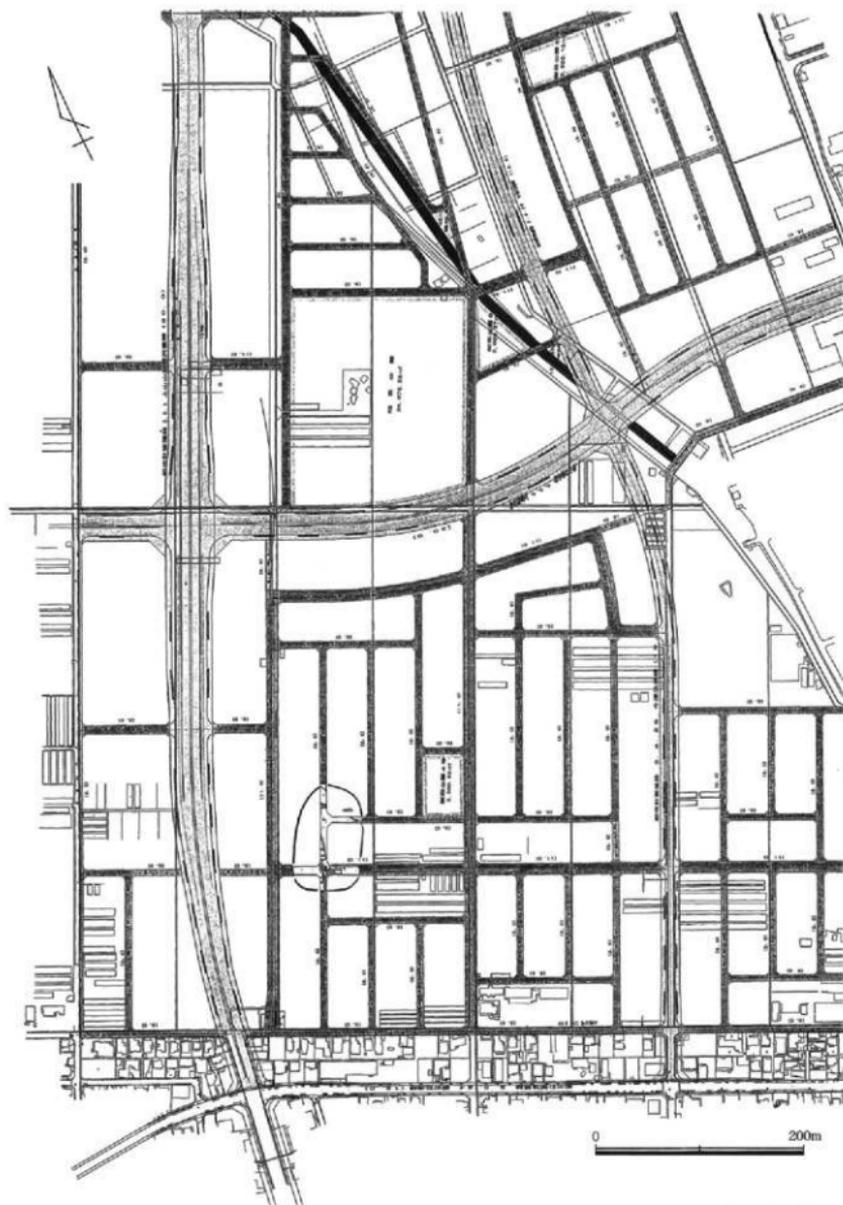
年代的には、8世紀後葉頃のa類が主体を占めるが、9世紀代、及び10世紀前葉にかけてのものも出土している。

IV 梅野木前2遺跡

1 調査の経過

調査区には道路のセンター杭を基準にグリッドを設定し、南北方向に北からA・B・C・・・K、東西方向に西から1・2・3・・・8と付した。なお調査区を小区分し、仮にA～F区と呼称して調査をすすめた。

平成13年10月3日に調査区を設定。同日より重機での表土除去作業を開始し、9日で終了する。11日から遺構面精査を開始。16日、E・F区の中ほどで南北に延びる川跡(SG11)を検出。18日にはA・D区で溝跡(SD3)を検出した。19日から遺構配置図(1/100)の作成を開始した。22日までにA・D区の溝跡を一部掘り下げたところ、ともに覆土中から土師器破片やガマの葉が出土し、一連の溝跡の可能性が生じた。E区では炭化物集中域及び焼土ブロックが検出された。またSG11の精査により、上面でSD8を検出した。24日、D区を東側へ1.5m×6m拡張し、SD3の延長及び火山灰層の面的な広がり の把握に努めた。26日にはD区の北側調査区外に追加トレンチを設定し、SD3の延長を確認した。31日、D区の東壁及び北壁の分層とセクション図を作成。11月1日、E区を精査、SK13を検出。16日午前、古環境研究所によりプラントオパール分析用の試料採取が行われた。20日、古環境研究所によりテフラ分析用の試料採取が行われた。25日、SK13を精査、炭化物の広がりとその立ち上がりを確認、遺物が炭化物層の上面から数点出土した。26日、SK13の平面図を作成し遺物を取り上げた。またSD8の底面上から墨書された完形の須恵器が1点出土した。29日、E区でSB14を検出、平面図を作成。30日、SB14の各柱穴の断面セクション図を作成。12月5日にSB14の柱根を回収し、現場での調査を終了した。



第 58 图 梅野木前 2 遺跡調査区位置图

2 検出された遺構・遺物の概要

調査の結果、古墳時代と平安時代の遺構・遺物を検出した。

古墳時代の遺構は、SB 1 4・SK 1 3・SK 1 5・SD 3及びSG 1 1である。

SG 1 1は南から北に流れる旧河道で、現在も地下水が豊富に流れている。SB 1 4他の遺構はこのSG 1 1の東側のE区で検出された。また遺物のほとんどはE区及びSG 1 1の覆土中から出土した。SG 1 1から東へ約7m離れてSB 1 4が位置する。SB 1 4は、1×1間の打込み柱の建物跡と考えられる。地中に打込まれた柱根を4本検出した。いずれも栗材である。SB 1 4から東に約3mにはSK 1 3、同じく約9mにはSK 1 5が位置する。SK 1 3は下層に炭化物を含み、完形の高坏のほか多くの土器片が出土した。SB 1 4に付属する廃棄土坑的なものと思われる。SK 1 5は、ほぼ完形の大型の壺(37)が単独で出土した。なおE区のV層(古墳時代遺物包含層)から出土する土器はSK 1 3の周辺に集中していることから、カクラン等によりSK 1 3覆土中の土器が散布した可能性が高い。

D区の東部及びA区の中央やや南寄りに位置する溝跡は、一連のものでSD 3とした。遺物は古墳時代の土師器の細片が若干出土する程度である。このSD 3の東側には、ブロック状の火山灰がほぼ水平に堆積する面的な広がりが見出された。当初はこれを十和田a火山灰と想定したが、分析の結果、山形市域では未確認の火山灰との結論を得ている。

平安時代の遺構は、SK 1 2・SD 9及びSD 8で、いずれも古墳時代の遺物包含層を掘り込む形で検出された。概して平安時代の遺構数および遺物の出土量は、古墳時代に比べて少ない。

SD 1・2は遺物を含まないため、所属時期は不明である。

基本層序は、I層が水田耕作土、II層が水田の盤土で、III層は耕地整理前の旧耕作土と思われる。IV層は平安時代の遺物包含層、V層は古墳時代の遺物包含層及び平安時代の遺構確認面で、VI層の上面で古墳時代の遺構が確認された。以下、VII～X層はSB 1 4の柱穴の断ち割りによって確認した層序である。



第59図 梅野木前2遺跡基本層序